建築と社會

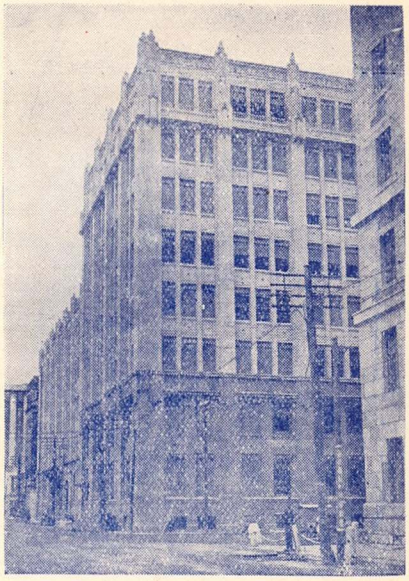
特別記事　懸賞論文・將來の日本の住居・

昭和三年二月一日發行　毎月一日一回發行
（第拾壹輯第貳號）

第十一輯
第二號

日本建築協會
昭和三年二月一日

Tookyoo Mitsui 3 gookwan
Sekkei: Yokogawa Koomusyo.
Sekoo: Simizu Gumi.



Tatemasi no mado 300 kasyo subete N. K. B. Sotohimobiki no *Shutter* wo torituketatokoro, Aketate no tegaruikoto, sukosimo itamanaikoto nado, hokano *Shutter* ni kurabete amarini sugurete irunode odorokarete orimasu.



Goomei Kwaisya Hanken Seisakusyo.
Oosakasi Konohanaku Okizima Kitanotyoo 11.
DENWA: TOSABORI 4020.

Dairiten {Mitui Bussan Kabusiki Kwaisya.
Sanki Koogyoo Kabusiki Kwaisya.

特許第七九三五號（延長許可）外十數件併用

大野式防火捲上ヶ戸

（特許大野式シヤッター）

這般の大震火災に於て兼て御定評を蒙り居り候日常開閉の至便、防火耐熱力優秀にして內外國同種類品中最も御安心相願はれ得可きものなることは左記事實に依り能く之を證明致候

一捲上ヶ戸の閉鎖が咄嗟の間に完全に行はれたること

一戸鈑の連鎖堅牢にして烈火に面したる場所に於ても戸鈑各個の脫落、鎖鎖の破壞を來したるものなかりしこと

一戸鈑と戸鈑との間、戸鈑と溝金との間、上方捲込口煙返し等の密着充分にして間隙を生じたるものなく能く火炎熱風の浸入を阻止し防火の效を奏したること

以上數多の實蹟に徵し更に一段の注意を拂ひ御期待に副ひ可申確信の下に努力罷在候處幸ひ御承認を辱ふし他製品取換の御注文を始め有數建築物の復興工事新建築物防火設備等着々御採用を蒙り居候、何卒多少に拘らず御用命被仰付度奉希候

資合會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地　電話高輪 二二三三 七七五五番

取付員詰所・大阪此花區上福島中二　電話土佐堀二七二五番

建築と社會　第拾壹輯　第二號　目次

口繪

ある建築家の家（配景圖、平面圖）……一
松本禹象氏邸（外觀、應接室一、二）……二
同　（居間の一、二表、玄關）……三
伊藤正文氏邸（外觀の一、二及玄關）……四
同　（平面圖）……五―六
甲東園芝川氏邸（東南姿圖、サンルームとホールの一隅）……七
同　（玄關中庭廻り及ホールと廊下）……八

卷頭

新版大阪圖繪（其の一）……本間乙彦……九
住居とその本質……佳山生……

懸賞論文發表

將來の日本の住宅

懸賞論文『將來の日本の住居』を讀みて……審査員　古宇田實……一〇―一二

講評

審査の後に……審査員　安井武雄……一二―一三
審査感想……審査員　本野精吾……一三

壹等當選論文

……加藤善吉……一四―二三

貳等當選論文

……岸田不元……二三―二九

參等當選論文

……田中進……二九―四八



▼古川柳に現はれたる建築興味と好尚……四九—六六
▼微苦笑……▲ T…三四—三六
△西洋嵐　△超專問家　△泥棒洪水
▼住宅漫言……本間乙彦…四九—五一
△眺める家　△藝術遊戯　△モゲ住宅　△新知識　△動く家
▼建築と社會ニュース……三七—五一
失はれたる南米のユートピア……本間武彦遺稿…五二—六六
—研究記事—
二次率一様ならざる柱を有する小屋組の解法
……大阪橋本組設計部　工學士　石井勇…七一—八〇
▼新刊紹介……八七
▼編輯後記……八八
—畫報—
▼外國新住宅グラフ……一四—一三
▼懸賞募集日暹寺鐘樓、壹等當選圖案……城戸武男……六七
▼同　上……武等當選圖案……山本延次……六八
▼同　上……參等一席、森口三郎、同二席……大原芳知……六九
住友銀行四貫島支店……七〇
富工生命ビルデイング京都支店……八一
大阪ユタカビルデイング……八二
新築紹介
▼社團法人日本建築協會會報……八三

小野田ポルトランドセメント

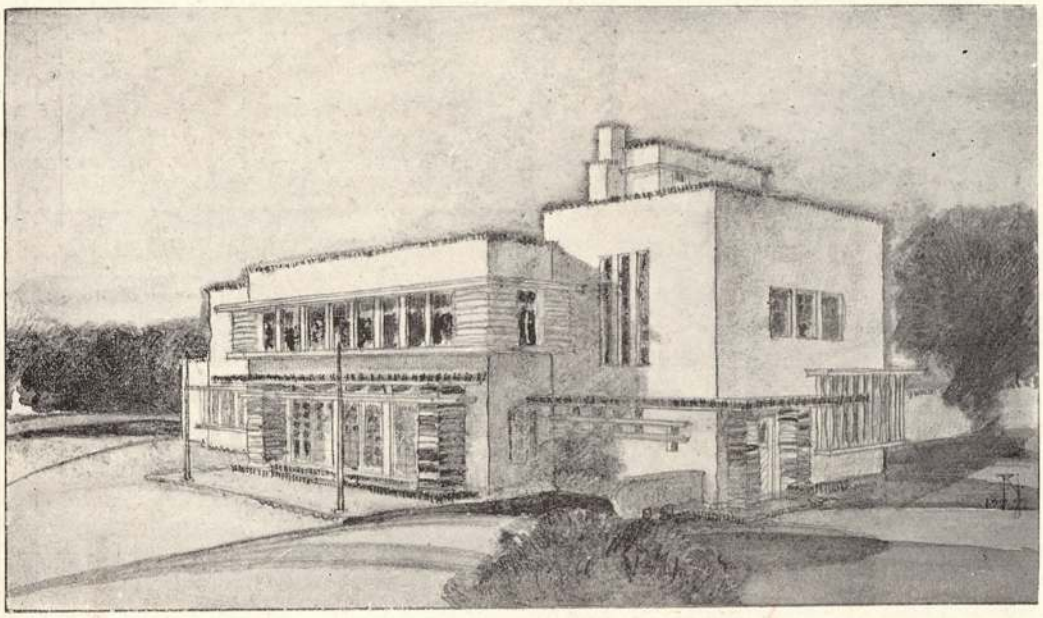
製品均斉・品質高級

小野田白色ポルトランドセメント

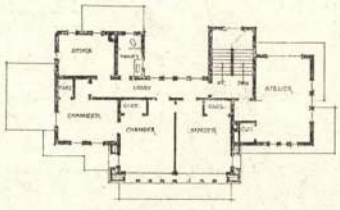
東洋唯一・純白優良

製造元 小野田セメント製造株式會社

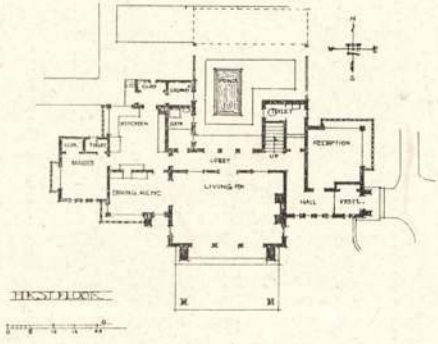
一手販賣 三井物産株式會社



VIEW FROM SOUTH EAST



SECOND FLOOR



FIRST FLOOR

——ある建築家の家——

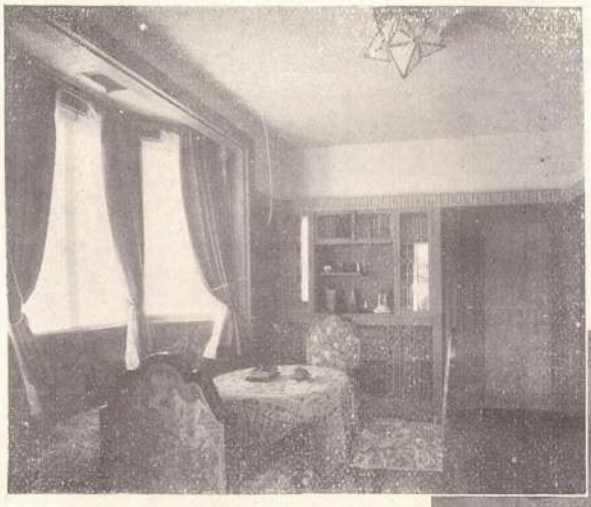


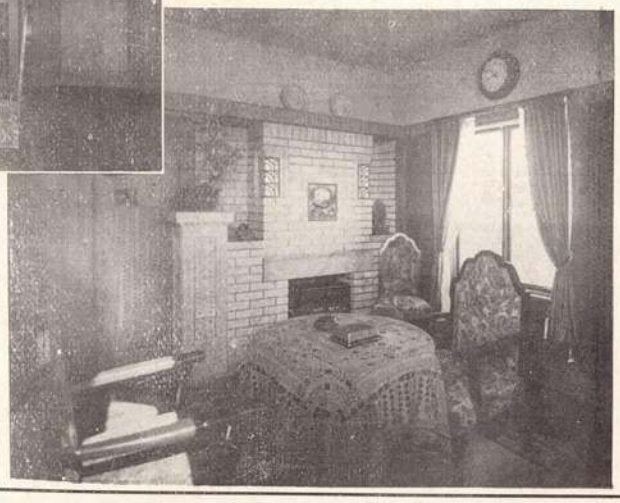
大阪府下池田町・松本禹象氏邸

上・外觀

中・應接室の一

下・應接室の二





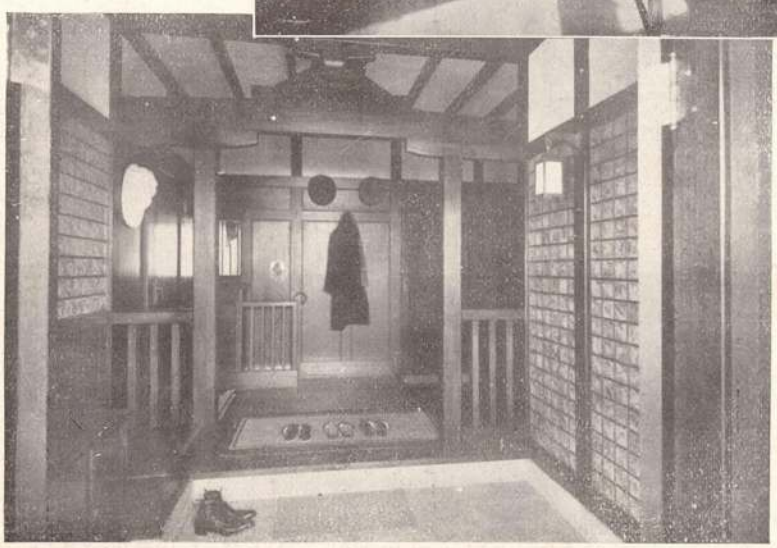


松本禹象氏邸

一の間居



二の間居



玄關表

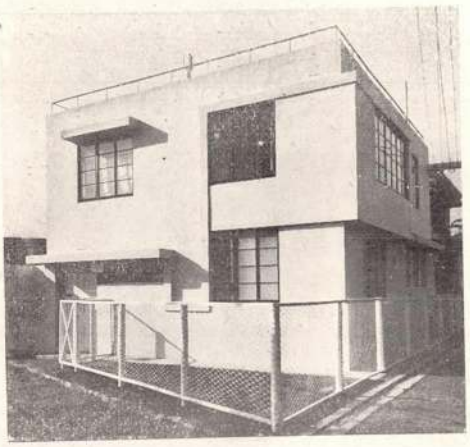


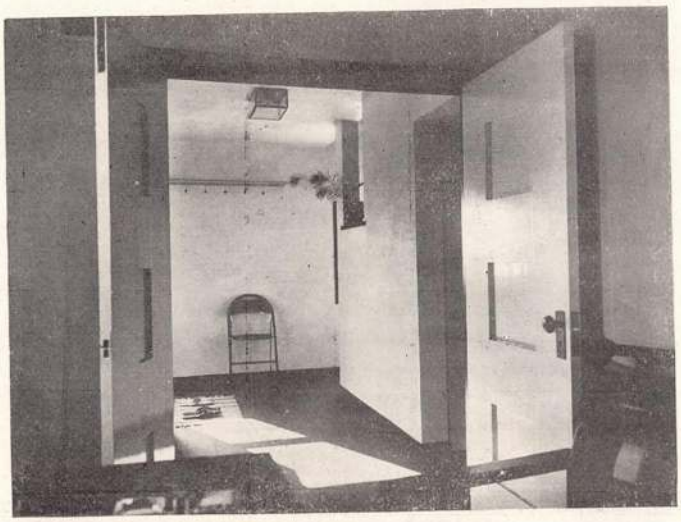
伊藤正文氏邸

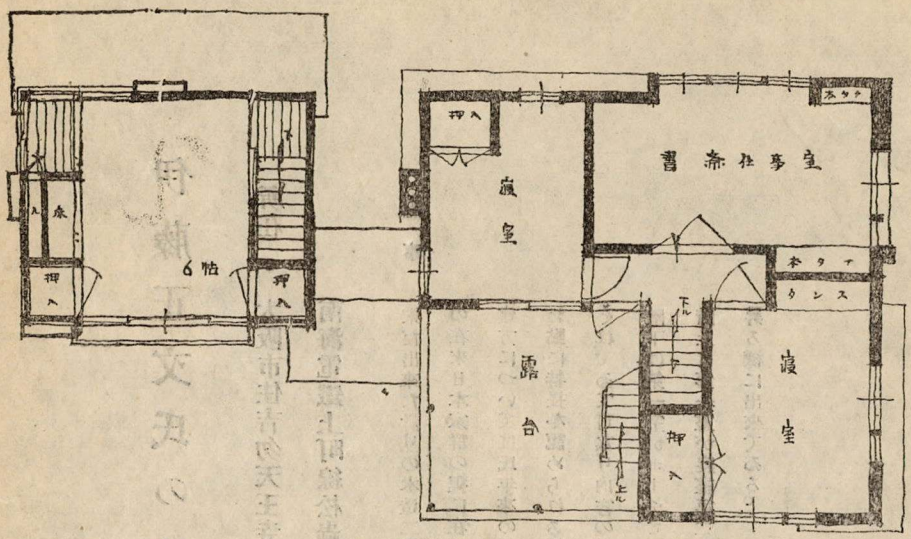
上・外觀の一

中・外觀の二

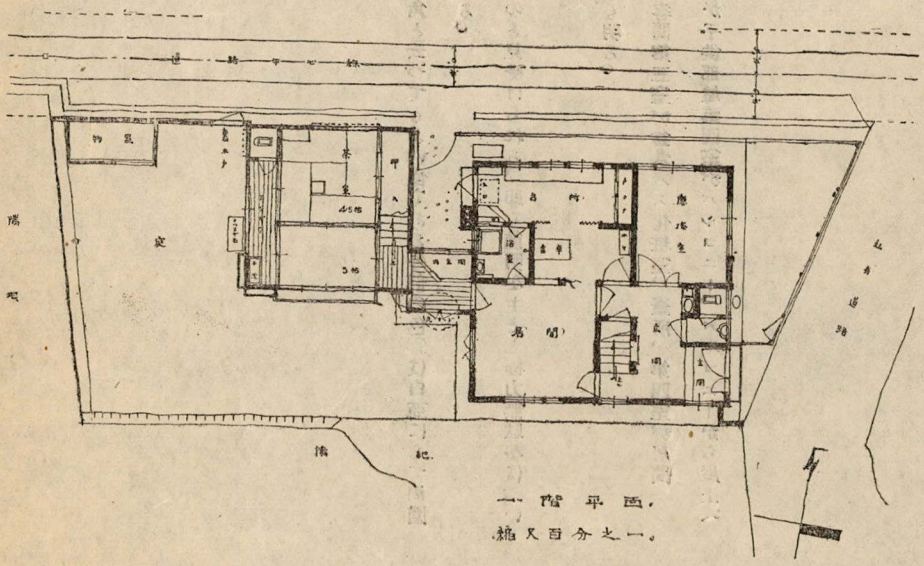
下・玄　　關







二階平面



一階平面。
縮尺百分之一。

伊藤正文氏邸平面圖

伊藤正文氏の住宅

所在・大阪市住吉勿天王寺町一二八一
南海電鐵上町線松蟲停留場西方

記事

未だ出來た計りの木造二階建である、形は眞四角と云つてもよい位である外部の色彩は白亞にして周圍の在來日本家群の裡に在つて一際目立つて見える。

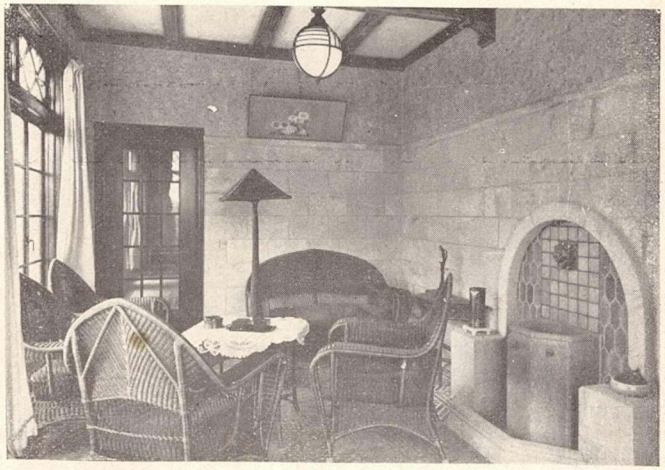
建方については氏年來の主張を表現せられたものと見受けられる、即ち簡明を主とし極力無駄をはぶいた點に特長を認められる。

それであて可なり内容の充實につとめられた事も明る。

階下は第一室がポーチとホールと便所第二室は客間第三室が食堂バス化粧室、臺所、第四室が居間

階上は第一室が寢室第二室がアトリエ、第三室が子供部屋第四室がバルコニー、バルコニーから屋上へ昇る樣に出來てゐる。







所在、兵庫縣川邊郡阪急西寶線

甲東園

芝川又右衞門氏邸宅

廣さ、九十坪九合八勺

内テンス十二坪七合二勺

平家建

記事、安靜なる生活を遂けんが爲の特種邸宅

竣工、昭和二年十二月十五日

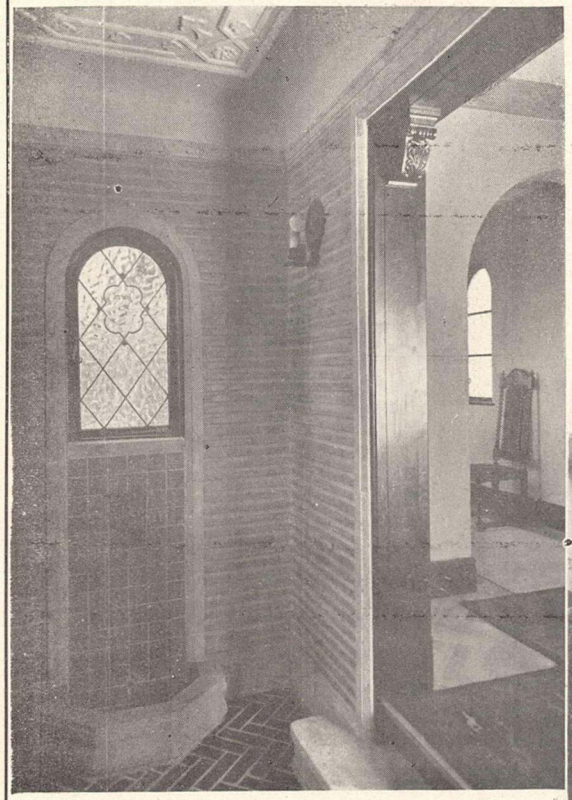
竣工、大林組

右上・サンルーム

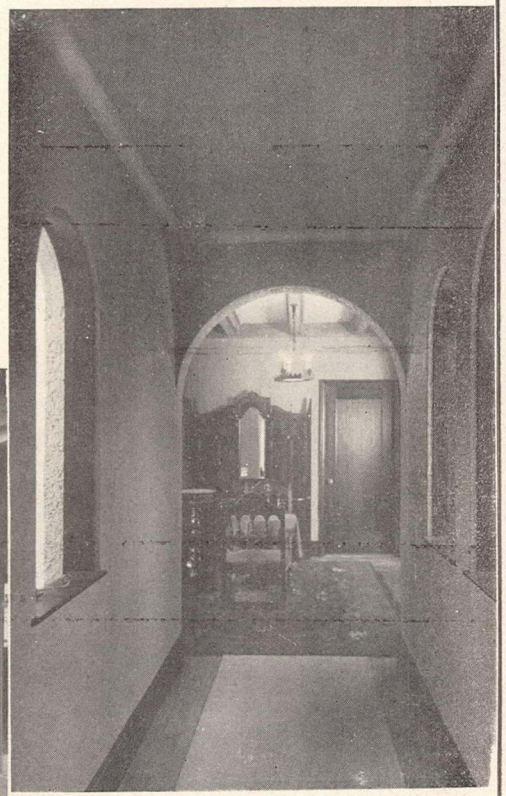
左上・東南[姿

左下・ホールの一隅

邸川芝・園東甲

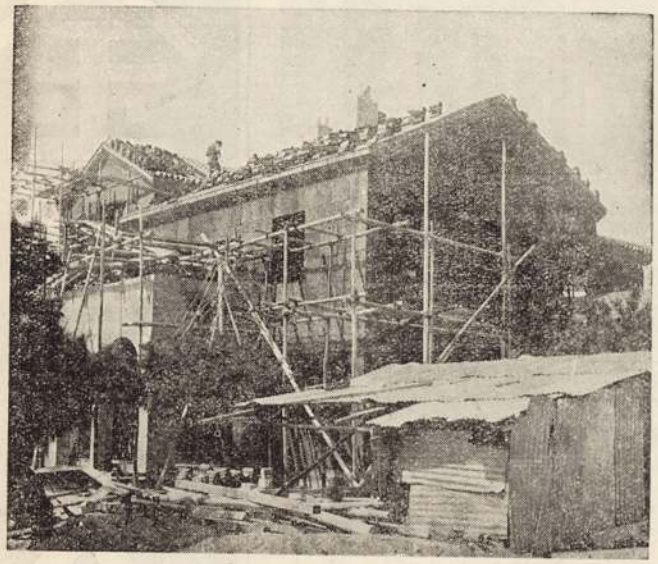






右・ホール及廊下
中・中庭廻り
左・玄關

壓搾コルク



コルク樹皮直輸入並卸販賣
コルク粒並壓搾**コルク**製作
コルクパイプカバアー製作
コルクパッキング製作
コルク栓コルクヂスク製作

熱氣防止ノ點ニ於テハ一吋ノ**コルク**層ハ優ニ二十吋厚ノ煉瓦壁ニ相當ス

壓搾**コルク**及**コルク**粒ハ艦船陸上ノ冷藏庫ハ申スニ及バズ官衙病院ビルヂング及一般住宅ノ屋根壁天井床ニ使用スル完全ナル防暑熱防音材料ニシテ現代ニ於テハ**コルク**層ヲ措キテ他ニ適當ナル熱ノ絶緣材料ナシ

創立明治廿九年

KN 合資會社 **永柳商店**

本店營業部　東京市日本橋區久松町三五　電話長浪花二五七番
本店製造部　東京市日本橋區久松町三五　電話浪花一四六番
壓搾コルク工場　東京府下寺島町曳船驛前　電話墨田一〇〇九番
支店營業部　大阪市東區高麗橋一丁目　電話本局二四四六番　本局四六三一番
支店製造部　大阪市東成區鳴野町御茶屋前　電話東五一四六番
アルゼリア出張所　2,Rue Lestienne, 2, ALGIERS, Algeria, North Africa

◆耐震耐火—品質優良—優美高尚—價格至廉◆

金屬天井



金屬天井御採用の三菱銀行東京本店

◆田村商會創始
◆參拾五年經驗
◆施工全部請負
◆特殊圖案製作

營業種目

◆建築材料部
▲金屬天井
▲リブプレツクス（リブラス）
▲コーナービード
▲内外メタルラス
▲タイガーボード（耐火石膏板紙）
▲舶來ウオールボード各種
▲ルーフキング（便利瓦）
▲アスファルトフェルト
▲其他建築材料一般

◆木材部
▲米材各種
▲チーク材
▲ラワン材
▲床板各種

◆穀類部
▲内外小麥粉
▲内外麩
▲内外米

◆工業部
▲製粉工場
▲製米工場
▲金屬飯工場

型錄進呈

田村商會

本店
神戸市榮町六丁目
電話元町（五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五）

支店
大阪市西區靱上通り一丁目
電話土佐堀（六八八〇、六八八一）
東京市日本橋區元四日市町
電話大手（三七〇五、六三六〇、四六七一、二五二六）
横濱市濱町一丁目
電話長者町 二五四〇
北米晩香坡市ダンレピー街
電話 八八一

工場
神戸市兵庫新川
電話兵庫（九一、二四〇三、二四四、六四〇）

AMERICAN RADIATOR COMPANY
NATIONAL RADIATOR COMPANY

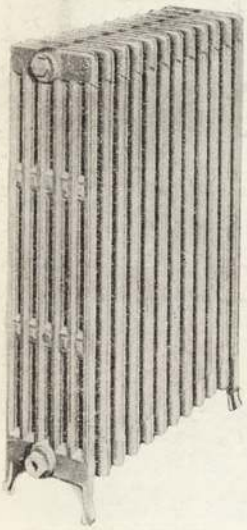
（型錄在庫表進呈）

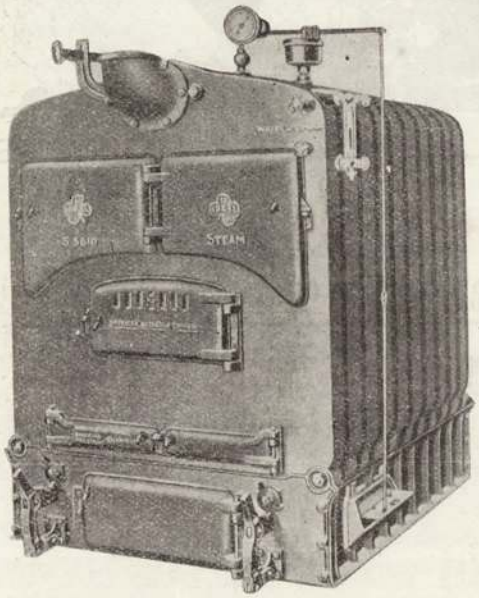
アメリカンラヂエーター會社製
ナショナルラヂエーター會社製

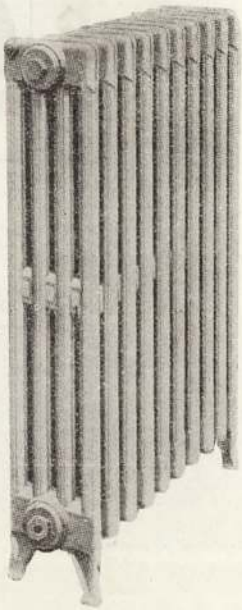
暖房用放熱器汽罐

各種並ニ附屬品一式

（在庫豊富）







Ideal Classic
Six Column Radiator
Patent No. 2489/1914

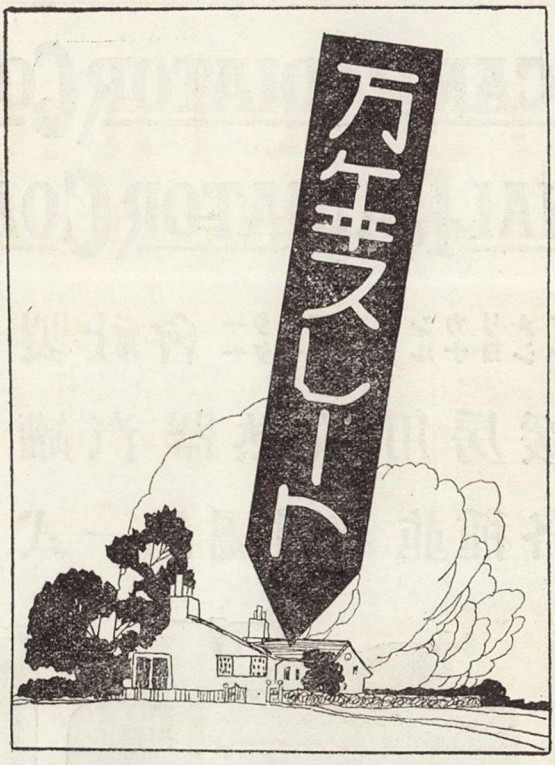
36″ Ideal Water Tube Boiler

Ideal Classic
Four Column Radiator
Patent No. 2489/1914

日本總代理店

大倉商事株式會社

東京銀座　大阪北濱



石綿**セメント**製……**スレート**と壁板

斯界に一新紀元を畫する……

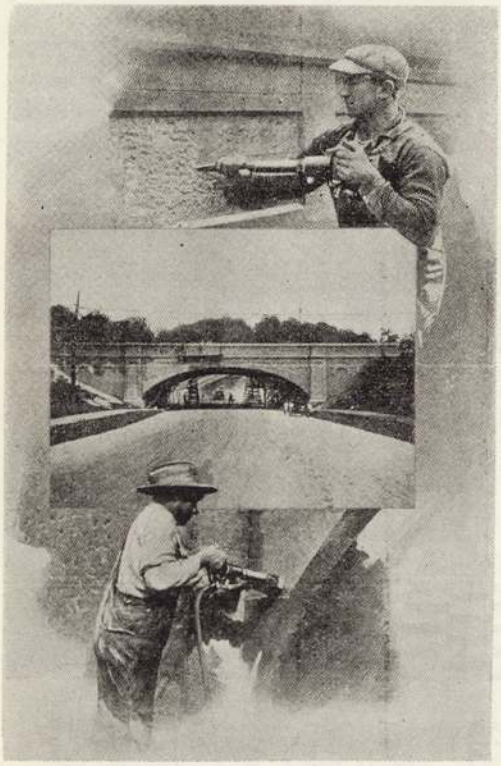
品　質　卓　絶
絶　對　低　廉
在　庫　豊　富

万年スレート株式會社

大阪市西區新町南通三丁目

電話新町四〇七〇番

Cleveland
Pneumatic Tools



コンクリート面を美
しく仕上る爲めに
"**クリブランド**"
コンクリート ハンマー
を御使用下さい.

クリブランド リベッテング ハンマー
クリブランド チピング ハンマー
各種**エアー ドリル, グラインダー**
ランマー外各種 **エアー ツール**







クリブランド ニューマチツク ツール會社製各種**ツール**は, 各優秀なる美點を具備して, 斯界に卓越せる能力を認められ名聲を博しつゝありますが, 特に僅少の空氣を使用して最大の力を出す事及スピードの速い點であります, 堅牢無比, 經濟的の**ツール**であります.

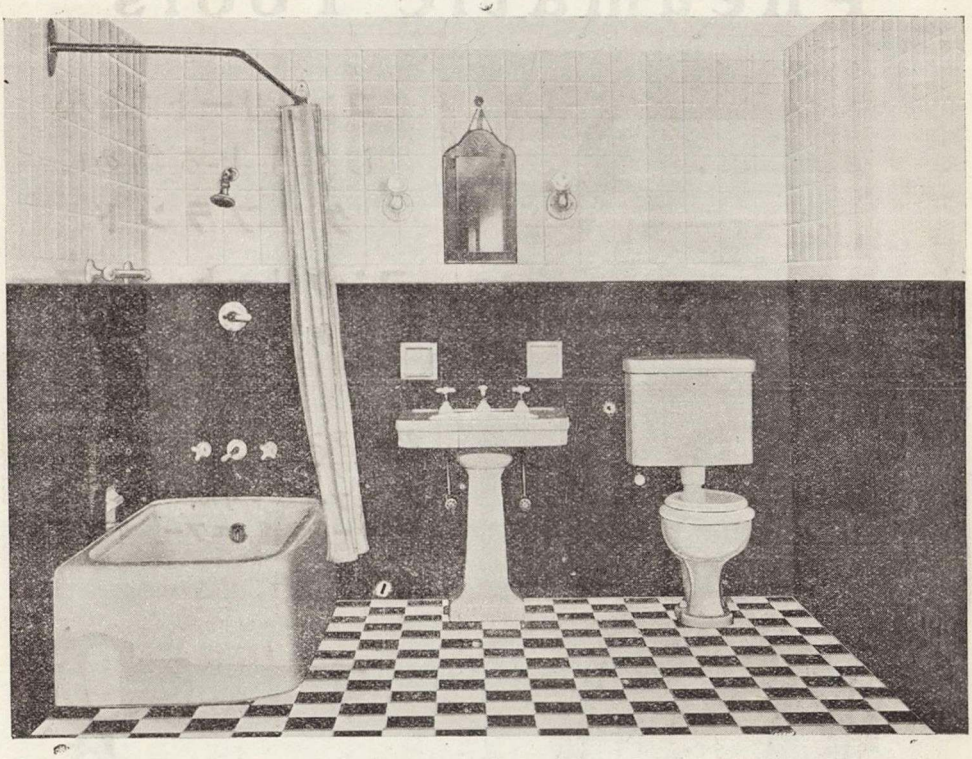
東洋總代理店

株式會社 **アンドリユウス商會**

本 店 東京市芝區芝公園五號地(御成門筋)
支 店 大阪市西區江戸堀南通三ノ十八

名古屋・小 倉・札 幌・京 城・大 連・紐 育

SANI ONYX
サニオニクス



化粧室◇浴室◇洗面所◇便所◇台所◇食堂

サニオニクスは現代的グラス体の貼瓦材にして従来のビトロライトより遙かに優秀且つ堅牢にて表面は一様に清洒ある光澤と平滑さとを有し永久に汚染腐蝕変質せず且つ温度湿気塩分其の他如何ある薬品に犯さる事絶對になき特徴を有し現代建築界の必需品なり。

色合……白・黒・緑・青・灰色・アイボリー

カタログ サンプル贈呈

サニオニクス日本總代理店
大阪市南區瓦屋町三番丁
別府商店
電話南{九〇六〇 五一八八}番

発賣店 硝子店 著名なる各都市の

青寫眞

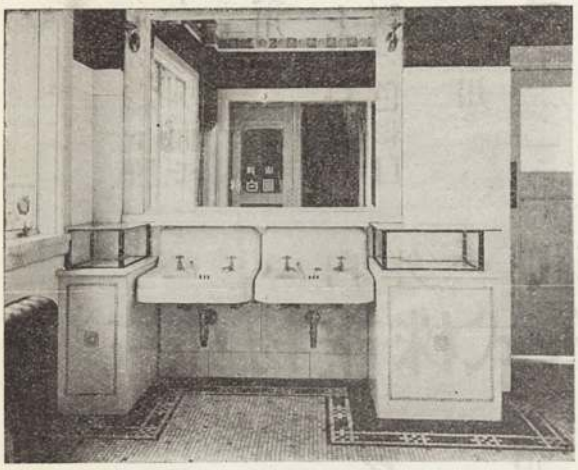
▲晴雨を不論夜間にても燒付得る
▲燒付に乾燥凡てを電氣應用
▲集配は最も敏速を期す

青寫眞
トレース
書類複寫
感光紙販賣

大阪市此花區今開町一丁目四九

河村青寫眞調製所

電話長土三七四二



便所…化粧室…湯殿

ビトロライトは永久に、汚染、腐蝕變質、クラック等の憂は絶對にないと云ふ理想的の貼瓦材であります。これを便所に使用してはじめて衛生的と云ひ得るものではないでせうか

ビトロライトの大きさ
3尺×6尺
色合…白、黒、アイボリー、ジヌイト

大阪市浪速區櫻川町一丁目一〇五四番地

大阪ビトロライト工事合資會社

電話櫻川二二一四番

出張所　東京市京橋區本材木町一丁目二三　電話日本橋(24)〇九六九番

國產ソリデチツト應用
建築材料の出現

「型錄進呈」

ソリデチット タイル
陶器ノ追從シ得ザル色彩ト雅味ヲ有シ頗ル堅牢ニシテ而モ價格低廉ナリ
用途、室內及外裝用

ソリデチット 安全壁
日本壁及西洋壁ノ上塗料トシテ吸水尠ク頗ル强靱、色彩自由ナリ
用途、外裝及室內水場用

ソリデチット スタイン
外裝用トシテ獨逸「リシン」ニ比シ吸水絕無體裁佳良、價格亦極メテ低廉ナリ

ヒノデリユーム 鋪床料
床張用トシテ「リノリユーム」ニ比シ低廉、品質在來品ト異ナリ絕體ニ龜裂無ク且ツ濕分ヲ生セズ
用途應接室廊下及一般床敷用

「特約販賣店募集」

內外一手販賣元

三井物產株式會社大阪支店

製造元

日本化學產業株式會社

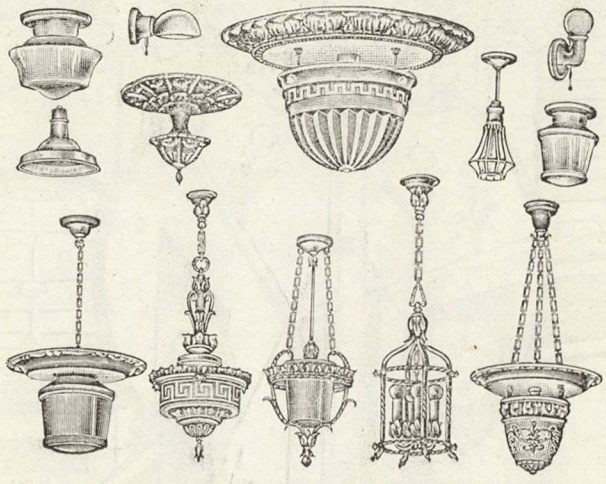
大阪市西區南堀江通三丁目四三

電話櫻川 一四五四 三八七一番

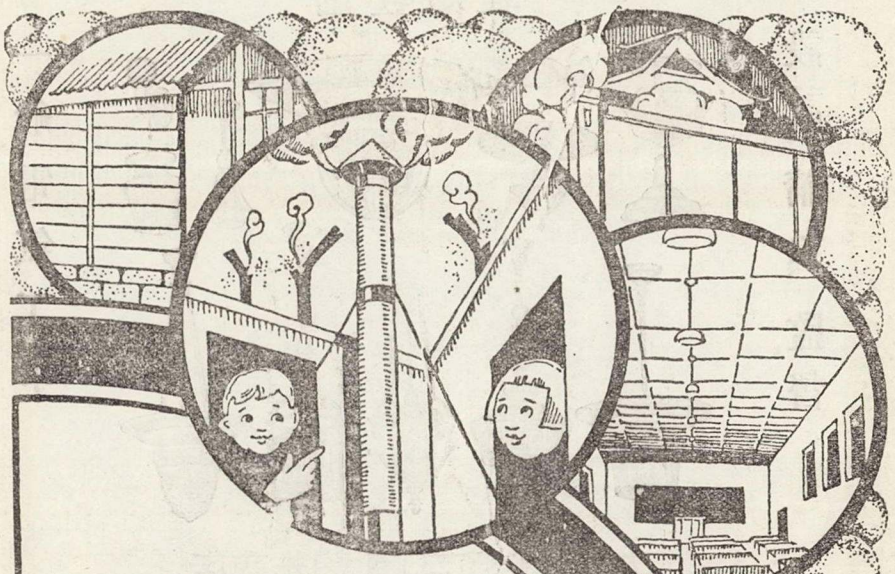
一般電氣工事

設計、請負、監督

最新式高級電燈器具
豐富在庫



大阪市南本町四丁目 駒井商店



淺野煙突

石綿セメント製でありますから
燒けません・錆びません・腐りません

淺野壁板

強靱の石綿纖維と純良のセメントが主要
原料ですから石膏紙板のやうに濕潤する
ことなく日本壁のやうに剝落することが
ありません、下見・内壁・天井・間仕切・塀
等に用ひて誠に比類なき適品であります

長……六尺
幅……三尺 四尺
厚……一分五厘 二分以上

淺野スレート株式會社

東京	大阪	門司	札幌
東京市深川區三十間堀三丁目三	大阪市北區曾根崎新地三	門司市白木崎	札幌市北一條東四丁目
電話銀座 1860 1861 1862	電話北 5081 5082	電話 1931 1228	電話 598
振替口座東京 68000	振替口座大阪 78246	振替口座福岡 10964	振替口座小樽 5864

日本ペイント

創業明治十四年

資本金五百萬圓

大阪　東京

櫻印

コンクリートペイント

本品は近代建築様式の變化に伴ひ其必要に應ずべく製造販出せるものにして　コンクリート建造物の欠點たる水分の吸收を防ぎ且つ美觀を呈せしむるを目的としたるものなり　其特長は

一　アルカリに對する抵抗力至大なる事

二　耐水性にして水分の浸透を防止する事

三　天候風雨等の諸作用に對し耐力あり長く其効果を保つこと

普通ペイントにては此場合セメント成分中のアルカリと一種の化學作用を起して完全に塗裏の目的を達するを得ず　本品は全然これに對する要件を具備しコンクリート　セメント　モルタル　漆喰等に使用して十分の効果を現はすものなり

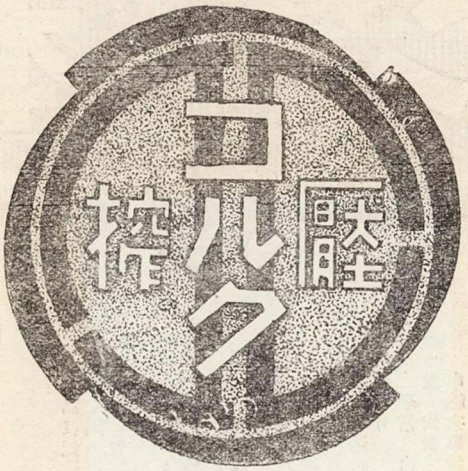
平常　白　鼠　卵　桃　青　茶褐の六色を用意し尚貴需により調製す詳細なる使用法は御申越次第送呈致すべし



冷藏防熱用（製産高工場設備）東洋第一位!!

住宅敷物用、リノリユーム下敷用

炭化コルク

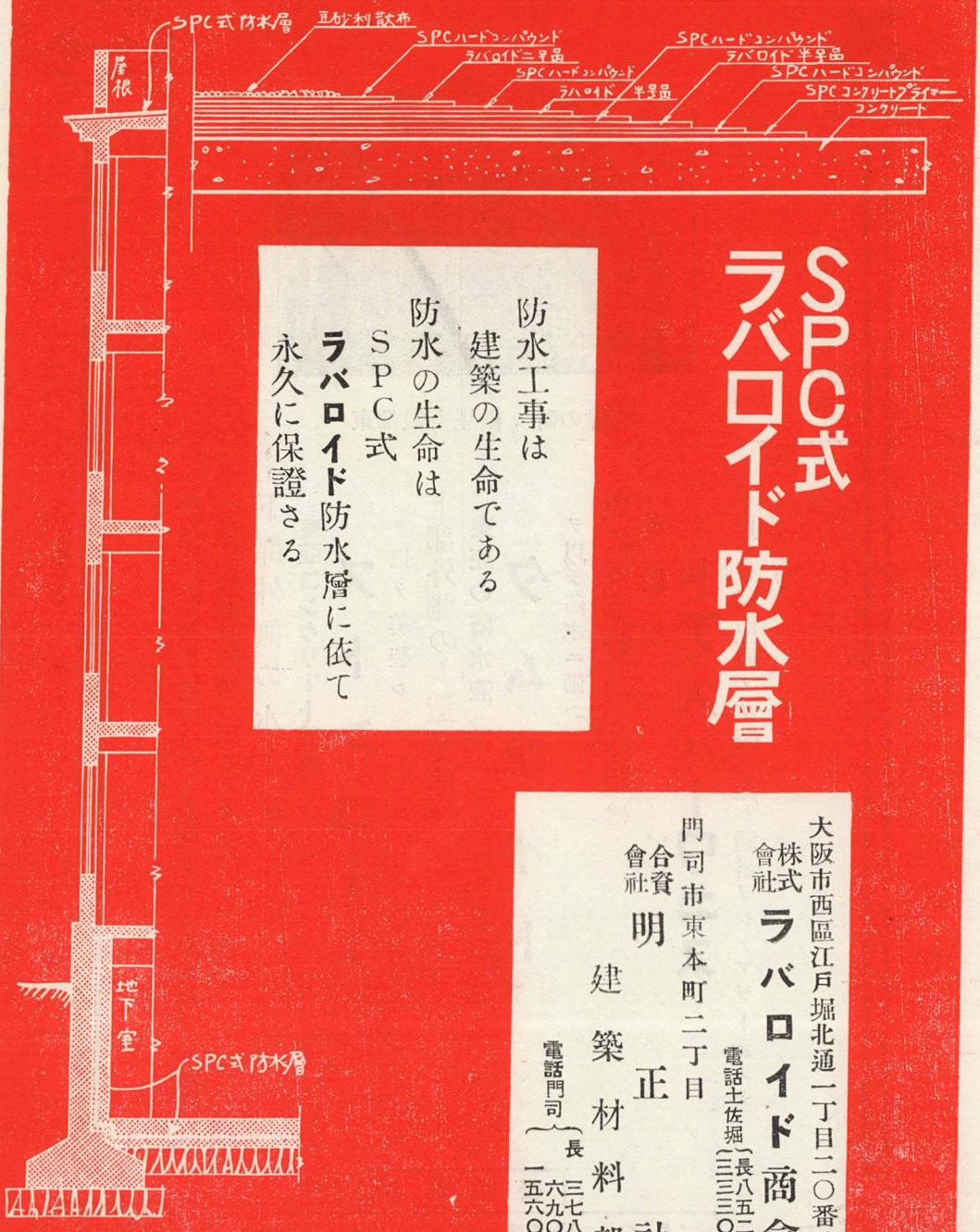


東洋工業株式會社
コルク部

本社及工場　廣島市吉島町
電特長一七九二

大阪出張所　大阪市北區堂島濱通一丁目百十番地
電話北一三八九

東京出張所　東京市神田區豐島町七番地
電浪花八五三番

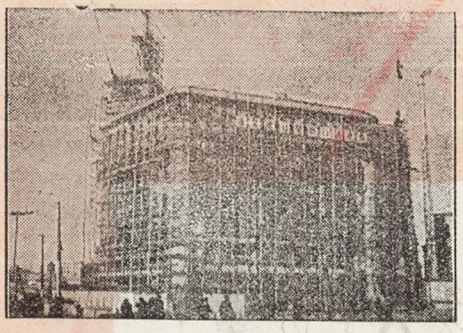


SPC式 ラバロイド防水層

防水工事は
建築の生命である
防水の生命は
SPC式
ラバロイド防水層に依て
永久に保證さる

大阪市西區江戸堀北通一丁目二〇番地
株式會社 **ラバロイド商會**
電話土佐堀（長八五二番 二三三三〇番

門司市東本町二丁目
合資會社 **明正社**
建築材料部
電話門司（長三七八番 六九〇番 一五六〇番



東都數寄屋橋々畔の偉觀

東京京橋區數寄屋橋々畔ニ新築サレタ東京朝日ノ新館ハ其ノ建材外觀總テ新ラシキモノデアルガ

下部外側の水色は
東亞コンクリート塗料
ストンコート
ヲ以テ美裝シ

上部外側の人造石面は
東亞の防水液
ダムタイト
ヲ以テ防水ニ備へ

更に外部各所の蛇腹は
東亞の
トア・スパーワニス
ヲ以テ美麗堅固ノ塗裝ヲ施シ識者ヲシテアット云ハセツツアリ

營 古河經

東亞ペイント株式會社

NIPPON ELEVATOR CO.



營業科目

一般輸送機械
ホイスト
ロープホーレージ
エスカレーター
ケーブルカー
コンベヤー各種
エレベーター各種
設計製作

大阪市東區中道川西町

日本エレベーター製造株式會社

電話東 2367 . 3805 . 5642 番

取締役社長 工學博士 片岡安

專務取締役 工學博士 堀覺太郎

東京支店

東京驛前丸ノ内ビルディング四階

電話丸ノ内 (23) 3073 . 3074 番

專賣特許 東松式外二拾四件


株式
ガスレンヂ
専門製作
日本鐵扉製作所
鐵扉
東京都大田区南沼町
電話大森二七八番

TRADE MARK 富士印

大阪高等工業學校教授
横内榮作先生御推奨

セメント防水劑 エキタイト

現今**セメント**防水劑も同種類のものも相當ありますが何れも用途に依つて多少の適不適があり且價格が一般に高價でありますから使用量を手控へらるる爲充分な防水能力を認められない場合も見受けます弊店では多年防水劑の製造に從事し其研究になる製品を以て各建築物各業者の御使用を願ひ優秀なる品質は已に實績により認めて頂いて居りますが今回價格に對し大量生産に依る統一せるより良き製品をより安く提供す可く防水劑界の革命的安價で需要家諸彦の御引立を御願する次第であります。

◇外に急結**エキタイト**塗布**エキタイト**あり見本進呈

TRADE MARK 富士印

セメント着色劑（絕對變色セヌ）

英國製 パーフエクチン

本劑は**セメント**及石灰の着色劑にして在來の顏料又は黃土其他の着色物と異り配合量少なき爲**セメント**の効力を弱めず且つ日光風雨の爲變色する虞れなく左記の場合の着色劑として最も適當した嶄新なる材料ですから御試驗の上多少に不拘御用命願います。

ソレヂツト、ドロマイト、プラスターの着色用
一般コンクリートの上塗……目下黃色又は橙色を一番多く御使用になります
室內又は陳列臺の腰張……綠、青、黃、褐色が適當してゐます
浴場便所等のタイルの代用……綠、小豆色が喜ばれます
リノリウーム代用床漆喰の着色……赤、黑、小豆色が歡迎されます
辨柄の代用として……少量の赤色にして鮮麗なる赤が出來ます
寒水石、サヒ石、瀧山等の洗出仕上、研出し又は人造石
セメント瓦及**タイル**着色用……としては特に適當した格安品が有ります

見本及型錄進呈
地方特約店募集

着色劑「パーフエクチン」輸入發賣元
防水劑「エキタイト」製造發賣元

大阪市東區備後町一丁目
灰久本店
電話南二百五十三番

酸化鐵

『チヨコレート色』

◆辨柄。黑

◆綠。黃

用途

鋪床・壁塗用
スレート用
セメント瓦用
タイル用
各種塗料用
建築材料用

合資會社 **東洋鑛粉所**

大阪市西成區津守町六壹壹
電話櫻川四二四六番

東京營業所
東京府下淀橋町角筈六六八
電話四谷七八六番



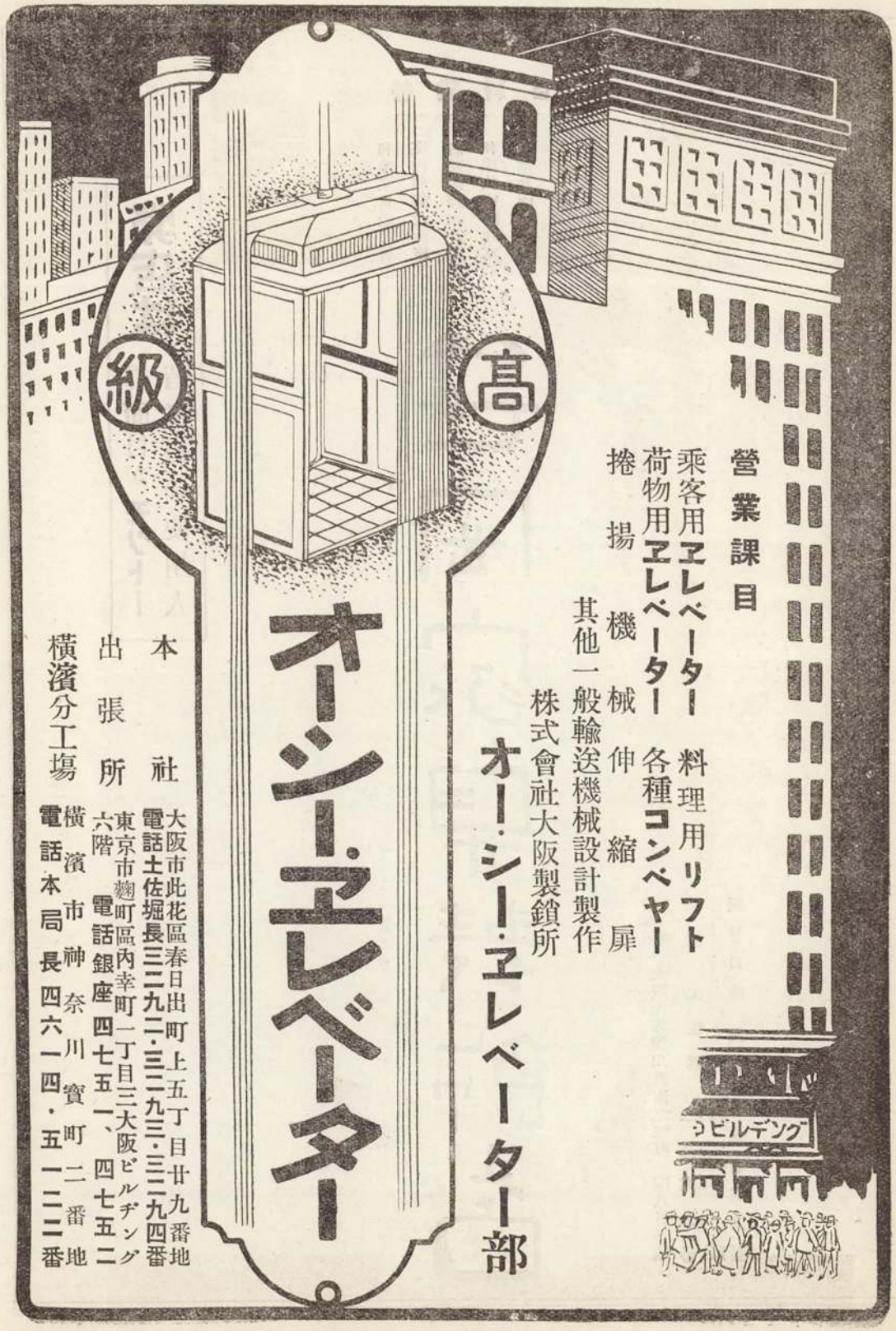
弊店は 眞面目が**モットー**
皆様方の使用人

營業科目

和洋家具設計製作
室內裝飾設計施工
店頭裝飾設計施工
和洋住宅設計施工
圖案及廣告看板
其他一般木材加工

世岡家具裝飾店

營業所
工場　大阪市西淀川區海老江町一四八五番地
電話　土佐堀二九六九番
　　ヲクロク福祿
振替口座　大阪七九七三三番



營業課目

乘客用エレベーター　料理用リフト
荷物用エレベーター　各種コンベヤー
捲揚機　械伸縮扉
其他一般輸送機械設計製作

株式會社大阪製鎖所
オー・シー・エレベーター部

本社　大阪市此花區春日出町上五丁目廿九番地
電話土佐堀長三二九二・三二九三・三二九四番

出張所　東京市麹町區内幸町一丁目三大阪ビルヂング六階
電話銀座四七五一、四七五二

横濱分工場　横濱市神奈川寶町二番地
電話本局長四六一四・五一二二番

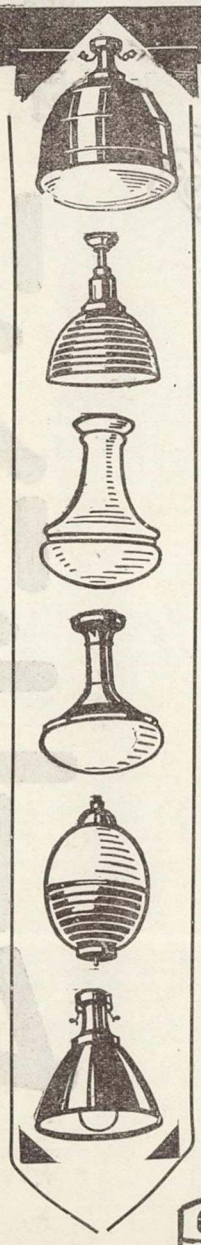
ZEISS

ツアイス照明燈

本燈ニハ各方面ノ使途ニ順應セル種々ノ照明燈型豊富ニアルタメ照明工業ノ各要求ニ對シ理想的使命ヲ果タス照明燈ヲ應用スルコトハ畢竟僅少ノ電流ヲ消費シ而モ最大ノ光源ヲ得ルコトヲ意味ス据付ニ大イナル費用ト時間ヲ要セズ故ニ是非一度御試用ヲ乞フ

本燈ハ飾窓、販賣場、事務室、アテリエー、製作場、街路ノ外燈、工場中庭等ノ照明燈トシテ最適良品ナリ

照明燈型錄御希望ノ方ハ Bel 12 附記直接弊社又ハ大阪府副代理者大發事務所大阪市京町堀通一丁目ニ御報次第進呈



CARL ZEISS
JENA

東京丸ノ内日本郵船ビルデイング七階

カールツアイス株式會社

電話丸ノ内局 三〇六五番 三〇六六番

理想的
床敷材

リノリユーム

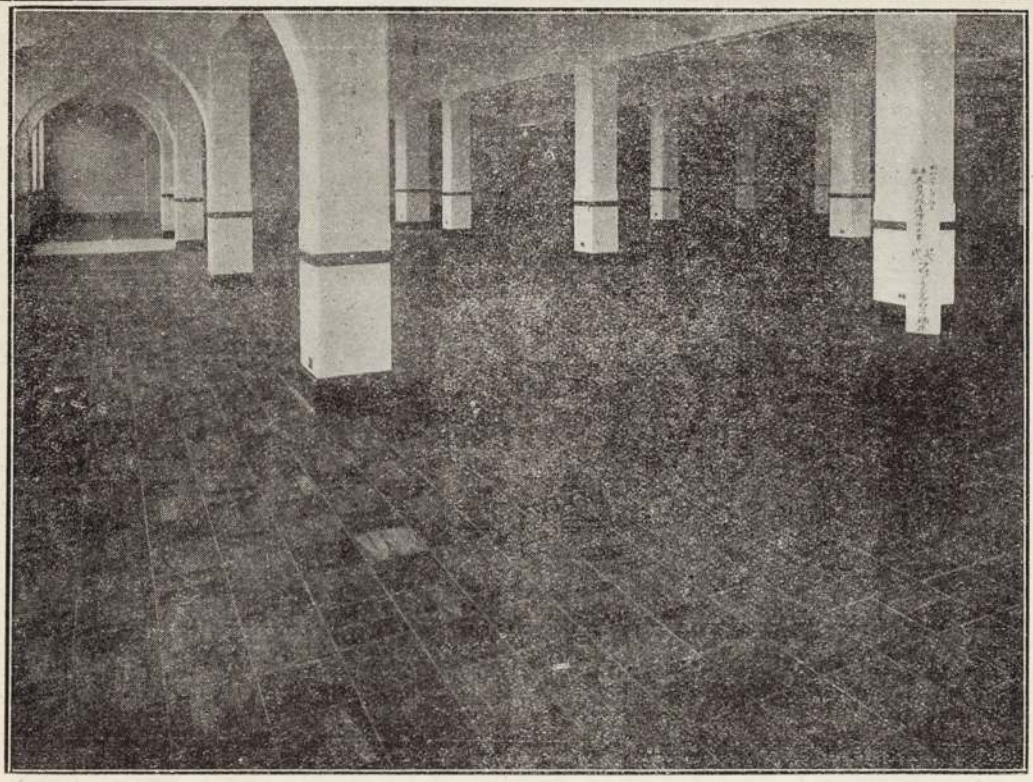


東洋リノリユーム株式會社

營業所　大阪市東區瓦町二山口ビル四階

電話本局二〇六〇番
三九一〇番

年額百五十萬平方碼



京都　大丸呉服店増築工事　　葵式フローリングブロック舗床

衛生工事

特許葵式浄化裝置
水道、衛生工事
タイル、衛生陶器

寶剝 檜床板

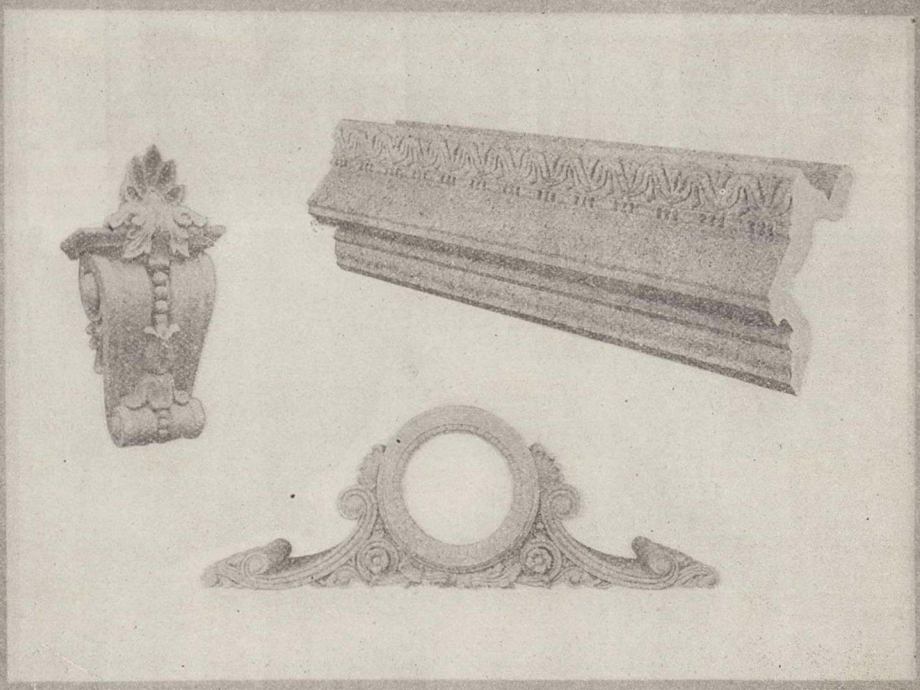
特許ピトリウム床
特許ピトチック内外壁
葵式人造大理石

特許專賣 練革床

葵式フロリングブロック
各種寄木張床
堅木乾燥材挽立

葵商會

大阪市港區境川町四丁目四十番地　電西(長)四一九六
東京營業所　東京市京橋區木挽町一ノ一三　電銀座(57)七八七・七二三〇



特許中村式グラニット

特許中村式グラニットの特徴

色合石理ハ眞ニ天然石カト見ラルル迄テ巧妙ニ作製致シテアリマス

型狀ハ如何ニ纖細美妙ヲ極メタル裝飾物ニテモ其ノ意匠計畫ハ遺憾ナク表現サレテ居マス

肌合ハビシヤン、小叩、研出等其他如何樣ニモ製作致シマス

製產能率ハ東京大阪兩工場ニテ一ケ月三萬七千平方尺ノ能率ヲ上ゲテ居リマス

耐火度攝氏1,410度 吸水量二十四時間後0.57%

最近御指定ノ光榮ニ浴セル十大建築物

(御指定事務所)	(施工建築物)
辰野葛西事務所	盛岡貯蓄銀行本店
佐藤建築事務所	農工銀行本店
設樂建築事務所	江商ビルデイング
片岡建築事務所	福德生命金澤支社
橫河工務所	三越吳服店神戶支店
宗建築事務所	三十四銀行兵庫支店
岡田建築事務所	赤十字社東京支部
清水建築事務所	川崎貯蓄銀行大崎支店
渡邊建築事務所	橫濱正金銀行大阪支店
曾根中條事務所	德川公爵邸

中村グラニット商會

大阪本店 大阪市住吉區住吉町五〇三
仝 工場 大阪市西淀川區海老江町1200
電話土佐堀一三五七番

東京支店 東京市芝區月見町二丁目四
仝 工場 仝
電話高輪二八六八番 六五〇一番

SPECIAL ✿ BORING

ボーリング ト 鑿井

○明治十八年創業 斯界之權威 ｛百キ歴史ト經驗 特許ノ機械器具 獨特ノ優秀ナル技術｝＝他ノ追從ヲ許サズ

○標語 ｛岩盤、玉石、土質ノ硬軟水壓ノ別ナク 工事ノ多少ニ不拘 迅速正確低廉

○特長 鑿井 ｛施工簡易 水清濁ゼズ 任意ノ水層簡易ニ集水 鑽管内徑孔子ソケット結合 井側鑽管ト同徑ノ砂利 裝置ノ「ストレーナー」 漏水不良 挿入安全 土壓ニヨル鑽管破損ノ憂ナシ 生命永久

ボーリング ｛粒土ヲ用ヒズ 地層ノ區別完全 標本土正確 地質ノ硬軟 土質 水位 フレシヤー フレクション モ詳明 耐壓モボーリング表ニテ明瞭ス｝

○光榮 ｛諸官衙 技術大家 諸會社ヨリ多數ノ成績證明ヲ賜ル 宮内省特ニ御用命ヲ拜ス 大阪東京兩市電氣局高速度鐵道課 東京地下鐵道株式會社御用命ヲ受ク

○推奬 ｛基礎工事費ヲ減ジ 震害豫防ニ 費用僅少定評アル 森川ノ名稱ボーリング 水ノ解決ノ爲メニ 合理的ナル森川式鑿井

地質調査ボーリング
コーアー式ボーリング
特許 森川式大鑿井
特許 森川式井側裝置
揚水裝置
杭打試驗
載荷力試驗

森川組

店主 森川傳爾
本店 大阪市西區寺町一丁目 電機川 長四四一 三〇一
支店 東京市神田區金澤町 電下谷 五五三二

貴下御設計御施工の建築には是非弊品を
御指定御採用あらん事を希ひます

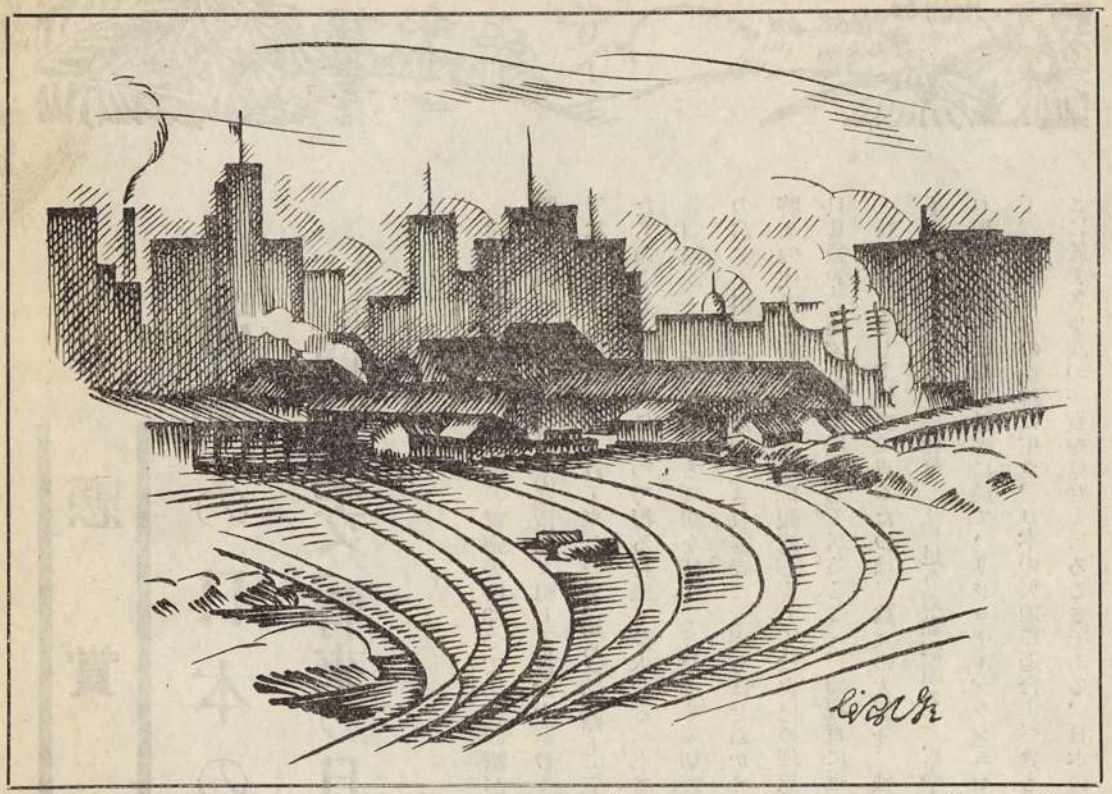
特許賣
アサダ・プラスター

セメント防水劑
リクタイト

特許賣
アサダ・純白ポートランドセメント

兵庫縣　飾磨町

飾磨化學工業株式會社



新版大阪圖繪　　中津高架驛より西横堀線を跳む　　本間乙彦作

住居と其の本質

住居即「すまい」の本質は安らかに住むことにありと云ひたい。住居をして眞に安らかにあらしむる爲には如何にせば可なりやと云ふことに就いては衣食と云ふ問題と共に古往今來人間の最苦心した所であると思ふ、しかも現代は衣食を得るの途難からざるも寧ろ居心地よき住居を得ること甚だ易からずと云ふこともできる特に都市に於いて此現象が顯著である。都市に於ける人口の集中即群居生活の弊が發生したからである、都市に於ける今日の混濁と雜騒、異臭と不潔、犯罪と欺罔、猜疑と嫉妬、一として吾等の安住を脅かさざるものはない。換言すれば現代の都市にはよき住居甚だ少くして不健全なる現象隨所に胚胎せるに他ならない。況んや一朝大震火災等の災害時に於ける不安は常時都市人をして一大敵國に面接せるが如き頗る重苦しきものである。本誌茲に觀る處ありて『將來の日本の住居』てふ一大懸賞論文を募り茲に其當選論文を讀者の前に提供した次第である。

（三・二・七　佳山生）



懸賞論文

「將來の日本の住居」

懸賞論文「將來の日本の住居」を讀みて

審査員講評

古宇田實

社會の進歩や、都市計畫の實施等に伴つて住居問題が一般社會から漸く論議され、研究されて來た際に日本建築協會が、此の問題を捕へ、『將來の日本の住居』と題して賞金を懸けての論文を募つたことは誠に時機に適し且つ意義のある企と思ふた、そして其審査を私にも依頼されて來たので、始めは躊躇したが後には喜んで其求に應じた、これは一には義務としても詳細熟讀せねばならぬこと、それによつて得る智識も多大なるべしと期待したからで實際そのかひがあつた。なぜ始め躊躇したかと云へば、此問題が一面甚だ高遠なる理想を持つこと及極めて切實なる實際的緊要さを持つ爲に、或は突飛なもの、或は空想にのみ走るものが多く出て判斷になやまされ審査にも困りはせぬかとも懸念したからである、然るに實際集れる論文を見ると何れも眞面目に將來の住居を研究し或は推理假想し若しくは自己の理想を以て未來の住宅を構成して居るので頗る面白く有益に讀んだのである只具體的に述ぶる點に遠慮して居ること、尚現實に近いことゝが物足らぬ。

特に自分として愉快に思ふたのは、論文の大部分、殊に入賞者の多くが平時自分等の考へて居たことを、綴つてくれた樣な氣もしたことで、勿論まだ其〳〵物足りぬ點が頗る多い氣もするが、兎も角も理想としては當然そうでありそうなことを良く述べられ居る、例へば都市計畫に於て、リジョナルプランニングを說き、都市の綠化を論じ、樣式には、徒らな皮想的西洋模倣を排して、眞に日本の精神に生き、日本の天地に適合すべきものを唱へ、そして構造に設備に最も進歩せる方法を取らんことつとめたことに於て各歩調の一致を見せて居ることである、日本の建築家並に社會一般がかゝる理想に共鳴し、その方針を以て進んで行つ



たならば歸着する處、患ふに足らず大に進歩發展を見ること明であると思はれた。

擬賞論文、其文章の構成、體裁には各その人の特色を表はして居るものであらうがその内にこもる精神、議論の歸着する處は大同小異と認められた、茲にその三者について短評を試みて見様。

第一等、雪

論者は住居問題を社會問題中の最も重且大なるもの、一とし、日本の住居問題を日本民族の文化の表現であると論を起し、過去の歴史と傳統的民族性を基調として考慮し、一方には現代都市の不備を歎じ、公衆衛生設備完成の要を述べ家屋周圍の環境が家庭に及ぼすこと多大なるを認め完全なる都市殊にリジョルナルプランニングの必然起るべき所以を交通の便や市内生活の複雜なる點よりも論ぜられた、大に同感の至りである。

論者は尚ほ右の論證として佛國巴里の不良住宅發生の原因及英國の住居と工場とを離し且つ住居の分散によりて市民の幸福を増せる點を擧げて比較し、日本に於ても分散的住居政策を得策と主張し、又今時流行の如く思はるゝアパーメントを主要視せず、反而英國が一家族一住宅主義に傾ける點を指摘して之に賛し、アパートメント萬能の說を排せる處に論者の創意もうかゞはれて面白し。

第二等、鐘

日本將來の住居問題から局限して、將來の住宅建築そのものを論じて居る、故に樣式に於て、構造に於て前者よりも稍や具體的にその形が見られる、而して論者は現在住宅の不備を擧げ、將來の歸着する點を推理して居る、乃、現在は和洋及折衷の三種の樣式が行はれながら暗中模索の樣であることを笑ひ、住宅は此れを人と自然とに置かねば理に合はぬ、いやしくも日本住宅は日本人の家であり、日本の國に建てらるゝものであるから過去二千五百年來の傳統的歴史を有する日本國民性がその精神となり魂となり、以て日本の自然に適合し併も東西文化の融合による新日本の生活樣式に依らねばならぬと論じて居る、從し構造にも木造樣式や、開放的なる樣式も必しも誤りに非ずと說く 又論者の一見識ならんか。

然し舊來の日本式も亦排し、混成ならざる和洋の化成を理想とするも甚だ良し、只これ言ふに易く、實際には頗る困難を覺ゆることで、其說く處の深き軒出、輕き廂のあるベランダ、開放的の美位丈ではなか〳〵に解決は出來そうもない、但カンテリバーの美を以て新しがるに及ばぬ、日本建築が舊來より持つ美であると云ふ點杯も面白く大に共鳴する點である、要するに日本建築舊來の住き所を保有し、徒に西洋模倣に偏することなく、併も新構造法や新設備を持ち、日本人の住宅たれと說くものであつ



て評者の亦賛する處である。

第三等、龍

曾つて或る新聞の懸賞論文の當選者にヒントを得たもの、如く百年後の推想と自己の理想を夢物語として、且つそれを大學の建築學科の研究に言と寄せたる處に論者が遠慮しつゝも自己の理想を表はして奥ゆかし、而して木材の伐採に制限を加へ、構造に革命を來せりと説くこと便所排せつ物を薬品となし衛生工事の改良を暗示せる點、或は警戒を與へ或は學術の進歩を想像して尚且つ各部屋〳〵に渉つて具體的に述ぶる點論者の用意の密なるを窺はしめ興深し、住宅群の發達、農民の海外發展、市街の緑化田園都市の推奨、外國模倣の排斥、等に及び住居問題を論じて居るが、第二等と同樣住宅建築の改良を主として陳述して尚ほ些か物足らぬ心地する。

審査の後に

安井武雄

應募の文の論旨を見ると大體三つの系流に區別する事が出來る樣です。

（一）は過去の徑路に準據して、來る可き將來を研究し判斷を下したるもの

（二）是は一の内に包括してもいゝかも知れませんが、重に現在の狀態を觀察し、其不滿に對する希望を述べたるもの

（三）科學文明を基礎として、將來に於ける狀況を架空的に叙述したるもの

而して其内容を見ますと第一の系統に屬するものは其論旨が概念的で具體的の叙述が欠けてをる、第二に屬するものは多少具體論に入いつては居るが論旨が通ても自定的である、又第三に屬するものは物質文明を過信し科學が其一切を解決し得ると言ふ樣な所を見受ける。

考察の方策としては過去、現在、將來、と言ふ風に秩序的に推斷を下して行くのは最も順當なるものであるかも知れないが、斯樣な考へ方は稍ともすると現實にこだはれ過ぎる爲に、新しき世界を見失ふ虞がある、其考へ方が何となく怯臆である樣である從而勇敢に突き進む事が出來なかつたのではないかと思ふ。



現實にあきたらないで、其不滿を何物をかこらへていやさんとする考へは、焦慮の餘り凡而が現實への抗議となり結果自定的の議論に陷る、世相が人間によつて自定され得るものならば或は吾々の抗議はうけいれられるかも知れない、然しながら如何なる機會に於而も如何なる時に於ても吾々は世相を撰擇し得たためしを見た事聞いた事がない、却而常に世相が吾々を決定して居るのである事を見るとき、世相への抗議吾々の自定的判斷は一層の熟慮を要すると思ひます、又科學文明を基礎として將來を豫想する事は現今の唯物主義文化の進路を判斷するには最も誤りの少ないものでありましよう、結局或る局限された將來に於而は論者の豫想は實現され得る事と思ふ、否いやでも實現されずには濟まないでしよう、私は其形式に於て多少の異論は持つて居りますが論者の想像する様な狀況の實現を確信します、但し斯様な物質文明の極致が果して人間の幸福を齎らすか否やは問題です、自分は斯様な狀態は出來得る限り早く到來して、又出來得る限り早く過ぎ去つてくれる事を望むものゝ一人です。

審査感想

本野精吾

第一等(雪)――人間の傳統的民族性に根底を置き、世界各地の都市の長短を比較考察して日本に於ける住居の將來の進路を考究した點に特徴を認める。具體的の問題に觸れる事の少ない點を多少の欠點と思ふ。

第二等(鐘)――多くの方面よりの觀察と、細部に行き渡れる注意とに基礎を置いて將來を考察したる點に特徴を認める。唯又化の進展と云ふものに對する考の根底が少しくハツキリして居ない事を感ずる。ソレと内容に對して外形が多すぎる様に思ふ。云ひ換へればコレ丈の内容に對してコレ丈の外形はいらない様に思ふ。

第三等(龍)――最も空想的な一文であります。けれどもコノ空想は現代に於ける科學の進展の方向に基礎を置いた根據ある空想であると思ます。ソウして科學の發達は人間の生活を幸福の中に導くと云ふ考もコノ中に認められる。唯考が人間の精神生活に就而觸れて居ない點と、空想に終始して建築形の具體的考察から遠い點が欠點でありましやう。

壹等當選論文



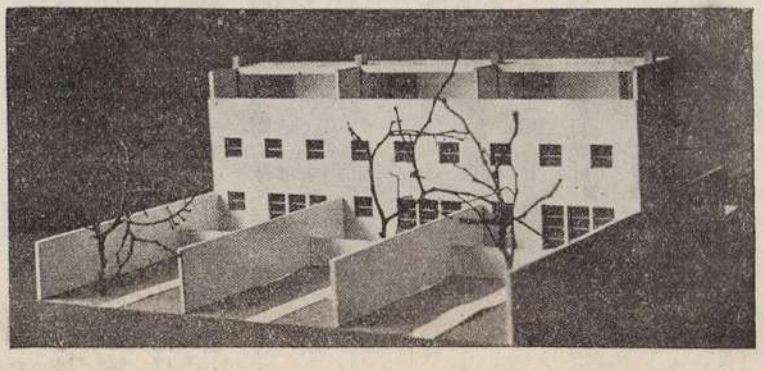
加藤善吉

同君略歷

君は現在都市計畫大阪地方委員會勤務中の建築家で曩に東京より青島守備軍民政部に赴任し其間青島市場を始め青島高等學校寄宿舍、青島病院其他建築の設計監督をなし大正十年八月都市計畫大阪地方委員會に來任して以來爾來十年十月には大阪府廳舍及府會議事堂建築の懸賞設計に應募し第三等一席に當選して居る。其他見るべき論文としては「二三年前建築世界誌上に發表したる「都市計畫に於ける地域制」がある。又曩には關西工學校建築科講師として建築製圖を分擔して今日に至る。

本邦都市の急劇なる發達は當然の歸結として著しき人口の集中を來し加ふるに現代都市の特長とせられる高層建築物の簇生はいやが上にも益々都市をして不衛生な住居環境を形成しつつあります。現代の都市に於ける住居なるものは殆ど空地なきまでに家屋の密集を來し過群生活の現狀は一日もこれを等閑に付し置くことの出來ない結果を招來して居ります。從つて今日の住居問題は社會問題として重要視せられ今後は更に一層の重要さを加へるであらうと思ひます。住居問題は社會の凡ゆる問題と密接な關係を持ち住居の內質外容は一國文化を物質的に又精神的にも表徵するものであつて其の適不適は直ちに吾人人類の活動能率に大なる影響を及ぼすものであります。故に住居問題に關しては上下を擧けて不斷の努力を以て注意を拂ふべき責務があるのであります。然らば現代の何等の秩序なき不衛生にして保安上危殆を含む住居の現狀を打開して將來わが日本民族の生活に好適なる住居の理想を實現せんとするには如何なる方策を確立し以て邁進すべきでありませうか。是れは非常に重且大なるものであつて從つて極めて困難な問題であります。然しながら今日の狀態を自然の歸趨に放任するに於ては將來益々復雜なる社會現象を呈し收拾すべからざる苦境に呻吟するに至ることは事明の理であります。故に吾々は人爲的に可及的これを救拾すべき將來の對策を講ずることは

外國新住宅グラフ

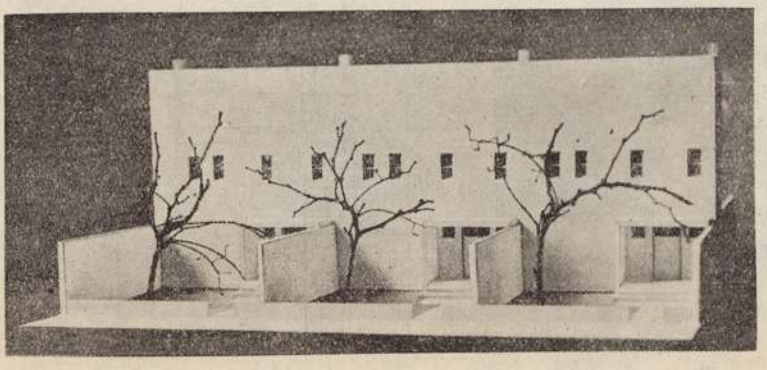


ウキーン市　ホフマン教授作

「共同住宅ノ一例」（庭より見たる模型）



現存の日本人として爲すべき當然の責務でありこれが吾々の祖先に報ひ子孫に盡すべき道であらうと思ひます。この時に當つて我が日本建築協會は「將來の日本の住居」なる問題を提示して一般日本民衆の意見を徵し其の據るべき道の暗示を得んとせられたことは最も必要にして且つ時機を得た企として大に贊意を表する次第であります。元より本問題に對しては各自夫々異つたる方面より種々なる想像を生み豫測をなし或は種々なる議論の沸騰を釀すであらうと思ひますが吾人はこれを一言に盡くせば要するに日本民族の一貫したる傳統的生活内質の根本精神を基調とし將來の時代文化を融和したる生活に適する住居の實現に向つて進み惠まれたる自然に親しむべき住居を求むるに最善の努力を拂ふべきものであらうと思ひますが果して如何なる政策を以て臨み如何なる道程を踏んで理想の彼岸に到達すべきや茲に吾人の考を開陳せんとするのであります。將來の住居問題を考察するに當つて先づ日本に於ける遠き過去の住居の狀態を追憶するの必要があります。我が日本民族の祖先は遊牧の境涯を脫して一定の安住なる場所を求めるために或は洞穴に或は陋朴なる小屋に生をつなぎ來たのであるが由來人類は本能的に自然に親しみ自然と同化すべき傾向を持つて居るものであつて殊に建國以來惠まれたる環境に生を持續し來つた日本民族は本性として天然自然を愛し自然と同化して今日に至つた民族であつた從つてこの一貫したる傳統的精神の元に育まれたる住居は日本獨自の本領を持續し今日に及んで居るのであります。即ちこれを住宅に見るに日本に於ける住宅は外氣に接して始ど開放的であつて之れは過去二千六百有餘年の間日本民族を背景として發達し來つた形式であります。其間或は外面的形式に於て歐米の形式を採り入れたるものありとは云ひ其の内實に於ては日本民族從來の精神が包藏され不變の生活的意義を持つ容器としてあるのであります。斯の如く日本獨自の發達を遂げたる住宅と自然に親しむべき傳統的住居を欲する永久的國民性あるに於ては而して過渡期に於ける一時的現象としてその民族性をして隱忍せしめるの余儀なき場合ありとするも再び本性に復することは明か



「共同住宅ノ一例」

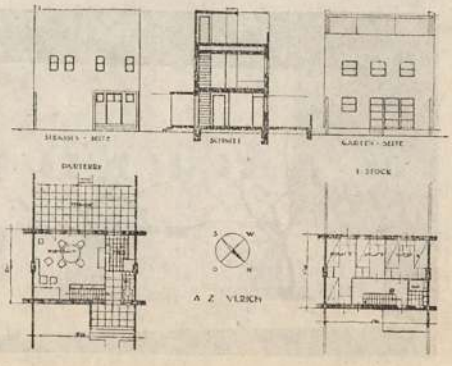
（庭より見たる模型）

ウヰーン市

ホフマン教授作



なりこすれば將來の日本の住居なるものは二千六百有余年の間育くまれたる傳統的日本民族性を基調こして形成さるべきものでなければならむと思ひます。然るに現代日本に於ける住居狀態は如何であるか。この誇るべき民族性を沒却し住宅に於ては其の質的に、量的に住居の環境に於ても實に吾人の生活理想こ相去る甚だ遠きものがあります。即ち都市は益々不規則なる膨脹をなし家屋の密集甚だしく地域制制定以前に釀れたる隨所の工場は頗る亂雜を極めその發する黑煙は天を覆ひ交通の繁劇日に加はり塵埃空に充滿し都市に於ける住居は暗燥鬱々こして實に不愉快なる狀態に陷り住居の本質は既に失はれて居ります。市民の大部分は裏店に隔居し空氣の流通の不良なるは勿論日光さへも見ることの出來ない悲慘なる狀態を現出して居るのであります。更に住居問題に大なる影響を與へて居るものは現代都市の住宅の七割は借家であるこ云ふ一事でありますが尙且つ隔劣飽くなき資本家の跋扈によつて增加するの傾向を持つて居ります。之れが爲めに吾々は既に今日の狀態は家庭を持てる民族ではないのであります。左は云ひ都市の實狀を具さに觀察すれば資本家の行動も左こそこ點頭かれるのであります。實に現代都市の如き地價の昂騰乂昂騰停止するなき現狀に於て營利本位の貸家住宅に資本家が空地を法的制限の極度に縮少せんこする傾向は無理からぬことであります。然しながらか、る環境に於ては必ずやそこには種々なる病弊を釀成し種々なる犯罪者の發することは現實の問題こして吾々の熟知する所であります。延いては凡ての人心に皆一樣に迫り來る何物かゞあります。即ち吾々民族の住居こして將乂家族の象徵こして神聖にして貴重なる施設こして現社會に於て人類のその根本的なる家庭の所有者こなることが出來ないこ云ふことは實に恐るべきことであるがこは現代都市に於ける通有性となつて居ります。然らば郊外の現狀は如何でありませうか。現在の郊外は道路の不備不完全は言ふまでもなく交通運輸の便更に乏しく理想的娛樂機關備はらず上下水道の施設なく極めて不利不便なる住居環境を構成しつつあるのであります。抑も住居なるものは須らく住居こして吾人民族の



ウキーン市
ホフマン教授作
共同住宅の一例
庭より見たる模型の平面圖
敷地三十五平方米突



必要なる施設の伴ふものでなければなりません。即ち愉快に便利に能率的に家庭生活を樂しむべき充分なる施設を具備したる處でなければなりません。住は衣食と異なり肉體的には勿論精神的に及ぼす反響甚だ多く德養、品性、趣味の如きは住居家庭の感化著しきものであります。故に住居に關しては種々なる問題の相互考慮を必要とするのでありますが要するに生活を安逸ならしめ精神上の慰藥を得せしめるためには先づ第一に衛生的に生活せしめることであります。住居衛生の第一要件は清淨なる水と空氣と適當の日光であらうと思ひます。古の俚言にも「日光の入らざるところ醫者が行く」とある如く日光は實に吾人人類に絶對的に必要缺くべからざるものであることは呶々を要せざるところであります。又空氣汚濁の不快は精神上に及ぼす影響多大であつてその大なる原因は密住と亂雜極まる工場より發散する煤煙と惡瓦斯であります。故にこの弊害に對して適當の處置を講じこれを防禦する必要があります。更に今日の公衆衛生の防備機關として認められる上水道下水道の完成であります。歐米都市の死亡率減退は何れも上下水道の完備もその一因をなして居るのであります。其他住居環境に必要なる施設としては理想的娯樂機關、公園、遊園場、教育機關の施設等相俟つて之れを爲すべきであつて殊に教育はその環境が子女の教養上甚大の影響を與へるものであります。故に住居環境より受ける直接の善惡は直ちに家庭に及ぼし有爲の國民教育に至大の關係を持つに至るのであります。又電氣瓦斯の設備も必要でありませうし家屋の構造に於ても安固を圖るためには質的に當然注意を拂ふべきであつて從來屢々くり返へされたる火災防備と震災に對しても適當の考慮を費すべきであります。即ち住居環境として地理的にこれを求むれば高燥閑雅にして地質水質良く上下水道の設備容易なる土地にして工業地域の煤煙有害瓦斯惡臭粉塵騷響等より逃避し風教に憂慮なきところを以て理想的とするのでありますが尚外に最も重要なる案件は完全なる道路と交通機關の統一的完備であります。現在に於ける不完全なる郊外道路はこれを整然たるものに改築すると共に交通機關の必要なる施設をなして

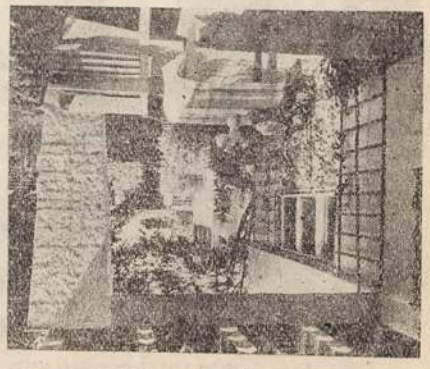




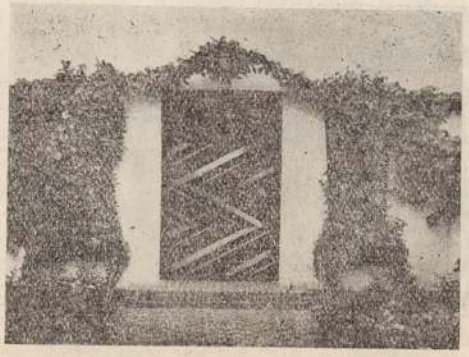
伯林・庭園より見たる小住宅の一例（オツト ルードルフ サルピスベルグ氏宅）



以て統一して運賃の低下を圖ることであります。交通機關は實に住居問題に主大の關係を持つものであつて住居問題の解決の關鍵を握つて居ると言ふも過言ではないと思ひます、都市に於ける人口の集中。分散の傾向は一つは交通機關の完備不完備に據るものであります。我が邦に於ては既に議論の時代を經過し今日の現狀はその種類に於て、其の施設に於て將た其の速度に於て昔日の觀を一新した事は驚くべきものがあります。殊に自働車の跋扈張梁は從來の交通機關の領域を蠶食し來つたことは注目すべき現象であつて將來益々其の勢を逞ふするに於ては自發的に人口の分散を可能ならしめ住居問題に一藥を投ずるであらうと思はれますが尙都市中樞部に於ける高層建築物の集積も非常なる勢を以て發達することは明かであつて從つて市内生活が復雜化せられ喧騒にして不衛生且つ生活費の昂上等その他種々なる理由に依つて住居を郊外に求め終日の疲勞を慰し安價なる生活に浴すべく力むるに至るべき傾向を呈し來ることは當然でありますから交通機關の發達と運賃低下の實現は當然の勢として人口の分散を招來する結果となるのであります。此點に思ひ及ぶ時更に高速度交通機關の必要を痛感せざるを得ないのであります。今日發達したる高速度交通機關に依つて三十分間に通勤し得る十哩圈内の地域面積は實に三百平方哩の廣袤に及び今日の電車の約六倍に達するのであります。かくの如き廣漠たる面積に對して住居地域と定め相當の施設をなすに於ては日本民族傳統の住居環境を求め得るであらうと思ひます。これ等の當然採るべき住居政策、社會政策でありますが將來尙幾多の採るべき道があります。吾人は暫らく都市の混亂と人口集中の先驅たる歐米に於て採り來つた住居政策を一瞥して見ませう。これを遠く巴里に求めんか巴里は現代都市計畫の搖籃であつて十六世紀のブルボン王朝以來十九世紀に於けるナポレオン三世に至る巴里の改造は一貫して帝王の威嚴の誇示と都市の美觀を基調としたる所謂ブルジョア都市計畫でありますが殊にナポレオン三世がオースマンをして斷行せしめた大事業は其の最も著しいものであるが其の反面に於ては市民をして住居難に困惑せしむるの結果を



庭にせるベランダ入口

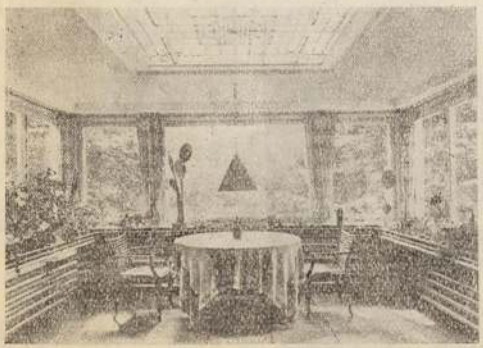


伯林・オツトルードルフ サルビス ベルグ氏宅

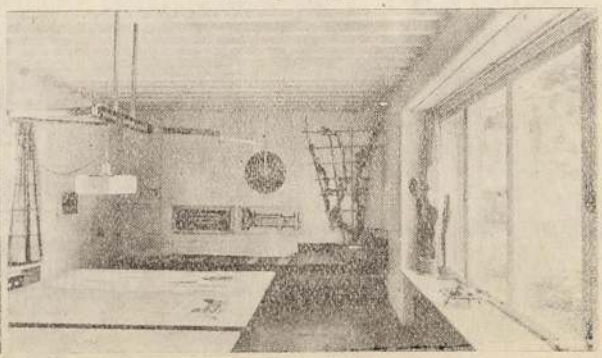


招いたのであります。即ち巴里の中央部の美觀を主として常に市域の擴張を制限し人民の生活狀態、住居問題等は輕視せられ就中勞働階級の住居は全然無頓着に放任せられて何等顧慮する所なきに反し他方に於て都市の美觀都市の裝飾には多大の注意と努力と巨額の資財を抛ちて極力之を美化し偉觀を現出するに努めたのであります。この財源を得んがために土地を極度に利用せしめ市民生活問題の惡化を顧みずして偏に物質的繁榮の增進に熱中し、この富を獲得する手段方法は敢て問はざる富有なる人々の手に依つて運用せられたのであります。その結果土地の集約的利用を促し不良建築を現出せしめたのであります。之れに反して英國に於ては早くより住居問題に意を用ひ住居と工場とを分離し或は勞働者階級の住居問題に對しては勞働者階級住居法を發布し或は小住宅取得保護法を設け或は住居及都市計畫法を制定して住居の保護に力めて以來英國各都市は官民相競ふて住居改造に熱中したのであります。それと同時に一方に於ては交通機關の發達を圖り都市中樞部より郊外に對する最も迅速なる連絡を保たしめたので住居分散の目的を達成し土地の騰貴を未然に抑壓することが出來たのであります。即ち巴里に於て十九世紀後半街路崇拜街路萬能に醉ひ都市の美化に憧れて居つた當時に於て倫敦は交通機關を利用して住居の分散を圖り市民の幸福增進に大なる努力を傾注しつつあつたのであります。斯の如く英國の採りたる分散主義的住居政策と佛國の採りたる都市美觀を目途としたる改善的政策とは自らそこに異つたる結果を生み來したのであります。現代歐洲大陸諸國の都市に於て人口の增加につれて高層住宅建築を生じ密集住居の傾向を助長し今日尙之れを救ふ能はずして苦しみつゝある原因は全く集中主義に依る政策として採つた巴里の建築禁止令に伏在すると言はれて居ります。斯の如く英國の採りたる分散主義の住居政策は今日各國の羨望を招きつゝあるのでありますが之れと關聯して忘れることの出來ない英國に於ける顯著なる運動は田園都市であります。今日に於ては普遍的運動として各國共に土地政策上最も重要なる施設と目される地域制の觀念も英國に於ては既に田園都

「食堂ノ一部」 庭園ノ一部ヲ見ル



「仕事室」

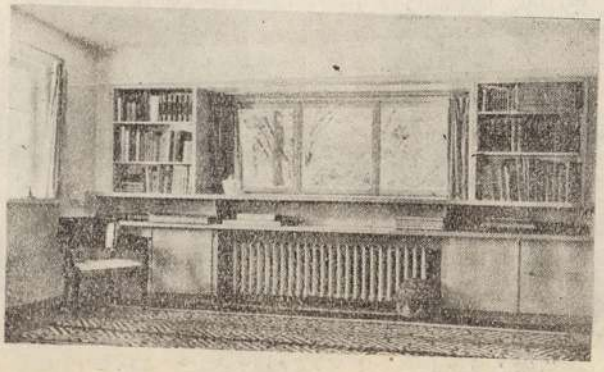


伯林・オツト ルードルフ サルビス ベルグ氏宅



市に萠芽を發して居ります。地域制は住居の安靜を期し好適なる土地の利用を增進するための積極的政策の一として必要なものでありますから一言する必要がありますが之れを沿革的に見るならば地域制の母國は獨逸であります。その發達の淵源も住居の安寧を害するが如き種類又は規模の工場は住居地域より一定の距離に置かしめる警察法規より發達したものであつて一八九一年フランクフルト、アム、マインに實施されたのが嚆矢であります。英國に於ては既に述べたる如く彼のハウワード氏のレッチオースの田園都市に逸早くも地域の觀念を採り入れたのであるが更に英國に於てはガーデンサバーブの發達を見て居ります。之等は何れも住居問題を中心として過群密集生活を防止せんとする目的に外ならぬのであります。住宅問題に關して法制として認めたのも英國が初めてでありますが英國が早くより工業都市として發達するにつけ恰も影の如くに隨ひ來る住居問題に對し一九〇九年に住居及都市計畫法を制定して其の法律の元に面積に關する計畫及特別なる規定を設けたのであります。即ち建築物の特別のものに對しては其の位置を指定し或は一エーカーに對する住宅の數を限定するが如きそれであります。米國に於ける用途地域は一九〇四年トロント市に採用されたるを始めとして一九一六年綜合的地域制が紐育に制定されたのであります。それ以來非常なる勢を以て各都市に普及し今日に於ては合衆國内三百數十の都市に採用され我國に於ても大正九年都市計畫法及市街地建築物法に於て地域制を不完全ながらも認められたのであります。今や我國に於ても各都市共に着々としてその指定を急ぎ各種地域の持つ性質の實現に向つて力めてあるので從つて住居地域に對して夫々の施設をなして以て現狀をして將來幾分良好なる救治の實を擧げることが出來るであらうと思ひます。歐米に於ても地域制の制定實施以來相當の成績を收めて居り紐育の如き建築物の高さ、面積、使用目的等の制限行れた結果幾分の秩序を保持し得るに至つたのであります。其他各都市共住居地域も非常に整然となり公園も漸次設けられ而も道路の兩側に植えられた並木は大に發育し恰も森林中に整然たる市街を

「談話室」



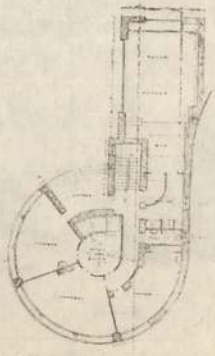
ベルリン市
オットルードルフ
サルピス ベルゲ氏宅



見るの感ありとある歸朝者は言はれて居ります。

以上は歐米に於ける住居政策の概觀でありますが之れを以て之れを見れば現時の混亂錯雜なる住居狀態を矯正し將來日本民族傳統の住居を實現せんとするには分散主義的住居政策に依らねばならぬと思ひます。既に述べたる如く市內の種々なる病弊より逃れて郊外に安住の道を求むるの傾向は漸次濃厚となりつゝあるは我が邦のみではありません。英國は勿論獨逸佛米利加其他の各國共も一般の市民は郊外交通の便ある新開地に自然の綠叢に親しみ得る快濶なる住居を求めつゝあるのであります。就中紐育に於ける狀態を見るならば同市に於ける家賃は一九一四年即ち十三年前に比較すれば二倍に昂騰し而もこれ以上住宅を建て得べき余地なきを以て市民は間斷なく周圍部に向つて移動しつつあるのであります。尙一二の例を記するならば近來工場の消長は紐育の都心地たるマンハッタン區に於ては減少し周圍部のブルックリン區に七百の增加を示して居ります之れ工場及勞動者の郊外に移動の現象を示しものであつて自動車庫、劇場等皆然りであります。この事實は如何に市民が市內の雜沓を離れて郊外にその生活の本居を移し自然に親しむべき欲望に燃えて居るかを窺知することが出來るのであります。或は自然的に外方に移るを余儀なくさるるものもあるが要するに人口の分布平衡を保ち得るならば住居問題、交通問題も非常に緩和されるのであります。或は住居政策として都市の住居はアパートメントを以て理想的なりとなし其の發達を促す人もあるが吾人は過渡期の一時的現象として暫定的發達を見るに止まり將來の吾々日本民族の優秀なる自己の住居として滿足するには余りに根強い傳統的民族性に相去る遠きであらうと思ひます。元よりアパートメントは種々なる特長を持ち既に歐米に其の發達を見て居るのであつて都市の中樞部に住居するの止むなき人々に對する住宅としては甘せざるを得ないが歐米に於ても種々なる點に於て特長より弊害の多きを認めつゝあるのであります。如何に一般民衆が共同生活に訓練を經たりとは言へ根本的に其の發達を異にする民族性と合致融合することは勉めて得べか

「田園住宅」



平面圖



デョー ブールヂエヌア氏宅（パリー市）

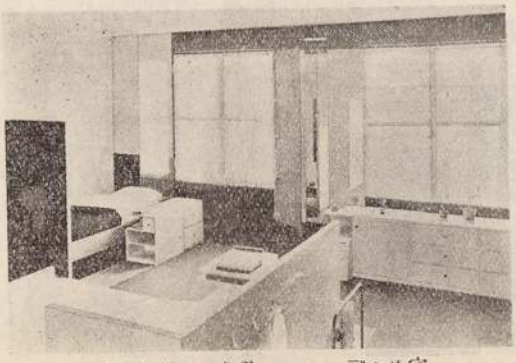


らざるものであらうと思ひます。然れども之れを自然發達の大勢に放任するならば或は日本民族性に相反する住宅形式の形成を余儀なくし悔を後世に殘すであらうと思ひます。將來の住宅がアパートメントたり吾々民族の理想とする一家族一構の住宅たりやは社會の種々なる問題の制肘もあるが根強き民族性の發露に依る人爲的結果に待つものであつて吾々民族はこの理想に向つて大なる努力を傾注するを要する問題であります。歐洲大戰後の住宅拂底の場合に際して英國が約五十萬戸の勞働者階級の住宅を國家事業として建設するに當りアパートメントを排して大體に於て一家族一戸の住宅主義に依つて之れを斷行したことは吾人の大に敬服するところであります。之れ即ち既に述べたる如く英國は分散主義の急先鋒である傳統的國民性の發露の成果に外ならぬのであります。故に吾々日本民族は自然と親しみ得べき住居を基調とし民族性の躍動に待つてその理想の實現に力むべきであります。然らば其の進路方策は如何。これ一に都市計畫に包藏さるべき問題であるが先づ地域制の有効なる活現と區劃整理の斷行と建築線指定權の適當なる行使と而て近代文明に於て文化と自然との融合、都市と田園との結合とを目途として生れた地方計畫(リヂヨナルプランニング)の實行であります。要するに住居問題の解決は大都市の限りなき膨脹を防ぎ地方的に小都市を興し都市分營を行つて以て住居の過密狀態の現出を防ぎ中心都市とは高速度交通機關に依つて迅速なる連絡を保たしめるにありますが我が國の現狀に於ては地域制の活現を要します。我が國の地域制は米國のそれと比して甚だ不徹底たるを免れないのであつて其の建築制限の性質頗る寬容的であります。換言すれば住宅は如何なる地域に存在するも妨げないのであつて商業的建築物も亦然りであります。唯工場のみが其の規模又は作業の性質に應じて或るものは工業地域に限らるゝのでありますが家內工業の如きは住居地域と雖も存在し得るのであります。故に各種地域は事實上各種建築物の混在地たるの觀があります。然しながら地域制實現の上は從來の不衛生にして亂雜なる狀態を緩和し得ることは明かにあります。殊に地域制の建築



ダヨーブルザエア氏宅
(パリー市)

「寢室ノ一例」



リートヴエルト及シユレーデル氏宅
(ウトレヒト市)

制限寛容的たりとは言ひ我が國の現狀としては經濟的にも相當重き制限と見らるるのであつて最小限度として住居地域の敷地は四割の空地を存するの規定がありまます。故に從來の殆ど空地なき住居を幾分緩和し得るの効果ありと思ふのであるが吾人は決して斯る地域制に滿足するものでなく將來は進んで徹底せる地域制の確立を望み敷地面積に對する戸數の制限、或は一家族に要する敷地の面積を相當廣きものを要求するの規定を欲し其の實現の早きを期して十分なる地域制の効果を擧げ同時に郊外未開發地に向つては都市計畫法に認められたる土地區劃整理を斷行し且つ建築線指定の活用と相俟つて秩序整然たる住居地を構成し既に述べた如く住居地に必要なる諸般の施設をなし之れに交通機關の完備を圖り更に進んで地方計畫(リヂョナルプランニング)に依つて人口の適當なる分配を行ひ地方地域制(リヂョナルゾーランク)の實行に依つて合理的住居地の構成を企圖して以て將來二千六百有余年來育まれたる日本民族傳統の理想的住居を實現し而してその生活の容器たる住宅は時代思潮と時代文化と民族性の渾然融和したる日本獨自の形式を創成し茲に始めて安靜なる自然同化の營みを續け得るのであります。(了)

第二等當選論文

東京　岸田不元

(一)

現在日本に行はれてゐる住宅建築は、內容外觀共に、其の形式上非常に雜然と

「夏の水荘」ノ模型



ジエー、クリユゲル氏の住宅

(伯林市)



したものである。秩序ある統一、一貫した目的理想の如きは、全然ないかの如くにさへ思はれる程である。その日暮しと言ふ感を、心ある人は誰でも抱くであらう。しかしこのことは、獨り決して住宅建築に就いて丈け見られる現象ではなくて、現在日本に於ける他の殆んどすべての建築に就いても言はれることである。更に深く考へるに、此の現代日本の建築に、統一と理想が認められぬといふことは、現代日本に於ける混沌たる文化一般に災されて、必然的にもたらされた自然の成行であると、考へるのが至當であらう。何故ならば、建築はその多くの場合に、其の時代の文化全般を正確に反映することが、一般に認められる原則であるからである。

現在日本に行はれてゐる種々雜多の形式による住宅建築を大別すれば、大要次の三つの形式に分類できるであらう。

一、日本風住宅(所謂和風住宅)

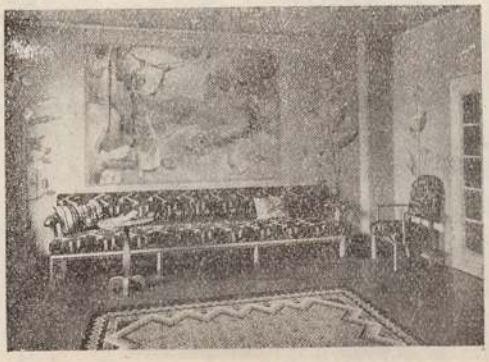
二、歐米風住宅(所謂西洋住宅)

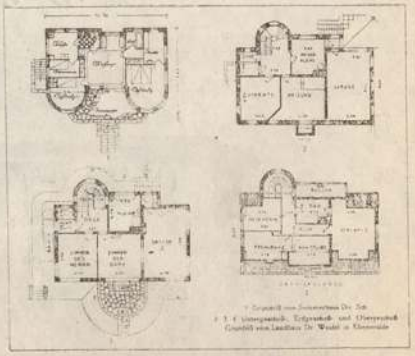
三、折衷風住宅(所謂和洋折衷)

和風住宅とは、此の言葉の表はす概念で既に充分理解できるのであるが、日本在來の傳統的な住宅建築の形式手法を、そのまゝ踏襲するもの、即ち寢殿造、武家造、書院造の如き本邦中古の住宅建築の形式か、德川時代に大成した手法を、何等の變改も加へずに、忠實に今日に傳承し再現するものである。

西洋住宅とは、明治維新以後、怒濤の勢を以て我が國に侵入しきたつた歐米の一般文化と共に、當然我が國にも行はれ出した歐羅巴(主として中歐)及び亞米利加の住宅樣式である。

和洋折衷とは、少なくもその理想は、在來の日本風住宅の長を取り短を捨て、更に歐米風住宅の美點を加味して、一つの新しい眞に日本に適合する住宅形式を生まうとするものである。しかし現在での狀態では、此の高遠な正しい理想からは遙に遠いもので、相異なる和、洋の二つの形式を、唯形の上で相並べた丈けの





ヴェークリューゲル氏住宅

平面圖



ここで、それは水と油の混合であり、眞に意義ある骨肉的融合の美は、決して毫も實現されてゐない。

これら二つの形式の住宅建築が、それら相互の調和、關係の如きは少しも考へられずに、唯雜然と無反省に相平行して行はれてゐるのが、現在日本に於ける住宅建築の實狀である。將來日本の住居を如何にすべきかといふ重要な、且つ極めて困難な問題が起るのは、蓋し當然のことである。

優美纖麗な日本風住宅に接して、最も嶄新な歐米の新傾向を追ふ住宅が、無遠慮に建てられたり、和洋を何の理解もなしに唯二つ並べて、折衷の美を就し得たと考へたりするやうな不統一、無見識は、吾々が今日到る處で實際に見るところである。試みに秋晴の一日、郊外の田園都市なる所に散策をして見る。其處に展開される種々雜多の夥しい住宅群は、目の當りに、現在日本に於ける住宅建築の錯雜相を如實に、一目の下に見せてくれるであらう。

（二）

日本の住宅建築が據つて以て進むべき確固たる理想と規準が樹立されて、現在見る如き不統一と錯雜さが、一日も速に除去されることを願ふもの、決して自分丈けではないであらう。此の將來日本の住宅建築を如何にすべきかの問題に就いては、吾々建築家は勿論、心ある一般世人も相當の苦心をしてゐるのであるが、所論區々、未だ根本的の主義精神は確立されてゐない。尙現在では暗中摸索の狀態であると考へる。

或人は、傳統の美に輝く日本風住居を最も善しとし、他の者は嶄新にして最も科學的な歐米流の住居こそ、吾等の據るべき基本的のものであるとし、更に或は此等二つの形式を結合した所謂折衷式こそ、最もよく時代の要求に適合するものであると說く。論者各々の立場から見れば、それ相當の根據と理由があらう。しかしその何れをも誤れるものといふことができぬと同じ程度に、其の何れをも正



ルードルフ、プレイスウエルク氏の住宅（バーセル市）

「郊外住宅ノ一例」



しいと言ふことはできぬ。共に一長一短、利害相半ばしてゐる。

住宅建築の根本に就いて考へて見る。

住居の根本が闡明されるならば、和、洋を超越した眞正の日本の住宅建築が、必ず創成されるであらうと信ずる。

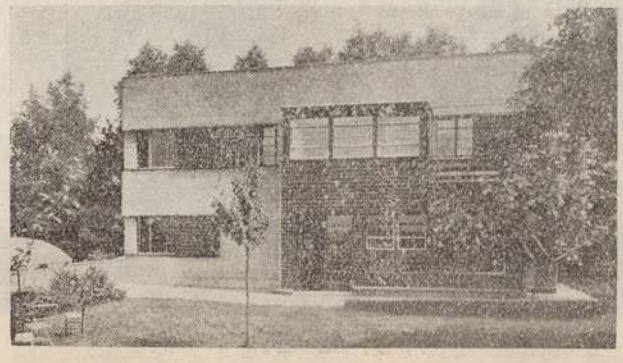
住宅建築を支配する根本的の要素は、人と自然である。（このことは單に住宅建築丈けに就いて言はれることではなくて、他の一般建築に就いても均しく言はれることであるが、住宅建築にあつては特にそうであると考へる）そして今吾々が考究の對象としてゐるのは、日本の住居にある。從つて、茲に言ふ人は日本人であり、自然は日本の自然でなければならぬ。此の日本人といふものが徹底的に理解され、日本人の生活を圍繞する環境、即ち日本の自然が的確に闡明されるならば、精神上、物質上で、最もよく日本に適合する住居が當然生まるべき筈である。

住居は人の住まふ處、即ち人間生活の容器であり、且つ最も重要な容器である。而も現代日本の住居は、現代日本人の生活の容器でなければならぬ。斯く考へるならば、各國各時代に於ける建築變遷の歷史は、とりも直さずそれら土地と時代を異にする人間生活の變化と發達の歷史でもある。

（三）

住宅建築の樣式を支配する根本のものとして、右に記した人と自然は、一般建築樣式發生の素因として、二大別して大書される人爲的素因（政治、經濟、宗教國民性、國民の風俗習慣、外國との交涉等）及び自然的素因（地理的諸條件、即ち氣候、地勢、地形、材料等）に該當するであらう。今茲に日本の政治、經濟、宗教其の他に就いて論ずる餘裕はない、又その必要もないであらう。唯今後の吾國の住居の建築を考へる場合に、最も重要なものとして、日本の國民性とその風

「小住宅の南面」



ルードルフ　プレイスウェルク氏の住宅

（バーゼル市）



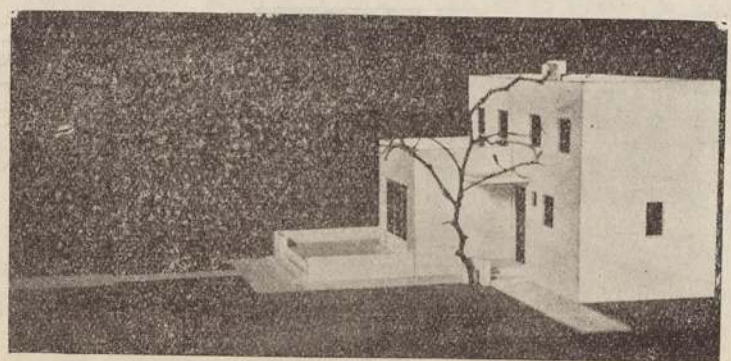
俗習慣を棄け、それらに就いて概觀し、將來日本の住宅建築が據るべき誤りなき根本方針を明にしたいと思ふ。

國民性が、如何に著しく一國の建築を支配するかは、同じルネツサンスの建築でも、英吉利、獨逸、佛蘭西、伊太利と國を異にするに從つて、相當相異なる形式と表現が見られるといふ一事でも既に容易に理解できやう。伊太利ルネツサンスと獨逸ルネツサンスの差異は、伊太利及び獨逸の國民性、風俗習慣の差異を仔細に比較考究することによつて、正しく明瞭にされるであらう。

日本の國民性と風俗習慣が如何なるものであるかを正視することによつて、古來日本の建築の持つてゐた特性、傾向、理想が正しく理解され、これによつて今後の日本の住宅建築が進むべき根本方針が確立され得るであらう。少なくもかゝる根本方針の確認に最も有力な助けの一つになり得るものと考へる。

住宅建築樣式の根本を支配する他の素因としての自然的素因とは、その地に産出する建築材料とあらゆる地理的環境の諸條件である。環境によつて住宅建築が如何に支配されるかは、同じ狹い日本の國土内でも、近畿地方と東北地方の住居建築との間に可成りの差異があることを見れば、容易に首肯されるであらう。宛も人の性格が、環境の如何によつて著しく支配され、影響されるのと全然同じ理論である。

一國の國民性が如何にその國の建築を支配するか。纖麗優美の趣味の持主である國民の建築は、自らデリケートなものとなり、雄壯活潑、尙武的の國民のもつ建築は、何處かに豪壯な武ばつた感を與へるであらうし、大言壯語、空想を好む國民の建築は、理智から遠ざかつた幻想味豊かなものとなる。熱情に滿ちた意力的の國民からは、熱血男子や熱情詩人を想はせるやうな情熱に溢れた建築が生まれるであらう。これに反し理智的な國民のもつ建築は、自然水の如き透徹さと冷かさをもち、冥想に耽り哲理を談ずるを好む國民の建築は、幽玄であり、神祕である。



外觀

アントンシュエー
ウルリッヒ氏の住宅

日本の建築、羅馬の建築、支那の建築、サラセンの建築、希臘の建築、印度の建築に就いて觀る時、一國の建築を考へる前には、是非共その國民性を理解することの必要を痛感する。

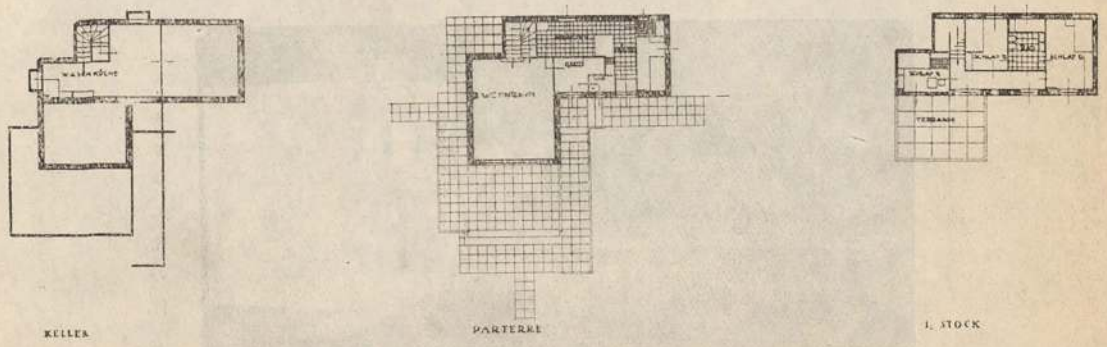
（四）

日本の國民性を見る。勿論古來制度の變遷、諸外國との交渉、宗教政治經濟の消長に伴つて、時代により相當の差異は認められるけれど、その底に流れる根本的のものは毫も變改せるを見ない。卽ち忠君愛國と傳統尊重である。上に萬世一系の皇室を戴き、純潔な血の持主として、嘗て一度も外國の侮りや革命の慘事を經驗しなかつたことは、他國に比類なき穩健にして力ある國民性を形成したのである。更に日本の建築、工藝、美術を考へる上で特に注意すべきことは、日本人が古來持ち來つた、美に對する洗練された感覺である。

如何なるものを美と感ずるか、卽ち美の標準といふことは、極めて大切なことであつて、日本人の美とし、快よしとする或る標準が明かにされるならば、將來日本の建築、引いては、將來日本の住宅建築の理想の一半が明示される筈である。

日本人は自然を愛する。このことは、社會のあらゆる部門に於て、不知不識の間に日本人によつて表明される最も麗はしい美點の一つであるが、此の如き自然愛の精神は、畢竟日本が他國に類のない美しい山紫水明の自然を持つ結果に外ならない。日本の山水の持つ慈父の如き温容は、日本人の美的感情に尠からず影響を與へてゐる。

纖麗を愛し、優雅を好み、洒脫明快にして淺薄に墮しない輕快と淡白を限りなく美しと見る。重厚、野卑、鈍重、濃厚、錯雜の如きは、正にその正反對である。此の如き日本國民の美的感情は、過去の日本の建築、工藝、一般美術に畧々遺憾なく完全に表出されてゐる。かゝる概念によつて表出される表現手法を、自分は過去の日本の傳統美と考へる。建築に於ても勿論そうである。



（圖面平）宅住の氏ヒツリルウーエ・ツントアン

建築に於ける此の傳統美こそ、吾々建築家の寸時も忘れてはならぬ珠寶であつて、かゝる長所は今後共益々助長し發展さすべきであると信ずる。斯くすることは、こりも直さず精神上で、最もよく日本人に適合する住宅建築を生む所以でもある。

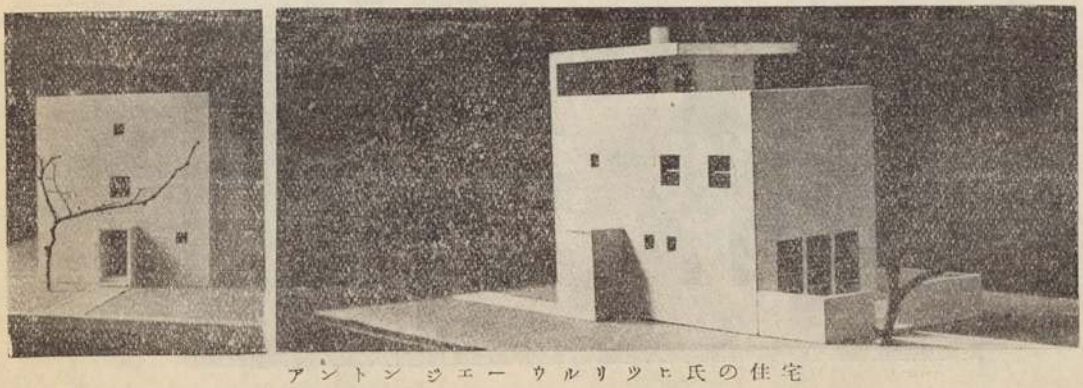
傳統的日本建築のもつ美しさの中には、クラッシックの理智的壯嚴、ロマネスクの宗教的神秘、ゴシックの信仰的峻嚴、ルネツサンスの華麗の如きは見られなくとも、其の愛すべき洗練された優美と纖麗と洒脫は、正に世界獨歩の地位を占めるものである。かゝる美的長所は、最も意義深く今後の吾が國住宅建築の持つべき最大特徴として、更に大きく強く發展さすべきものと確信する。嶄新なる歐米建築を直模倣することによつて、眞に日本の住宅建築の進むべき途を、邪路に導く愚を敢てしてはならない。

（五）

現在の日本は其の生活形式に於て、二重三重の煩雜に陷つてゐる。このことは歐米文化を急激に吸收し出してから、尚僅々六十年の歷史しか持たぬ今日の日本としては、當然のことであることも考へられやう。過渡の時代として止むを得ぬ次第であるかもしれぬ。東西文化の眞の融合の如きは、言ひ易いことであるが極めて困難の問題である。決して一朝一夕にして到達することはできぬ。豫想以上の時の流を必要とするであらう。

正確に言へば、此の過渡の時代にある現代日本人の生活に適合するための今日の住宅建築は、當然過渡時代的の不自然と不徹底に陷るといふのは寧ろ自然のことであることも考へられやう。眞に創成された新日本の文化、新日本の生活樣式が確立されるのでなければ、眞に生命ある住居の建築は日本には生まれないと考へる方が至當であり順序であるかもしれぬ。

然し何時かは必ず達成される東西文化の意味深い融合、それから起る新日本の



アントンジエーウルリツヒ氏の住宅



生活樣式の輪廓線(アウトライン)丈けでも、今日に於て略々正確に豫斷し、此の大きな理想に向つて、今日からその準備を整へるといふことは、吾々建築家として最も重要な考ふべき問題である。自分が今豫想する將來新日本の生活樣式は、在來日本の因襲的生活樣式でもなく、また歐米そのまゝを模した異邦の生活樣式でもないであらう。

惟ふに、虛心坦懷、和洋の形式に超越し、何處までも日本といふものを忘れず古來日本の生活形式のもてる傳統的美點を毫も滅さず、否寧ろ此の如き傳統的美點を益々助長し發展させた形式のものであらう。

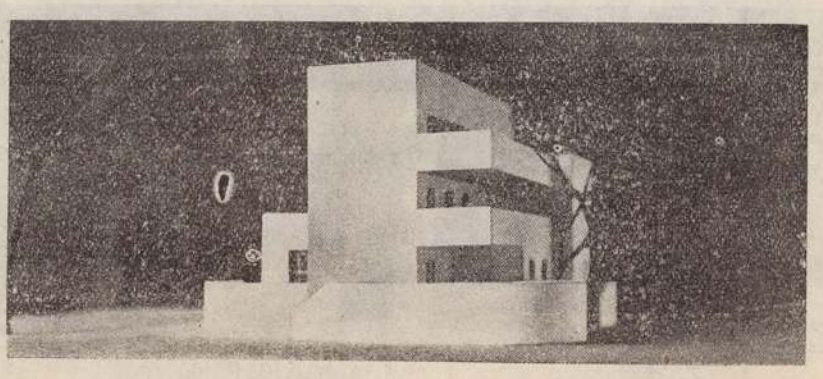
日本人であるといふことの眞の自覺があるならば、歐米の建築を無反省に、日本に移し植えるといふやうな無見識は到底できぬ筈である。吾々は何處までも日本人である。日本の土地を離れて吾々は存在し得ない。吾々は新しい宇宙人であると同時に、又純粹な日本人であるといふことを片時も忘れてはならぬ。吾々は今歐米文化の大渦巻の中に捲き込まれてゐるけれど、吾々の血管の中には古來三千年の間に豊かに培はれた日本民族といふ美しい清い血が流れてゐるといふことを牢記して忘れてはならぬ。かゝる日本人としての眞の自覺に徹底する時、將來日本の住宅建築を如何にすべきかに就いて考へる場合に、其處に一貫して準據すべき根本理想が明確に指示されるのを認めるであらう。

優美、纖麗、洒脫、輕快、淡白の如き概念で表徴される日本の建築精神は、建築と環境との調和適合を考へる場合に、それが最もよく合理的に滿足されることが判るであらう。

（六）

日本の自然を見る。

變化極まりない其の自然の美しさは、世界に誇るべき最も大きな特點の一つである。日本は世界の公園であるとは、言ひ古された言葉であるが、美しい自然の



アントン ジェー
カルクツヒ氏の住宅
「模型」



中に常住しては、往々にして其の眞の美さが感じ得られない場合が多い。シベリアの荒野を駈り、北滿洲の寥原を過ぎ、朝鮮半島の不毛を拔けて對島海峽を渡り朝陽に輝く馬關海峽の山や水に接した時、人の心は如何に救はれることか。美しい故國よ、更生の歡喜は人をして恍惚たらしめるに充分であらう。圓滿に發達した日本の自然は、他國に決して其比を見ない。山川草木、野花、鳥獸、春夏秋冬の美は、日本人をして限りなき自然の愛好者とした。

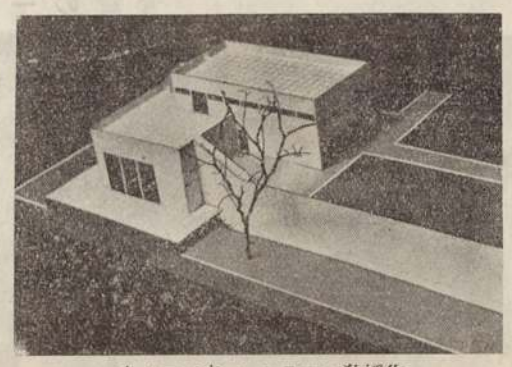
西歐の藝術が、主として人をその對象とするに反し、日本の建築、工藝、美術が一樣に自然を其の對象とし、自然と融合するを理想とするのも、蓋し決して偶然ではない。

日本の自然を考へる場合、其の優れた自然美と共に、考へらるべき他の重要な事項で、住宅建築に甚大の影響を持つものは、日本の地理的諸條件中、氣候と材料と地震といふことである。

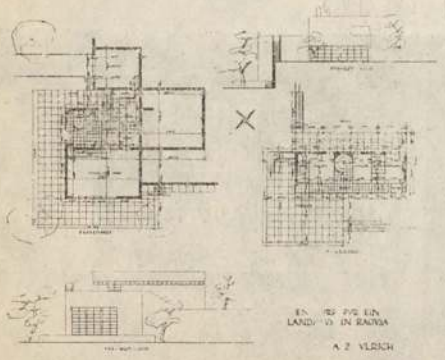
一國の文化が其の氣候によつて左右されることは極めて大きい。南歐の明い輕快の文化と、北歐の陰鬱な重い文化とを想ふ時、このことは容易に理解されるであらう。文化の差異は精神上で當然、其の建築に差異を生じ、又種々なる地理的諸條件は、直接的に建築の設備、構造其の他に甚大の影響を與へる。特にこのことは住宅建築の場合に顯著である。何故ならば住宅發生の根本は、元來自然の脅威に對して、最も安全に人を保護することに外ならぬからである。

吾が國の氣候は概括して言へば溫順である。別言すれば、冬寒夏暑の酷烈な大陸的氣候ではない。中和の氣候である。且つ概して冬季の寒さよりも、夏季の暑さの方が凌ぎ難い。溫度から言へば、左程の高溫と言ふ程ではないが、濕氣の多い結果所謂蒸し暑さを殊の外感ずる。此の點で日本の住宅は夏に重きを置く必要がある。卽ち避暑的であり、從つて開放的でなければいけない。

過去の日本の建築が、木造楣式の構造形式により、出來る丈け開口部を大にし



ウルーン市・ホフマン教授作
ラクサ村に於ける田園小住宅の一例(模型)



平面圖



努めて開放的・避暑的のものとしてゐるのは、日本に建てらるべき建築―住宅―としては、極めて合理的のものであつたと言へる。歐洲一般及び支那の建築は、窓を小さく少なくこつて、專ら冬の酷寒に備へる形式のものであるが、日本は宛もそれの正反對である。

日本の清澄な空氣と、明るい光線を考へる時、開放的なることを主眼とする住宅は、最も好ましい似つかはしいものである。且つ日本が稀有の雨量の多い國であるといふ事實の上からも、換氣通風の上で、此の開放的住宅の形式が最も合理的なものであることが判る。

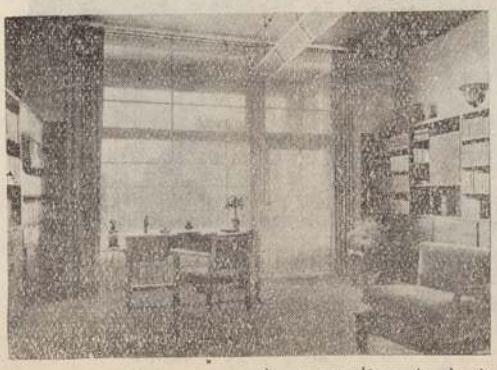
又この開放的であるといふことが、日本人の美的感情を滿足する規準とも見られる、纖麗　優美、輕快、洒脫の如き概念と極めて巧みに合致する表現を具體化す上に極めて好都合であることを、特に注意したいと思ふ。更に此の住宅建築を輕快な開放的な表現のものとする場合に、日本に於ける住宅建築の基本材料と構造法に些の抵抪を來さない許りでなく、寧ろそれらの基本建築材料と構造法とに最も理論的に適合するものである。

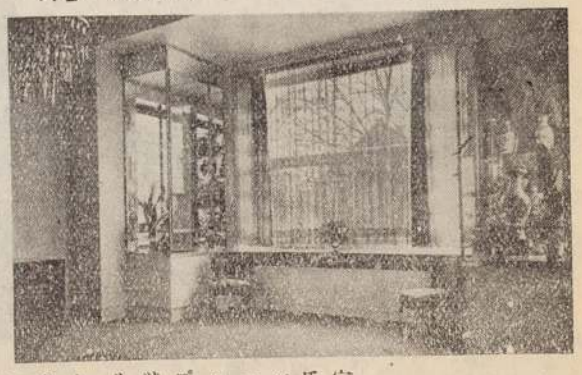
（七）

住宅建築に於ける基本的の材料と、それから必然的に起つてくる合理的構造法に就いて考へて見る。過去に於て、日本の殆んどすべての建築は、木造建築であつた。明治以後、煉瓦造、石造、木骨煉瓦(石)造の如きが行はれ、近來、鐵骨造鐵筋コンクリート造、鐵骨鐵筋コンクリート造の如き新構造形式が盛に採用され出した。日本の如き地震國に、煉瓦造や石造の建築が不適當であることは、茲に贅言を要しない。採用すべく殘された構造の基本は、木造か鐵筋(時に鐵骨鐵筋)コンクリート造か鐵骨造である。普通住宅の場合にあつては、木造か鐵筋コンクリート造である。

住宅建築の場合にあつても、理想としては耐震的であり且つ耐火的である鐵筋

「食堂の一部」（庭園側）





ケルン市・ウイルヘルム・リツプハーン氏宅



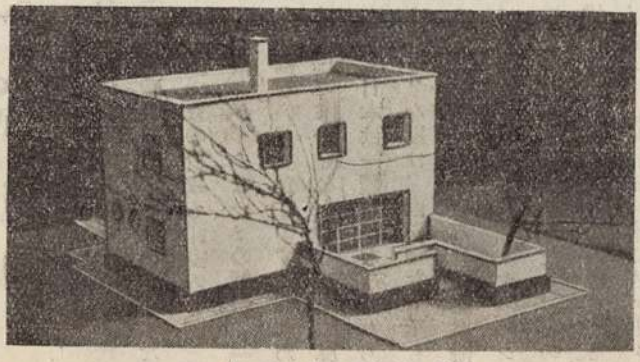
コンクリート造にするのが最も望ましいことではあるが、然し實際の場合には、住宅の最大多數は在來通り木造による現狀であり、將來もそうであらうと考へる。住宅建築を木造にするといふことは、決して根本的に誤つたことではない。都市内で人家稠密の場合は別であるが、一般に住宅建築を木造にするか鐵筋コンクリート造にするかは、主として經濟上の方面から論議され決定さるべきものであり、又時には全然趣味の問題の場合もある。住宅の如き性質の建築を永久的なものとするといふことに對して異議ある場合もあるであらう。此の問題は時と場合によつて相當融通性を保有すべきもので、頭から住宅建築は鐵筋コンクリート造にすべきものと言ふやうな考へは、餘り感服できぬものである。

其の何れによるも、耐震的の構造にすることは、相當の注意によつて、同じ程度に實現できることである。即ち何れも構架法によるもので、荷重は柱の如き直立材と、桁梁の如き横架材によつて支持され、地震の如き外力に對しては、架構全體が一體となつて抵抗する形式である。兩者共其の架構の根本方針は、全然同じい理論と基礎の上に立つものである。かゝる形式の構造法は、日本に於ける住宅建築の根本的特質であるべき筈の開放性を實行する上で、極めて好都合である。石造や煉瓦造ではその構造上到底許されぬやうな開口部の大きな建築も、木造や鐵筋コンクリート造による時は、極めて容易に實現できる。極端に言へば、架構それ自身丈けで、既に立派に外力に抵抗出來るものである。

鐵筋コンクリート造や木造の住宅で、石や煉瓦による歐米風住宅建築を、その表現の上で模倣するといふことは、此の材料、構造上から見ても、滑稽な不合理極まるものであることが判るであらう。大きな窓、打ち開いた椽側、深い軒の出の如きは、あらゆる點で合理的であり、且つ日本人としての眞の傳統的趣味に合致するものである。此の如き長所は何時までも傳承し相傳ふべきものである。小さな窓を持つた西洋流住宅は、好奇の域から一歩進んだ日本人には到底耐へられぬものであらう。而もそれは決して單なる趣味の上からではなくて、理論上から

小住宅ノ一例

敷地六九・三十平方米突



ウヰーン市　ホフマン教授作

ルードルフ　ツロストラー氏宅



も、日本の自然、氣候其の他の地理的諸條件に適合するものであることを考へるならば、所謂世に謂ふ文化住宅の如き淺薄な安價な住宅が、根本的に誤つたものであることが、明瞭に指摘できるであらう。

（八）

斯く述べきたるならば、自分は宛も在來の日本流住宅が、最もよく日本に適合した住宅建築であることを考へ、夫れを今後共永久に傳承すべきであることを信じてゐるかの如くに思はれるかもしれぬ。しかし決してそうではない。

なる程過去の日本人が住まふための住居としては、在來の日本流住宅なる一形式が最も適合性に富んだかもしれぬ。然し現在又は將來の住居は、決して過去の日本人のための住居ではなくて、現代に生きる日本人、更に將來に生きやうとする日本人のための住居である。其の生活は過去の日本の生活ではなくて、現代の又將來の日本の生活である。其の住居は過去の日本人の生活の容器ではなくて、現代の及び將來の日本人の生活の容器である。斯く考へるならば、唯徒に過去の日本住居の傳統にのみ醉ふことの誤であるは言ふを俟たぬ。

自分は決して在來日本風の住宅、即所謂和風住宅の千遍一律の住居形式を最善のものとは思はぬ。それは多くの點で餘りにも因襲的であり過ぎる。然し現時往々にして見るところの文化住宅式の餘りにも淺薄な非日本的の住宅は、より以上に好ましからぬものと思ふ。鐵筋コレクリート造の住宅なればとて、歐米の住宅其の儘を再現して誇るが如きは、不見識の甚しいもので、何れも深い洞察と沈思と熟考とを缺いてゐる。繰返し茲に、鐵筋コンクリート構法の根本精神は、木構法の根本精神と些の差異がないことを强調したいと思ふ。

木造住宅にあつては勿論、鐵筋コンクリート造住宅にあつても、重厚な隱蔽的な、非開放的の取扱は極力避くべきものである。

在來の日本風住宅の傳統的形式及び歐米流の住宅形式の何れをも、徹底的に

微苦笑

▲

T

◇西洋嵐

彫刻家の藤井浩祐氏が、目覺ましく復興されてゆく東京の街々を見て、新しく建つ家に歐風を加味しないものがなく、中產階級向きの貸家も洋室の一間でもなければ借り手が少ないとの話に、『家ばかりではない、衣食住のすべてにわたつて、少しの休みもなくごし〳〵歐風化されて行く日本は一體どうなるんだらう』と大なる？を投げ、西洋物なら玉も瓦もごつちやに鵜呑みにする日本珍風俗、和服に二重廻し御自身のメリヤスのシヤツに黒マントまで氣になりだし、盲の股引、紺の足袋に腹裏のつつかけ草履と相場の極まつた職人がゴム靴にスエーター、印半纏にツルシの外套で鞄をさげてきたのに驚ろいたら大工さん眞面目で「これでなけりや電車にのせませんや、私たつて道具箱をかついで歩きたいのですがね、使つて見りや鞄も便利でさ」で至極道



察して、而もその何れもから超越して、精神上且つ物質上、最も好ましい立派な「日本の住宅」と言ひ得るものを創成したいと言ふのが、自分の希ふところの核心に外ならぬ。

現在吾々建築家一般が陥つてゐる最大の過誤の一つは、在來の日本風住宅建築のもつ缺點丈けを摘發するに急であつて、其の中に藏されてゐる長所や美點をまで、弊履の如くに捨て、顧みないといふ點ではなからうか。成程過去の在來の和風住宅は、非科學的な點が多い。因襲的の卑屈の部分がある。更に多くの點で科學的に研究され、處理さるべきものが夥しくあることは事實である。然しこの在來の日本風住宅建築の中に藏された精神的の感情美とも言ふべき要素は、日本人としてどうしても忘れてはならぬものであり、又事實忘れられぬ性質のものである。單なる趣味上の問題に過ぎずとさへ考へられてゐる殆んどすべての部分が、仔細に檢討して見れば、住宅建築で最も大切な要素であるところの、環境との適合といふことを完全に果してゐるのを見る時、益々此の感を深うする次第である。

無意味の線や、不徹底の面の多い西洋流の住宅建築よりも、一本の線、一つの面にも構造的の美しさ、理論上の意味のある日本流住宅から、吾々の學ぶべきことは極めて多いと思ふ。

（九）

在來の日本風住宅建築で注意される缺點は、其の構造、設備の上で見られる非科學的の部分である。かゝる諸點は、躊躇するところなく改善さるべきで、科學的に研究すれば、自らそれらは最新の智識によつて、殆んど完全に補ふことができるであらう。此の意味で自分は決して、在來の日本流住宅に些の執着も未練も持たぬものである。しかし此の場合とても忘れてならぬことは、何處までも日本人の住まふ日本といふ土地の上に建てられる住居であるといふことである。斯く日本人の住まふ家といふことを基礎とし、斷えず念頭に置いて、其の上に純科學理、笑つた氏が一本參る。

◇超專門家

學校を飛びだしたら小專問家、それが一の主題を研究して論文を提出すれば大專問家の博士となる。この間に大博士の必要が起るのだそうです。

こゝに泥棒が泥棒よけ秘密自働戸締器を發明しすでに專賣特許を得たといふ話があるんですこの泥棒先生なぞは御自身の專問である泥棒を究め盡くし貰き？體驗によつて、泥棒よけを發明したのですから超專問家とでも云ふべきでせう。建築家も一度聽講の必要ありですね。

然るに、然るに泥棒よけ秘密自働戸締器賣出しの資金を得るために、一寸專問に立ち歸つたところを「御用！」

◇泥棒洪水

警視廳で犯罪中最も多い泥棒の對策を建築關係とも協議してきめるそうです。理由は昨年一月から十一月迄、十一ヶ月の被害數、六萬三百二十七件中大部分が建築の不備に因るからだそうです。對策として曰く



的の討究の結果善しとして建てられる住宅建築こそ、吾々の求めて止まぬ眞正の日本の住宅建築である。

この眞正の日本の住宅は、果して如何なる姿で表れて來るであらうか。最も興味ある問題である。自分は思ふ。それは決して歐米流を眞似た現在の文化住宅や、無理解な和洋の併列に過ぎぬ折衷式といふが如き無責任なものではなくて、夫れ等とは非常に異つたものであらう。

自分が今心に描いてをり、且つ早晩それの實現を期待できる眞正の日本住宅の根本的眞髄は、骨肉的に融合し、渾然と大成された、眞に理解され意義ある和洋の化成である。決してそれは單なる混成ではない。

心に描く將來日本の住居國とはごんなものであらうか。

深い軒の出。(これは鐵筋コンクリートでも容易に、自由に構成される)輕い深い廂を持つ打ちひらいた椽側やヴエランダ。木造住宅の場合では、緩すぎず急すぎぬ適度の勾配を持つ落ち付いた色調の瓦屋根。(所謂赤瓦の如きは餘り用ひられない)鐵筋コンクリートの場合では、屋根は必ず陸屋根になつてゐるであらう。屋上の快は鐵筋コンクリート造住家丈けに許された長所であり、特權であるからである。屋上に出ることは、自然に親しみを持つ日本人の必ず喜ぶことの一つである。勾配屋根を持たなければ、住宅らしくないと言ふのは、最も固陋な因襲に捉はれた考へである。

材料と構造上から、最も合理的であるこの鐵筋コンクリート造住家の陸屋根を笑ふ人が萬一あるならば、それは材料と構造と表現の三位一體の醍醐味を知らぬ人である。春の朝、夏の夜、秋の夕、冬の日、其の折々の此の屋上での團欒は限りなき魅力を吾々に與へるであらう。斯く住宅の屋根を陸(フラット)にすることの結果懸念されることの一つは、冬寒夏暑が烈しく感ぜられるであらうと言ふことであるが、

△戸の「ミゾ」を現在の三四分を一寸以上にする事

△窓の外に相當の棚を設ける事

△軒下の土臺を石又はコンクリートでかためる事

△硝子戸の外側に板戸を締める事

だそうです、然し泥棒は堤を破る洪水のやうに少しでも弱い所を見付けて、警官や建築家以上の新知識を傾けて來襲します。私の友人のところでは戸締りを嚴重にしたら壁を破つて入つて來たそうです。内證で一寸秘傳をお聞かせしませうか、飯粒と布裂があつたら板が自由にひけるそうです。但し私の智惠ではありませんよ。

ごごかの留置場で脫獄の名手が「コンクリートだけは手が出せねえ」と三嘆之れを久しくしたそうです。

生じつかな小細工をするより住宅はコンクリートに限るごでも制定せねばなりますまい。



しかしこれは全然杞憂である。適當の深さを持つ天井を設けることによつて完全に、此の心配は除去されるであらう。

窓はできる丈け廣く大きく取られる。開放的であるべき日本住家の眞精神は、斯くすることによつて巧みに滿足される。明るい日本人の心は、西洋流の小さな窓の部屋では、其の採光度はたとへ充分であつても、決して滿足されない。庭は座敷の延長でなければならぬ。此の窓に關して注意すべきことは、窓は單に採光のためにのみ在るといふ片寄つた考へを捨てることで、窓はさう簡單なものではない。

部屋を落ち付かせるために、窓の大いさを故意に比較的小さくするやうなのは、最も誤れるものである。南側や東側の椽側に壁と言ふものを全然設けない日本流の窓(それは窓といふには餘りに大きすぎるが)の取扱は、日本には最もよく適合する理想的の手法である。通風換氣を能ふ限りよくするには、出來る丈け窓を大きくすべきであつて、此の打ちひらいた椽側のもつ氣分は、取りも直さず日本人が過去に於いて、相繼ぎ相傳へきたつた和風住宅の持つ一大美點である。構造上も些の不合理の點のない此の傳統的長所は今後共永く相傳ふべきものである。

西洋流の小さな窓は、見た丈けで夏の灼くやうな暑苦しさが思はれてならぬ。打ち開いた窓は、冬の陽を部屋一杯に受け入れるためにも極めて有効である。斯く主要の窓を大きくすれば、自然其の上に深い軒の出が必要とされる。日本の如く一年の殆ど三分の一が雨であるやうな土地では、深い庇は當然設けらるべきである。此の深い軒の出は、見た上で非常に安定な落ち付きを覺えしめるものである。

持出し(カンティレヴァリング)の美を最近に至つて歐米の建築家達は見出したやうであるが、これは鐵骨や鐵筋コンクリートと言ふ新構造材料から當然見出さるべきものであるが、日本の過去の建築は遠い昔から、持出しの美に成功してゐる。更に構成の美といふやうなことも、過去の日本の建築家は、直感的に驚くべき其の表現に徹底して

建築と社會 ニュース

昨年は財界稀に見る大波瀾の影響を受け建築界は微々として振はなかつた。東京に就いて見れば昨年上半期警視廳調査に從へば復興本建築棟數千七百六十一棟の內鐵筋コンクリート造は僅かに一〇・二%を占めるに過ぎず其の大部分八八・二%を占めるものは木造の小建築にすぎない狀態あである。又大阪に於ては昨年に於ける新建築の主なるもの僅かに十餘を數へるのみ是に小學校建築が稍々行はれたるに止る。京都も同樣であり昨年一月より九月までの統計の示す所に依れば新築棟數二千七百九十四棟に對し增築棟數千七百四棟改築棟數七千八百七十九棟の多きに達し同樣に財界不況を如實に物語つてゐるのであるがこの程に至り漸く金融界も安定するに至つたので一時計畫を手控へてゐた銀行會社の民間方面並に官廳方面の仕事も陸續計畫せられ殊に今秋の御大典に際しこれが記念事業として行はれるもの少からず甚だ注目に値するものがある。

こゝに關西方面を主として有數建築物の最近の狀況を蒐め好況なる本年度建築界の一端を窺ふことゝする

世界一の兒童研究所



る。此の如き點でも、吾等の學ぶべき者は、最新の歐米ではなくて、過去の日本であることが知れやう。

（十）

斯く自分の豫想する日本將來の住宅建築の外部に就いて述べた輪廓の綱領は、均しく其の内部に於いても同樣に適用されるであらう。此の内部を考へる場合に當つて、煖房、衛生、厨房其の他の諸設備の改善の如きは、純科學的の立場から研究され解決さるべきは勿論である。夫等を具體的に如何にすべきかに就いては、茲に述べる餘裕はない、又其の必要もないであらう。

座式にすべきか、腰掛式にすべきかの如き問題は、趣味や感情上の問題ではない。理論上國民衛生の立場から論ずれば、一刀兩斷的に解決されるであらう。注意すべき重要なことは、趣味上、感情上から取扱ふべき問題と、理論上、科學上の立場から處理さるべき問題とを明快に區別して、些の矛盾と撞着をきたさないことである。斯く考へきたるならば、建築家は、決して唯の技術丈けの人であつては不充分である。あらゆる方面に對して透徹した理解と、明晰な判斷の所有者でなければならぬ。

以上述べきたつたことは、將來の日本の住居といふものに就いて何等具體的の明示もしてをらず、隔靴搔痒の感がないでもない。又與へられた課題と一致しないかもしれぬ。しかし自分は考へるに、住宅の諸設備其の他の改善も重要ではあるが、更に重要なことは、現代日本に於ける住宅建築にみる不統一、錯雜を除去することであると思ふ。其のためには、住宅建築に於いて、吾々の據つて以て進むべき一大理想を確立しなければいけぬと信じてゐる。敢て拙考を披瀝した所以である。

大阪府社會課では今秋行はせられる御大典記念事業として府立兒童中央研究所を設立すべく計畫中であつたがこの程に至り漸く大體方針を決定した。その内容によると現在の大阪市此花區上福島府保嬰館の規模を擴張して工費百萬圓を以て研究所を建設しようと云ふのであるがその内部には乳兒院、乳兒病院、母親收容院、託兒院及看護婦並に助産婦の學校を新設する外諸般の研究設備と共に全國の幼兒保護機關とする計畫で建物については府營繕課に於て近く具體的の設計に着手する由である。この種の研究所の未だ世界にも稀であつて獨逸のベルリン及ウイーンに一ケ所あるのみであるが今回の計畫はこれにもまして理想的のものとする意氣込みであると。

北野病院

工費三十八萬圓を以て松村組が施工したもので、設計は森田氏。この程竣工した。本館は延坪約二千坪の鐵筋コンクリート構造、地階共五階建一部三階で病室別館は約二百坪の地階附三階建のものである。外部は正面及東側を煉瓦張りとし他はモルタル仕上げで窓並に入口はスチールサッシュ及スチールドアーを用ひ、内部床は會議室診療室等フローリングブロック床となし、玄關廻り石敷鋪裝タイル等を使用病室はモルタルとなし設備に於ては完備をつくし、赤十字病院の設備を模したる理想的な病院である。

帝國キネマ撮影場新築



以上は、自分が平生抱いてゐる、日本將來の住宅建築への理解である。プロツトすべき曲線もなければ、實驗すべき試驗體にも據つてゐない。證明すべき方程式もなければ、確證すべきモデルもない。然し自分は自分の此の理解を飽迄正しいものと信じてをり、今後共斯く信じ得るであらうと思つてゐる。

識者の明晰なる批判を得ることができれば幸甚である。

——昭和二年十月三日——

參等當選論文



田中進

同君略歷

田中氏は全く眞面目そのものゝ如く眞摯にして且異常なる努力家であるその學習の過程に於いても實に求めて止むなきていのものあるを認められる。初め關西商工學校に學び業卒へて更に大阪市立工業專修校の高等科に入り卒業後文部省の實業學校卒業程度檢定試驗に合格し直に都島工業學校に奉職轉じて現在は神戸高工に奉職中にして其間一日として斯界の研究を怠らず今回の當選も實に過然でない事がよく判る次第である。

靜かな小雨降る秋の午後、若き建築家は疲れた身體を藤椅子に寄せてぼんやりと遙かなる紫の山を眺めて居たが、やがて何時とも無しにうと〳〵と夢路に入つた。

× × × ×

夢は時間を飛び越えて百年の先を行く。

× × × ×

今日も午前五時半ラジオの報ずる起床ベルに私は跳起きた、そしてシヤツのまゝ裏庭に出て濃綠に繁る懷しの森を見ながら新しい冷たい地下水で冷水摩擦をすまし、直ぐ脇手の花壇に飛び入り朝の散水へと取掛つた、そこには一日々々と無心に育つ美しい花々が、今日は亦めづらしくも大きな顏を見せて、やがて昇る太帝キネでは目下大軌沿線長瀨に東洋一の大スタヂヤを建設中である。設計及施工共大阪橋本組。敷地は約一萬坪で建坪二千餘坪。スヂーヂは梁間九十呎高四十呎。スリーヒンヂドアーチで優に三階以上の建物を抱擁し得るものである。本年三月完成の豫定。

南海ビル

南海鐵道では工費約二百萬圓を投じて難波驛頭に高層なる大ビルヂヤングを新設する計畫中である由につき阪急、大軌ビルと共に完成のあかつきは一偉觀を呈するものと思はれる。

北濱大阪株式取引場

現敷地を擴張し東洋一の大取引場建築の計畫であると。

電氣倶樂部

かねて計畫中であつた電氣倶樂部新築はこの程に至り漸く進渉し調査委員を擧げ工費約五十萬圓を以て新築する筈である。

十合呉服店の改築

大阪市心齋橋筋十合呉服店にては現在市内に於ける三越、大丸、高島屋、白木屋等の各デパートメントストアが何れも大建築物を有し市の建築美觀を代表するに鑑みかれてから相當の大建築を建設すべく計畫中であつたが現在の敷地だけでは未だ狹隘の爲これを擴張する事とし接續した敷地の買收交渉中のとこ



陽を首長くして待つてゐる、朝の第一の日課を終えた私は、二階の私室に歸り寢臺を天井に押上げた、これは壁にあるハンドルに手を掛けると寢臺は天井の隅にする〳〵と釣上げられその後には壁から引出したテーブルを置き机の補助をなさしめるのである。

それから我が住宅群の街角にある自撤郵便函（索道式に依り遠い中央の局から各宅宛の郵便物新聞を函番號により街角まで自動急送し處定の函へ自動投入するものである）迄散歩に出で父の讀む可き第一朝刊を受取つて歸る、待つ程もなくラジオは六時を報じ朝のニュースと修身講話が初まつた。私は父母や弟妹と、奥の明るい、そして日本古風の茶庭に面した茶の間に集り朝の挨拶を終え、そこで都會の新しい出來事を耳にしながら樂しく食事を終えた。六時半から七時半迄私は室で今日の研究事項を纒めデサインの草案に手をふれた。

そして七時四十分には街角から出發する高速飛行筒（索道式プロペラ廻轉）で十里先の我が建築大學へと向つたのである、今を去る百年には急行の路面電車で三四十分もかゝつたのであるが今では僅か十分を出ず通學をする事が出來るのである。こゝ三四十年來この高速飛行筒が交通の主體と變つてからは、その料金の安價な點と絶對安全とに依り、昔の汽車電車は今では極く近距離にしか用ひられなくなつた、それも電氣自動車の壓迫に耐え兼ねて、都會近くの住宅群では見られなくなつた。電氣鐵道、電車は今では田舍廻りをして貨物の運搬に僅かに活路を開いてゐるのである。

目まぐるしい道中もほんの一瞬、我が大學のほど遠からぬステーションに下車した私は、並木の茂る廣い公園を通りぬけ學校へ着いた。

こゝで一つ建築大學の内容をお話して見やう。

我が大學は大正、昭和初期の昔では工科大學の一分科として設置されて居たのであるが、今日に於ては建築は人類生活上第一必要事項の部門と認められるゝに至り、次第に理想化して今では獨立して單科の大學となつてゐる。そして美術學校

大阪市立桃山病院改築

大阪市天王寺區筆ヶ崎町の桃山病院は工費百二十萬圓を以て本館を除く病院の大部分を根本的に大改築する事になつた。大體鐵筋コンクリート構造地下室共三階建とし病室は非常時に備へる爲なるべく少間を避けて廣間を取る方針である。

大和田公設市場

これは鮫江森小路市場と同一のもので鐵筋コンクリート平屋建、目下設計中である。

大阪舊市一のアパートメント

大阪市が市内十六ヶ所に亙る要改良住宅改良計畫に屬するもの、一とつとして先づ西成區東入船町より建設される事となつた。この建物は約六百坪の敷地に對し鐵筋コンクリート構造になる三階建で七十八戸を含むものである。一戸は二室と一坪の土間を附け室内和風とし各戸は廊下で結ばれ戸毎に專用水道、瓦斯、便所物干場等を設備し衛生上、防火上に細心の苦心が拂はれ又各收容者の商買道具を納入すべき鐵網コンクリート造の平屋物置も建てる筈である。これが工事は近く認可あり次第着工の豫定である。本計畫の總工費は七百萬圓で昭和八年までに全部完成せしめる豫ろ最近實收決定したので今回愈々改築する事となり目下設計を急ぎつゝある模樣である。工費約百二、三十萬圓、建坪約一千坪で延坪は約六、七千坪に及ぶ鐵筋コンクリート構造七階建位のものとする由。



工藝學校、園藝學校等の專門學校の一部或は全部を包括して一つの大きな學窓となつて仕舞つた。內に入ればそれは丁度博物館の樣であり、その昔、博物館、美術館の少なかつた日本も、學者の努力國民の援助と相待つて藝術方面は次第に整理せられたのである。殊に意匠部歷史科、美術科の標本陳列室などは遂に英國或はカイロ博物館等に對抗し得る迄に進み、東洋の偉大なる殿堂と認められ羨まれる樣になつて、我が日本文化に絕大の貢獻をなしつゝあるのである。

學校の組織は、二大別して意匠部と構造部とに分括され、意匠部には歷史科（考古學講座を含む）、裝飾意匠科、住宅科、都市計畫科、庭園科があり、別に純美術科（彫刻、彫塑、繪畫の純美術）を持つ。

又構造部には構造科（鐵筋、鐵骨、木造等の一般構造）、力學科、物理科、設備科（衛生工學等の附帶設備全般）、材料科があり別に新科學研究室及同部を總括しての大實驗室が設置されてゐる。

而して各科には數個の講座が設けられてあり、學生は陳列室、實驗室と合せて各部の完全なる圖書館を利用する事に依り、ほんとに愉快な研究を續け得るのである。

當實驗室では近來教授と學生の共力により盛んに世界的發明、發見を發表して大いに我大和民族の頭腦の明晰さを示し、茲界を益しつゝある事亦甚だ大である。

我大學では講義は兩部を合せて學生の隨意選擇となし、修業年限には限定がない、唯學生は構造、意匠兩部の講座を巧みに組合せ、以て完全なる建築家となつて巢立するので、與へられた建築士の肩書きこそ最大の名譽と云ふ可きである。

學校での第一の仕事は八時先づ全校數百の學生が、自身の手によつて淸められた廣い綠の校庭で鬱然たる林に圍れながら、國旗校旗への敬禮の式に列し、勇膽の氣を更に革にし、次に國民體操を終えたら三々五々各研究教室へと急ぐのである。

私は幸ひ意匠部に籍を置き、住宅科の講義を主體に研究してゐるので以下現今

定である由。

美術館地鎭祭

大阪市立美術館基礎工事は九萬一千八百圓の工費を以て大林組の請負ふ所となつたがさる一月十七日午前十時より茶臼山で地鎭祭が擧行された。これは建坪千二百十三坪のものである。

阪急本館

目下工事中の阪神急行電鐵梅田本館新築は建坪二百餘坪七階建の鐵筋コンクリートのビルディングになり地下室は二層あつてその最下層は將來開通するサヴウエイに供へる爲であると。

東洋一の郵便局

これが完成は昭和十年頃であるが大阪驛構內の西端約三千坪を敷地に當て五百萬圓の工事費を以て地下線により郵便局構內に郵便列車をそのまゝ引入れ得ると云ふ、東洋一の中央郵便局を計畫中である。

野田醬油工場新設

野田醬油會社では豫て秘密裡に新工場を建設すべく計畫を進めてゐたが、今回兵庫縣加古郡別所村地內に數千坪の敷地を買收し工場を新設する事となり既に具體的に準備を進めてゐるが近く工事に着手する豫定である。

豐岡劇場

場所は兵庫縣豐岡町元町四、五丁目及圓山町七千坪の中心地三百五十坪で鐵骨コンクリ



の住宅につきその大略を述べて見様う。

昭治の世に、一時に鎖國の風習から開放された日本は、外國の文化を取入れるに急な爲一も佛蘭西、二も獨乙と全くその模倣にのみ追はれ、一時はごこ迄歐化主義に風靡さるゝかと心あるものは皆憂慮したのであるが、幸ひ世人は、熟ある我が建築家の言葉にも耳を傾け出し、その指導にも從ふ樣になり、やがて舶來病の惡夢から醒めて來て、今では全く、日本精神を持つ一つの型を鑄造して仕舞つたのである。

住宅の樣式につきては、材料の變化に從ひ大分大正時代のものとは變つてきたが、所謂大和魂を持つた日本住宅は今では外國の追隨を許さぬ獨特のものとなす三千年の歷史を持つ祖先傳來の奥行かしい、落付きのある感じを表現し、手法は益々醇化せられ、洗鍊せられ、その細部に於ける日本趣味、東洋趣味の巧みな應用と共に、いよ〳〵世界住宅界の寵兒となつた、諸外國でも一世紀程前から東洋文化の研究がいよ〳〵盛んになり今やその最隆盛期に入つてきた、從つて住宅方面に於てもその注目は甚だ嚴であり、日本建築家の作品とあらば必ず批判され、優秀な手法、構造は各地に多くの手本を示し、外國建築家をして全く敬服せしめ得る樣になつたのである。

大正の昔、日本各地に輩出した赤や青の玩具の樣な安ものは何時しか行衛不明となり、亦マッチ箱然たる無味乾燥な住宅は、藝術國たる日本人の永住の慰安所休息所としては餘りに貧弱に過ぎたのでこれも亦今では目に止らぬ樣になつた、やはり日本には、日本藝術を生みの親と持ち、最新科學を學んだ子のみが榮えて仕舞つたのである。

では構造方面は如何に變つてきたか？

十九世紀より二十世紀にかけては住宅構造の骨子になる木材は未だ相當豊富に供給し得られてゐたが二十一世紀に近づくに從ひ、文化の急激なる進展、諸工業の異狀の發達の爲木材は亂費せられ全世界を通じての饑饉を招いた、我日本に於

ート座總延坪三百餘坪、本年八九月頃完成の筈である。

箕面村新計畫

本年度の御大典記念事業として四々年程度の裁縫學校を新設し同時に小學校全部を改築して鐵筋コンクリート三階建となし二階を講堂にするとの。

東京府の要改良住宅改良

東京府下三河島の百軒長屋と云へば東京でも代表的な不良住宅であるが東京府社會課ではこの程土地六千三百餘坪及び從來の百軒長家を買收して其跡へ鐵筋コンクリート木造混合の三階建數棟を建築する筈である。

國産振興博上棟式

御大禮記念國産振興東京博覽會上棟式は十六日午前十時から現場に於て擧行された。この日 閑院宮殿下總裁として御台臨あり形の如く祭典を行はれて後、總裁宮殿下の御令旨に對し會長の答辭、來賓祝辭等があつて後立食の饗應があつた。

三井本館

東京市日本橋區駿河町にかれてジエームスチアート合資會社によつて請負工事中であつたが愈々本年中に完成される筈である。因に該建物の設計はニューヨーク市トロヴブリツヂエンドリビングストン建築事務所工事主任はジョン、エム、パリツシユ氏、ワークメンサプライは清水組である。



ても元々建築用材を米國より、製紙用材を露國より、亦木炭下駄用材を支那から輸入し、やゝやく需給のバランスを取つてゐたが、無秩序な濫伐の爲、政府は遂に發電用水源の涸渇防止、氣候の調節、土壤の流失防止、風景保護等、種々の立場から木材の伐採に、制限を加えらるゝ事となつた。それで木造を以て全國を埋めてゐた我國の住宅も遂に革命期を迎えねば立行かなくなつたのである。

即ち木材は室内の極く一部にしか使用せず、その壁體はこれを鐵筋混凝土を以て施工し、或は地方によりセメントの代用として火山灰を盛んに用ひた、亦竹とコンクリートとを組合せる事も考え出され、寒い地方では强韌なそして一體的に組立られる煉瓦が考案され使用された、尙柱の骨組を鐵骨とし、鐵網と混凝土とで壁を造る法も住宅にぼつ〳〵用ひられてきた。

屋根は昔しは重い土と瓦で葺いてゐたが近頃は、小屋組を輕量にして丈夫な鐵材で組み、その上に、人造の割れないスレート又は金屬製の永久的な輕瓦を葺上げ、しかもその外觀は依然として軒出のある日本古有のゆかしい表現を保たしたのである。

上記の構造を主體にして、尙日本特有の地震を考慮し、總ての構造は完全に耐震的耐火的の施工を加えられたので、大正大震災以後度々の地震襲來にも、國民は別に被害も受けず、大きな火災も漸次數を減じ、生活上一大安心を與えたのである。

室内　建具も以前は總て木材と紙との組合で仕上げでゐたが木材が不自由、且高價となつてからは、これに變へ輕い合金製の金物を役立せ、紙も、防濕、耐火耐久の諸點を滿足せしめる皮狀の化學加工品が安價に手に入る樣になつた。

尙割れない、火に强い硝子が發明、普及さるゝに及びこれを併用したので、二十世紀迄愛用されたフスマや唐紙、障子は今では、標本室の一隅に飾られてゐるに過ぎない次第である。

次に疊であるが、坐式生活を二千年來固持してゐた大和民族に椅子式生活の强

警視廳

場所は東京櫻田門外、工費六百萬圓鐵筋コンクリート五階建、延坪八千六百四十九坪で完成は昭和四年の豫定である。

八重洲ビル

三菱地所部營繕課設計にかゝわり大林組が實費精算請負に當つたもので本年三月頃には完成を見るであらう。

東京美術館增築工事

東京市下谷區上野美術館の增築工事は現在の美術館建物の裏手に新築するもので內容は延坪九百八十坪、構造鐵筋コンクリート屋根で外裝は鐵筋コンクリート工期八ケ月で目下東京府營繕課で設計中で近く完了の豫定であるから近日中に入札し着工の段取りである。

秋葉ケ原驛

東洋一の大貨物驛秋葉原驛は最近漸く工事の半分が出來たので愈々三月早々から新驛に引移る事となつた。驛が完成するのは凡そ二年後で總工費は約八百萬圓である。

上野驛

かねて設計中であつた上野驛を又々設計變更した結果、同驛の新築工費は最初の豫定三百五、六十萬圓より約百萬圓を節約し得ると云ふ事でおそくも來年早々より工事に着手する事となつた。完成は昭和六年六七月の頃である。



制は誠に大問題ではあつた、しかし衛生上餘り好ましからざる點及一日の活動が全部立業となつた時代にいつ迄も疊に執着するの不便が明かになつたので活動をしてゐるものは漸次疊から遠ざかつて來たのである。床の構造も版式と變つたので、今ではその上にコルク版を敷つめ、その上に敷物を用ひて椅子式とするか、老人共は、疊表等を上に敷きて疊生活の名殘を止めてゐるのである。而して老人の說に依れば、コルク敷は疊敷より保溫的であり、防濕的な爲、例へ坐つても居心地は數倍優るそうである。

臺所の設備も著しく變つてきた、電力國營となつて以來、發電機は非常に改良され、安價な電熱が各所に得られる樣になつたので、電熱は先づ燃料界を制服し終たと云つてよく、薪炭、石炭の節約、廢止は益々實行されてきた、亦メタン瓦斯も隨所に使用されてゐる、今一つ特筆す可きは最近、科學者の全力を盡してゐる太陽熱應用の發熱機械であるがこれも數年を出ずして實用化するに至るであらう。かくして臺所は淸められ、そのプランは空間の利用、器具の能率的配置とにより、二米突四方位で充分に用を達する事が出來るやうになつた。

浴室も各住宅に必ず設けられる樣になり、湯沸には各宅共特に安價な夜間電力に依つてゐる。又浴室の上屋にはタンクを据え、用水を太陽熱により出來る限りの熱量を吸集し保有せしめる樣にしてゐる。又浴室の隣には少さな洗濯室を持ち電力、或は手動による洗濯機が据えつけてある。

便所につきての改良亦然り、溜桝式構造は今では山中の茅屋位にしか見受けなく便所と云へば當然水洗式淨化裝置のものを指す樣になつた。

そして新しく出來た都市、住宅群では各宅に排出された汚物を郊外の一部に導き、これから多くの藥品を製出してゐるのである。これは初め獨乙あたりで用ひられてゐたが現今では各國がこれを採用してゐる。

汚水を肥料に使用して居た我國も化學肥料に全勢力を奪はれたのでその仕末にずい分困つてゐたのであるが、天の配劑か、化學の力により排物が廢物に終らず

大營舍

日本で初めてのビルディング式兵舍として麻布三聯隊の新築は既報の如く同工事は大正十五年の春から起工して滿二年間がかりでこの程外部の工事も出來上り四月頃には內部の諸設備も竣成していよ〳〵四月入營の兵隊さんを迎へる。一、二階が兵室で三階は倉庫及び一個聯隊凡そ一千五百名を收容できる宏壯な大講堂兼食堂にあてられてゐる。地下室には淨化式の便所浴室や暖房裝置のボイラーが三個もあり一兵室に至るまでスチームが通り洗濯場や炊事場等もボタン一つで湯が出る。又新兵舍の中庭は廣いテニスコートになる筈で、その裏上は運動場を兼た大庭園になるなども他には例のない所である。總工費は約三百萬圓で延坪八千四百四十六坪、地下室を入れると四階建で鐵筋コンクリート、外面はクリーム色の堂々たるものである。

三十三間堂の修理

特別保護建造物になつてゐる京名所の三十三間堂は最近すつかり腐朽し一本通しと傳へられる名物の棟木も折れてゐる事が發見されたので全工事を三期に分ち三年計畫で佛像を安置したまゝ順次に工事を進める計畫である由。

明治會館新築

東京市神田區三崎町の明治會館は區劃整理のため近く移轉、工費三十餘萬圓を以て新築されることゝなつた。



藥品に早變り出來得る樣になり久しく惱みぬいた問題もやうやく解決さるゝに到つたのである。

日本は氣候風土の關係上夏向の開放された住宅になり勝であるが、酷暑の期に於ては尙耐へ難い有樣なので、今ではローター應用の換氣煽風機が取つけられ、一方樹木の植輪に依り暑氣の調節に勉めてゐるのである。

亦寒氣に對する暖房保温の方法は、炭、石炭の非衞生不經濟な燃料は過去に逸り、直接暖房法として先づ電氣暖爐を代表的のものとしてゐる。尙蒸氣暖房も用ひるが、水蒸氣式のもの及び熱氣爐（即空氣を熱によつて温めこれを室內各部に配給するもの）は小型のものが色々改良されて愛用されてゐる。

しかし山林を持つた保守的な田舍の住宅では今だに炭を用ひてゐる處もあるが止むを得ない事であり、やがて改められるゝ事であらう。

照明に付きては、建築家と電氣家との共力に依り、お蔭で仲々氣持の良い生活が出來る樣になつた、肉眼に刺戟の多い電球ほ次第に驅逐され、光源體は出來得る限り熱を持たぬ樣に改められ、それでゐて太陽光線に依る晝間照明に近い樣な明さを出してゐるのである。且その法式は直接照明を避けて成可く間接照明か半間接照明法が採用せられ、器具の完成と相待つて夜の室內は亦格別に氣持のよい快活な狀態となつてきたのである。

尙文明進展の現はれとして、昨今各住宅には、ラジオは勿論、無線電話室、無線電氣時計が取付けられてゐるのである。やがては小供向の無電放送式活動寫眞（各自宅の一室で見られるもの）も普及せらるゝ事であらう。

日本人は昔から庭を愛し自然に親んでゐたので日本の庭園は特種の發達を見てゐたのであるが現今でも純日本式庭園が盛んに愛用せられ、住宅には必ず庭園が附隨されてゐるのである。

けだし庭園は住宅の延長であり、その構想、意匠も建築家の設計になるのである。古風な奥行かしい日本式庭園は外國の形式庭園の及ばぬ處であり、只一基の

■■國際聯盟會館懸賞設■■計圖案選定の事情■■

一九二六年七月二十五日を以て全世界の國際聯盟加盟國の建築家に對して發表せられた國際聯盟會館設計圖案の懸賞競技は世界第一流の建築設計家としての名聲を擧ぐる絶好の機會として異常の興味を喚起した。この結果一九二七年三月末日の應募締切に集まつた設計圖案は三七七の多きに達したのであつた。

かくてヴクトル・オルタ氏（ブラツセル王立美術院長）を委員長とし、ベルラーゲ氏（ヘーグ）、サー・ジョーン・ブルネツト（ロンドン）、ガトー氏（マドリード）ホフマン氏（ウヰン）、ルマルスキエー氏（パリ）、モーゼル氏（チューリツヒ）、マヂア氏（ボロニア）、テングボム氏（ストツクホルム）の八氏を委員とする審査委員會は數次の會合を開いて、之が嚴選に當り、五月五日に至つて一萬二千フランの賞金を受くる優等のもの九、三千八百フランの賞金を受くる第一級佳作九、二千五百フランの賞金を受くる第二級佳作九の合計二十七案を發表した。

しかしこの審査委員會では、この競技の結果、一の實施計劃案をも得なかつたことを報告したので、之が決定は第八回



石燈籠でも、我々には幽靜な感じを與へ、極少の苔庭でも、高尙な趣味を現はし限りなく昔を想はしめるのである。

又少し大きな庭を持つ人は茶庭こなして、隅に茶室を建て、自ら茶道を學びながら、禪味に哺まれ培はれた古典趣味に浸りつゝ神心の慰安を求めるのである。

かく改善された日本住宅は都會に郊外に充滿されたのであるが、一方獨身者、無產者の爲に發達したアパートメント、ハウスもなか〳〵數を得てきたのである。

各町村には必ずアパートメントハウスが經營され、室は二室より五六室迄を一軒分とされ、尠く共十軒多くは數百軒の大家族を一屋蓋の內に整然こ包括してゐるので、それには公設市場、その他の賣店、食堂、圖書室、娛樂室、個人浴室、洗濯場等あらゆる設備を調へ又必ず庭園、或は散步花壇を持たねば建築なし得ない事になつてゐる。

建築の構造は勿論耐震耐火的であり防盜、私秘的（プライベクイ）の考慮は施されてゐる。又巨額の資本により建設さるゝのであるから暖房、給水、電話設備等が充分に施設せられ滿足な生活が營み得るのであり、且亦その借料は近來法律を以て限度を定められてゐるので中階級以下の夫婦者、獨身者にはこの上なき高級住宅なので不愉快な小住宅で暮すものは皆競つてアパートメントを利用したのである。

又農村には農家向きのアパートメントが設計せられた。

その最下階或は別棟には農具、耕作機、自動車を格納する室を持ち穀物倉庫は別棟こして建てられた、又大規模のものには郵便局、賣店迄附屬し、上階には圖書室、會堂、娛樂室等があるので農民の利便も數層增し、餘り都會に出なく共樂しく暮す事が出來るやうになつた、又その部落々々の交通は電氣鐵道、飛行機、自動車が互に活動を續けてゐるのである。

アパートメントの異狀なる發達に並行して住宅群の構成も目覺しいものであつた。

住宅群は上述の個々の住宅から組織されて居るのではあるが總ての文化的施設

聯盟總會に委任せられた。

第八回聯盟總會では之に對して安達大使を委員長こし、オススキー氏（チエコスロヴアキア）、ボリチス氏（ギリシア）ウルチア氏（コロンビア）、サー・エドワード・ヒルトン・ヤング（英）の五氏より成る委員會を設け、一萬二千フランの賞金を獲たる九案を審査し、且つ最も實際的並に審美的要求を充せりこ認めたる一案を、必要あらは修正を加へて、選定することを命じた。

この委員會は、一九二七年十一月及び十二月十九日より二十二日迄ジュネーヴに會合し、(一)聯盟事務局の報告並に(二)委員會の任命せる二建築家の提出せる報告を審査し、尙ほスキス聯邦政府にジュネーヴ州政廳が各々任命せる二名の專門家（スキス人）の提出にかゝる報告書をも審査した。

委員會では、かくて滿場一致を以て次の如き決議に達した。

一、委員會が實際的並に審美的要求を不十分乍ら充せりこする設計圖案は三八七の記號を附せるH・P・ネノー氏及びJフレーゲンハイメル氏の合作案である。

二、委員會では本設計圖案には不滿の點あるを以て、之に修正を加へんこする即ち新設計圖案は三八七號の提出者ネ



を共用するものであり、都會に近い郊外、都市内の安靜なる住宅區域内に集團したのである。

住宅群の完成は勿論經濟界の振興、確立によるものであるが近來資本家は自己の使用する從業員の爲に、必ず住宅群を造つて與へたのである。

一つの住宅群の持つ設備としては、市場、百貨店、公衆食堂、郵便局、銀行、小公會堂、圖書館、病院であり群の大小により多少の相異はある。又群の一端には交通機關のステーションがきて居り、群には必ず中央又はその周圍に公園を設け、住宅群全體は全く綠化せられてゐるのである。

衛生設備については、群の縱橫に通ずる主要幹線により、電氣蒸氣水道等を容易に各宅に引入れてゐるのである。

それ故これ迄業務上止むなく商業地域、工業地域内に住居してゐた人々は、安價な交通機關で理想鄕の住宅群からの通勤が容易になつたので、子女の敎育の爲且は家庭生活の享樂の爲大半は家庭を繁華地から遠ざけたのである。今では十里二十里の道程も一世紀前の一里程にも當らない有樣となつたのである。

かくして昔の田舍と稱する部分は次第々々に文化的に開發せられて仕舞つて農業地が誠に狹くなつてきた。

それでは全國民の三割五分を占る農民は如何にしたであらうか、人口增加に苦んだ日本民族は早や國内全部を開拓し盡したので、覺醒された國民の涙ぐましい援助のもとに農民、商人は無言の内に、廣い世界へと雄飛し、各地各所に無形の日本を形造つたのである、試みに隣方支那の奥地、滿蒙を見よ、そこには數百萬の大和魂が分布され、内地同朋の爲、工業原料、食糧の製造を懸命になしつゝあるのである。國民の自給自足、それは土地の國内國外を問はず、全日本民族の製產の總和から見ればよいのである。

最後に都市の綠化につきて一言を費さう。

日本の都市は十九世紀から二十世紀にかけては全く乾燥したもので、公園もほ

ノー（パリ）、フレーゲンハイメル（ジユネーヴ）の兩氏が一一七號のブロツギ、ヴツカロ、フランツ（何れもローマ）の三氏、一四三號のルフエーブル氏（パリ）、四三一號のヴアゴー氏（ローマ）の五氏及び國際聯盟事務尾の協力を得て作製するものとす。

三、基本案の作者及び上記の協力者は委員會の提案する修正を容れた新圖案を作製すべし。而して委員會は先づその新圖案を審査し、然る後之を承認し、聯盟理事會の協贊並に批准に附するの完全なる自由を有する。

四、委員會はジヨーン・デイ・ロツクフエラー氏（子息）が國際聯盟圖書館の建設並に財團として提供せる寄附金を考慮に入れ、基本案に於ける圖書室設計は之を取消し、別個の用途に充つる積りである。

なほ新圖書館に對しては別個の設計圖案を作ることを要す。

五、國際聯盟會館の新設計圖案及び圖書館の設計圖案の建築工事費は建築家に對する報酬を加へて、國際聯盟會館に對しては一千九百五十萬スヰス・フラン、圖書館に對しては約四百萬スヰス・フランを超えてはならぬ。

六、建築實施案の施工に當り原作者及び之と協力する建築家がその協力を繼續



んの申わけ的にしか施設されてなく街樹も無意義に近い程しか植ゑてなかつた、それで都會人と云へば多くが神經衰弱、肺病の保有者とまで思はれ、一時は誠に憂慮せられたのであるが、その後年一年と改良を重ねられて、住宅の敷地に於ても空地は特に保健の上から防火の上から嚴しい規定が定められ樹木の植輪を強制され、お蔭で空地の綠化問題は、建築に於ける强度計算に並ぶ重要な事項として取扱はるゝに到つた。

そして我建築大學の學生、園藝、農林の各專門學校學生は進んで街路に立ち都市綠化・運動の指導者として社會奉仕を續けてゐるのである。

人類よ!! 自然を愛せ、土に親め、汝は土から生れ出たのではないか、土に培はれた藝術は永久の生命を支持し、自然を愛する人類こそ亦永遠の自然を支配するであらう。

げに我日本民族は日本の土によつて生れた、大和魂の藝術を愛撫し、養育する事こそ、その本分ではなからうか。

建築の設計に於て亦然り、事に生活の大半を容るゝ住宅の設計こそは最もこの心掛を要し、我々建築家の宜べ忘る可からざる永久の精神であらねばならぬ。

以上現今の住宅につきその大樣を述べ盡した心算である。

私はやがて懷しい、わが住宅群の事などを思ひ浮べつゝ、亦次の研究へと机に向つたのである。

× × ×

青年建築家はこゝ迄思ひ續けてゐたのであるが、そよ吹く小風は夢を一瞬にして、現實の世界へ引もどして仕舞つた。

天は次々へと新しい課題を與えて下れる。

されば昭和の建築家よ、お互に心を合せ、模倣の代から創作の代えと、今の夢の實現化に努力奮闘を重ね、やがて理想の住宅をこの日本に建設しやうではないか。

再び叫ぶ。

若き建築家達よ!! お互の立つ秋は今なり、科學の頭と、與へられた日本藝術を背負つて進め、理想の鄕土は日に近し。(終り)

する手續(協力する各種建築家の報酬に關する方法をも含む)に關し右建築家は委員會に意見を申出すべし。

七、委員會では建物がモン・ブランに面する樣に設計せらるゝやう、且つ湖岸の樹木を出來る丈け多く保存する爲め湖岸より成る可く奥に引込んで建てる樣に設計することを希望する。

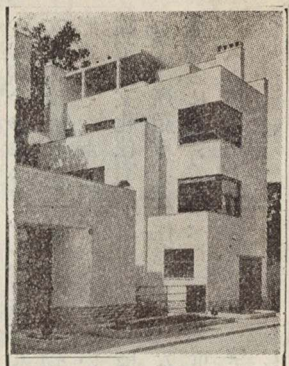
八、新設計圖案はその作製に當つて協力せる建築家全員の署名を要名する。

備考 ジュネーヴ聯盟事務局では前記ネノー案をも含む二十九個の入選設計圖案集(大形六十一頁)を刊行せるがこれは當支局にも餘部があるから購入希望の方は、二圓二十錢を添へ左記へお申込下さい。

東京市丸ノ内仲通十三號館
國際聯盟事務局東京支局宛

訂正

本誌正月號第六六頁の次末吉橋の寫眞紹介記事中工事請負人株式會社大林組とあるは鴻池組の誤りにつき訂正す



住宅漫言

本間乙彦

眺める家

吾々は時々畫家がブラシュをもつた時のやうな純眞な氣持で住宅のデザインをやり遂げたくなる。又多くの血の氣の多い建築家たちは純正美術家である畫家と同じ位置に自分をおいて見て、誇らしげに振るまつてゐる。そこに眺める家が出來上る。然し建築家が純正美術家である畫家並に見られることは、誇るべきことか。道往く人を立ち留まらせる美しい家、天與の絶景に申分なき點景としてデザインされた家は、繪畫や彫刻や音樂等と同じやうな効果——即ち美しい感情を見る人に與へるであらう。これも建築家の誇りの一に違ひない。然し吾々建築家の制作には今一つ誇るべき重要事をもつてゐる筈である。住む人に樂しい家を與へることである。

藝術遊戲

吾々の生活から趣味をマイナスしたら、隨分と淋しい、色彩に乏しいものとなるであらう。この意味でスイス風の山の家も可、イギリスの田舍家も可、スペイン風の家も可構成主義等々々も可であるが多數の中流社會人の望むところは、樣式は何であらうと、住み良い家を安價に得ることである。餘程建築に特殊の興味をもつた人でもなければ樣式の注文はないであらう。

唯要求されるのは住み心地の良いこと、勝手廻りの便利衛生設備の改善、泥棒の要心等々で、建築家の或る人達が唯一の武器である『樣式の問題』に就いては唯一言「なるべく體裁良く願ひます」……

建てる人の身になつて見れば、粒々辛苦の千萬金を建築家の藝術遊戲（當人に言はせれば建築家としての藝術良心から出て樣式を吟味することゝ）に提供する奇特な心掛けはあるまいと思はれる。まして外觀の樣式統一の必要から、住む人の要求は時にまげられる。廣い世間にはこの種の建築家の藝術遊戲になつた家を多く見掛ける。

モゲ住宅

近來或る一部の人達に「モゲ」といふ言葉が流行してゐる。モガ、モボの種類かと思つたら、これは人間でなく住宅だそうである。即ち文化住宅を標榜して非なるもの文字のモ、妖怪變化のゲ、と將來言海改版の際には新語として收錄されるであらう。

私は文化住宅なる語が大嫌

古川柳に現はれた

建築興味と好尚と

（本稿は斯界の研究家根岸榮隆氏が昨年十月廿七日JOBKに於いて放送せられたものである、名題の表す如く、建築上興味あるもの故に茲に其大意を錄載します）

◇　◇

建築に關係のある川柳、とは云ふものゝ、元來が建築の記錄でもなければ、又科學的記述でも無いのであるから、川柳に依て當時の建築的傾向や其の樣式を窺ふことは、木に據て魚を求むるよりも至難な業である。然し當時の大衆が、當時の建築物に對して何ういふ觀念を抱いて居たか、又は何う云ふ建築的嗜好を持つて居たかといふことを知ることは出來るのである。私の目的はそこにあるのであるは云ふまでもない。

◇　◇

偖て、第一に門である。

門の種類は非常に多い。然し川柳は元と人事を基調したものであるから、門の形式などに云ひ及んだものは無い。江戸築城後、城下に於ける諸大名の建築は豪壯華麗を極め、殊に其の表門に對する念の入れた方は非常なものであつた、駿河大納言の如きは、大棟門の表

ひである。

近郊のジメジメした畑地を石炭殻やゴモクで地上げして五寸角のコンクリートの基礎虫籠のやうな軸組、嵐の跡のやうにメタルラスにフエルトがヒラ〳〵してゐる。屋根はお定まりの赤瓦、そこの立札に必ず『文化住宅専門何々工務所』と麗々しく書かれてゐる。であるから私は近來は塲末にのみ存在を認められてゐる『美術理髪師』『美術しみぬき』の美術並にしか、考へられないのである。

現在文化住宅と稱せられるものは、生活改善運動が始めて起こされた時代、洋式を加味した住宅に與へられた名稱で、その當時こそ新文化を誇る住宅であつたかも知れないが、現今のめまぐるしい建築文化の進展から見れば當時の形式をそのまゝ踏襲してゐる點で舊文化住宅であらう。それで、所謂る『文化住宅』なる語の裏には「うすつぺら」「貧乏人の見得」等々の意味をもつ。

新知識

醫者がドイツに留學する、畫家がパリで修業する。資本家や企業家が歐米を見學する新知識に接しただけで相當世間で騒がれ、研究次第では醫學博士であり大美術家であり、大金滿家であり得る。然し、こゝに困つたものは住宅に就いての新知識の直輸入である。これは何も遙るばる歐米まで出掛けなくとも獨佛米英等の外國建築雜誌の十種類も注文すれば達せられる。本塲より一ケ月遲れで立派に新知識に接し得る。

世界の何所を探しても現在の日本程、建築のデザインの發達した國はあるまい。また世界で有名な建築家の作品に似通つた特徴をもつた、建築物の多數に出來る國もあるまい。國民性或は地方色は建築樣式の一要素である等と野暮なことは言はない。むしろ汎世界的で結構であると賛詞を呈する。醫者は病氣を對照とし、畫家はその作品を完全に統御することが出來る。そこには新知識の自由な試みが行はれ得る。

然るに、然るに不幸にも建築家の對照とする住宅はその内に作家とは別な人の生活な容れるのである。よく雜誌や展覽會等で、ウキーンの郊外や、ドイツの田園都市にでもありそうな住宅の案を見ることがあるが、私はその度毎に考へる。まてよ、これは外國人の出品かしら、日本人のためにデザインしたものかしらと。又、我か同胞のデザインであることが明瞭な時は、住む人の生活樣式もデザインの中に入れておかなければならないだらう等といらぬ苦勞をさせられる。

兎に角、私は小器用な日本人に生れたことを時に幸福に思ひ時に悲しく思ふ。

動く家

建築物は地盤に固定したものと學校では教へられた。

近頃の科學文化の進展の具合ではソロ〳〵この定義を變

門には組物があり、其組物の間や木鼻には獅子や麟麒の彫物を附け、御成門は大四脚門で軒には總彫物唐戸の破目には倭人形の三番叟冠木端の上には鳳凰の丸彫りがあり、何れも目も眩むばかりの總金磨きであつた。又松平長門守の門は二階造りの樓門で、上の重は黒塗り向大格子、諸飾り金彫物、脇の間オモダカの紋で總金のピカ〳〵作り。又加藤清正の矢倉門は間口十間、柱欄間皆金箔を塗り、組物の間には犀の彫物、瓦の端は金箔、臺所の妻は竹に虎の大彫物、其の大きさ首から尾まで八間あつたと云ふことである。是れらは明暦の大火に燒失して以後、格式に依る制限が設けられて、さう云つた桃山風の豪奢な門は地を拂つたのである。勿論川柳勃興時代にはなかつたから檜玉に擧がる所以もないのである。それで閉門へ心よく這ふ蔦かづらと、からかひ

醫者の門ほど〳〵うつは只の用位なこころに頭を働かせたのである。

大神樂ばかりを入れて門を締めと云ふ句には門に依て表示されてる階級的意識を知ることも出來よう。

山門では、南禪寺樓門の五右衛門を云つた山門に住んで千金なぞと云ひ

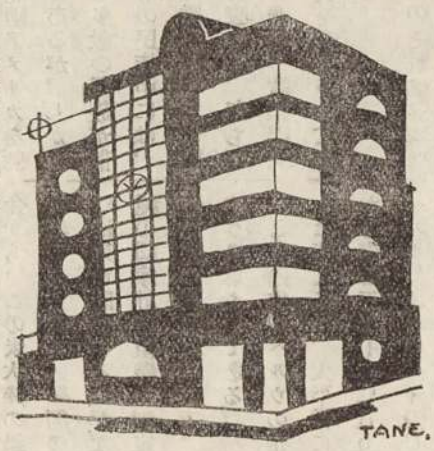
へねばならないだらう。日本の建築家は地震を何より恐れる。建築法規も大地震毎に改變されるだらう。新しい經驗を得たために。

然るに、最も普遍的である木造住宅に就いては、ついに新らしい構造法の發表を見たことがない。皆前世紀からの舊い傳統に鐵を混用することを漸く知つた程度である。

地震は地盤が動くのである地盤に固定された建築物の影響されるのは致し方あるまい「大工から鑿を奪へ」位では生ぬるいから、地震には地盤のゆれるまにまに動くやうな家を考へたらどうだらう。或は三脚臺から鳥籠のやうに釣り下げた家等々々、

餘りこんな事を書き立てるこ狂人扱ひをされるかも知れないが、手近な、試み易い程度から木造住宅の新構造法を案出することは目下の急務だこ思ふ、當協會等が率先して募集すべき好問題である。

見よ、東京を、後丹地方を復興こは地震でまた倒れる家を作ることか、地震こ根くらべをする勇氣や、復興の早きを外國人にほめられて、私は何んだか擽つたい感がするのである。



「デザイン」の御投稿を歡迎します

次號から「デザイン」の頁を設けます。若い建築家の豐かな幻想になる草案、或は、實現されないで空しく埃底に埋もれる運命にある力作、等々々、建築でも裝飾でも、結構です。御投稿下さい。「デザイン」の頁を飾りたいこ思ひます。但し取捨は編輯者に御一任を乞ふ。採錄したものには薄謝を呈し、投稿者の御請求によつて圖面は御返送致します、

と云ふ狂句がある。山門を錢の三文に掛けた洒落である。又

山門へ霜のかゝる母の聲

こ云ふ人情のこまやかなのもある。

門、又は門口は、家の入口だけに、可なり多く用ゐられてゐる

借りのある門で夕立むごいこと

燒繼ぎ屋夫婦げんかの門に立ち

暗にあやあるで娘の門涼み

節季候も忌中の門はせきぞらす

腹の立つ門を開けるも女房なり

なご何れも說明を要しない程意味明瞭である此の『腹の立つ門を開けるも女房なり』の反對を行くものに

ぴんこした女房戶口の錠を明け

と云ふ狂句がある。

門口に下女がおやぢは嘶かせ

是れは云ふまでもなく下女の親父が、田舍から黑に乘つて來た情景である。

◇　◇

柱には。彼の芭蕉の有名な句、道ばたの槿は馬に喰はれけり、をもぢつたもので、

煮賣り屋の柱は馬に食はれけり

といふ、當時の街道筋に於ける情景、即ち歸り馬をひいて來た馬子が、馬を軒先の柱につ



インカの家畫漫の瓶たつた手になつた

失はれたる南米のユートピア

本間武彦遺稿

一

白人はたゞ彼等の未知の大陸であつたこと云ふだけの理由を以て、直ちに南北兩アメリカを新大陸と稱して今日に及んだのであるが、しかし其處には歐洲人の發見以前から多數の民族が散在してゐた、のみならずそれ等の民族中には、初參見の白人を驚嘆せしめ、物質慾領土慾に驅られた彼等の非人道的な野望を唆つて、忽ち無殘な滅亡の非運を招いたほど立派な、歐羅巴文明とは異つた特殊の文明の華實を榮えさせてゐた民族が嚴存してゐたのである。

それは云ふ迄もないメキシコのそれとペルウのそれで、この二つの過去に榮えた米國の文明は、その有史前の系統に就ては、恐らく同一源泉から分派したものでないかと思はれるが、彼等自身の知つてゐた限りでは、彼等は始めから互に沒交涉で、中米と南米の一部に閉居して、互に獨自の文化を育みつつ、彼此互にその存在をさへ相知らなかつたのである。しかして私は今から、この米大陸の過去の二大民族中、特に世界の人文史上に類例のない、そしてそれ自體には殆ど間然する處がないほど能く整備した一種の國家社會組織を制定し、維持したペルウの舊民族の文明に就いて、興味ある史實を紹介しやうと思ふのである。

この過去のペルウの帝國は、西班牙人が侵入した時代には、太平洋に沿ふて、大凡北緯二度から南緯三十七度に亘り、今日のエクアドル、ペルウ、ボリヴィヤ及びチリの沿岸に伸びてゐた。そして西方は一帶に太洋に限られてゐたが東方に向つては、山地を踰へて、蠻地堺まで張出してゐた所も多かつた、しかも今日ではその蠻界の的確の地位が判らなかつたり、そのない

で一杯きこしめしてる間に、仕ようことなしの馬は、たい屈のまゝ鼻ツさきの柱を大きな齒を剝き出してムシリ〳〵食ひかじつてる有樣が目に見える。そして當時の煮賣屋の軒先には斯うした馬繫ぎの爲めの柱があつたことを知るのである。

◇　◇

安お使者二八の軒に鎗を立て

と、云ふ句は所謂二八そば屋の軒に、輕々しいお使者がおひるの仕度をするため、御持參の鎗をたて掛けられたことである。もう一つ軒の句

軒までも居くは伯父の敷居なり

之は不義理をしたので敷居が高く、まるで軒まで居くやうだと云ふことである。

◇　◇

椽側の句では

丸藥で椽側の日を追ひまはし

是れは、丸藥を椽側で干して居ると、日のうつるに從つて干場を變へなければならぬことを可笑く言つたもので

椽先へ引き立てゝ行く指のさげ

は、如何に日本建築が採光的に出來て居ないかを說明してゐるものである。

◇　◇

蠻地の名稱が歷史圖から逸したりしてゐるからその幅員を決定することは殆ど出來ない、一說に依ると、その幅員の最も廣い所でも、百二十里以上には出なかつたと云ふことであるが、兎に角その幅員が南北の延長に比して、甚しく不釣合であつたことは確である。

それは非常に珍らしい地勢をなした國で、多くは幅員二十里以上に出ないほどの狹い土地が太平洋に沿ふて帶のやうに南北に走り、その背後には直ちに巨大の大山脈が恐ろしい鐵鎖のやうに連亘し、南端のマゼラン海峽から起つて眞直に北進して、南緯十七度あたりに於て最高度——實に米大陸の最高度——に達し、それから次第に分岐して幾つかの小山脈となつて、パナマ地峽にまで達してゐる、これが有名なアンデスのコルヂィレラ即ち土人の云ふ處の『銅の山』であるが、事實は寧ろ『黃金の山』と呼んだ方が當つてゐたかも知れなかつた、それほど金礦を藏してゐたのである。この大山脈は多くは二條三條をなして連亘してゐるのであるが、洋上からこれを望むと唯一條の連鎖のやうに見え、その山地の住民には獨立した個々の大山塊のやうに見える多數の噴火山も、洋上からはたゞその大山脈中の連峰として見えない。そしてその大自然の規模の雄渾なことは、何度の緯度の處に於ても、洋上遙かに遠望しなければ、到底その一班を見て、全體を想察することが出來ない位で、南太平洋上の航海者の眼前に來る日も來る日も連續展開して行く、白雪の銀冠を戴いて雲表に聳ゆるチンボラゾを首座として山岳重疊したこのアンデスほど崇高森嚴な印象を與へる景觀は殆ど他に見られないのである。

しかもその土地はと云ふと、農業にも內地の交通にも殊の外不適當で、沿岸一帶は地味痩せた沙地で、年中殆ど降雨なく、たゞ水量の乏しい寥々たる流れに育くまれるばかりで、コルヂィレラの分水嶺から東方太西洋に向つて奔流する水量の非常に豐富なのに比すると、實に著しい對照を示してゐる。またその山岳地方は、斑岩と花崗岩の地肌の急峻段層が重疊し、中腹以上の高地は、自己の恐ろしい噴火作用に依る外は、赤道直下の烈日にも消えることのない萬年雪に包まれて、共に農民の力には合ひさうにも思はれない。のみならず海岸線に沿ふた長い地帶も、到る處斷崖絕壁、狂流奔湍、魔のクエブラダス——架空の棧道を搖られながら渡る戰々兢々たる旅人の目には、到底その底の深さを見究めることの出來ない恐ろしい山中の地隙——に遮られて、全部の交通は完く不能であるやうに思はれるのである。しかし往時のペルウ住民

座敷に關するものとしては
お氣の毒なご〻座敷を追つ掛る
大江山座敷歩きも鐵の棒
夏座敷月まで運ぶ水ざかな
涼しさは座敷をぬける鐘の聲
などがあり
きツとした座敷欠伸を鼻でする
是れは苦笑を禁じられぬものだ、しかし此の座敷は、座敷その物ではなくして、會合とか寄合ひとか、さう云つた事柄をさしたものであることは勿論の話し

◇　◇

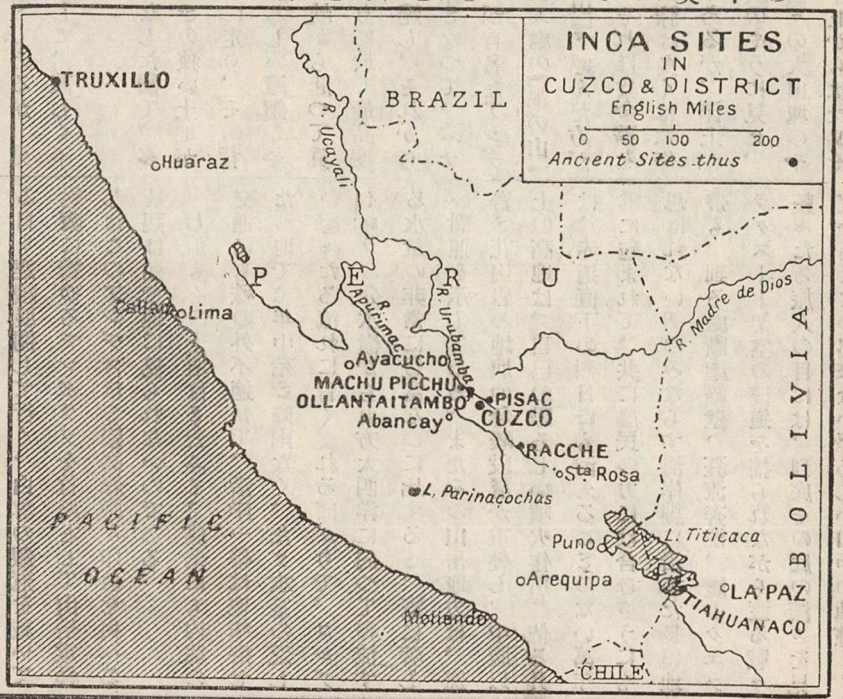
床の間は遊廓方面のことが多い。
床の間へ女郎の藝は有りツたけ
如何に遊女の部屋の床の間には、遊藝の道具で飾られてゐたことか
床柱しよツても見ずに年が明け
こいふのは、太夫の位になれば、見世に並ぶ時上座即ち床柱の前に座れるのであるが、年明けまで逐さうとした全盛を見ることが出來ない不幸な女を云つたのである。
お妾の床に新もの五六冊
是は說明には及ばない。

◇　◇

廊下も亦遊廓方面に多く使はれたふところを

の勤勉努力は、それにも係らず能くこうした一切の自然の障碍に打克つたのであつて、それは殆ど土木の天才であつたと云つても不當ではないのである。

彼等は疏水と地下水道工事の適切な施設に依つて、沿岸の不毛の土地を一變して、豊穣な美しい綠地とした コルディレラの急峻な山腹に段畑を切拓いてその高低に應じてそれぞれその高度に適した植物を栽培して、赤道地方の熱帶植物から南部地方の温帶植物まで各種のものを集めて、規則正しく段々に配列した、またそれ等の植物栽培地帶以上に聳えた山嶺の廣濶な雪の荒原には、彼等の綿羊とも云ふべきラマの群れを放牧した。そしてそれ等の勤勉な住民は、高原地方の高燥な土地に沿ふて住居を構へ、その聚つた町や部落の果樹園や廣い庭苑に包まれたのが、普通の雲表より遙かに高く、恰も空中に懸つてゐるやうに見えた。例へばクイトの高地は海抜九千乃至一萬呎の高度にあることを知れば、蓋し想半ばに過ぎるであらう。しかもそれ等の高地に在つて無數の都邑聚落間の交通は山中を通ずる大道に依つて保たれて、最も邊鄙の土地でも容易に主都と交通する途が開けてゐたのである。



廊下へ呼んで聞合せふところとは會計係のことである。

廊下から秋を覺える上草履
ひそ〳〵と廊下に顔が滯り
長廊下座頭を一人こづかり
おはぐろに禿は廊下練つて來る
更渡る廊下をやりてのつさ〳〵
もてぬ奴廊下を馬の歩くよう
こても、吹出したくなるもの許りである。

◇ ◇

臺所にも面白いのが有ります。

臺所へ追手のかゝる病み上り
病み上りは食意地の張るものである、たまらなくなると、そつと床を抜け出して臺所へ食ひ物漁りに出掛けかねません。

下女が鼻唄臺所の煤が舞ひ

昔魯といふところの音樂の名人虞公といふ人が、歌を唄ふたら其の美音に感動して梁の上の塵までが動いた、といふ故事に結びつけて、下女の鼻唄の凄まじさを形容したものである。

生醉ひを嫁は勝手で可笑しがり

は嫁としての幸福感を現はし

裏口へ嫁の願ひは鬼すだれ

はその反對の惱みを現はしてゐる、等しく臺所を中心にしてあるところが面白いと思ふ。

二　建國の傳說

さてこの驚くべき文明の發祥地は何處であつたかと云ふに、それはペルウの中央に當るクツコの底地であつたと思はれる、クツコとは『中央』を意味する彼等の國語である。けれどもその建國の由來に到つては、多くの古い國家のそれと同じく、大部分が傳說の霧に包まれて、明かに知ることは出來ないのであるが、彼等の間に云ひ繼ぎ傳へられた尊い傳說に依ると、それは畏くも我が天孫降臨の場合に類似したものでマンコ、カパクと云ふ神人がその土に降臨したのが、その起原であると云ふのである。

マンコ・カパク即ちマンコ大王とは、果してどんな人物であつたか。

人文史上に重要な文明の地盤を築いたものはモーゼ、佛陀、基督、マホメットの如き宗教の開基者でも、或はギリシヤのソロン、リクルゴス以下の古來有名な幾多の經國家にしても、それ等が何れも大立法者であつたと同じに、彼れも亦一大立法者だつたのである。

彼れは一つの國家を建設し、一種の法典を創定して、文化の基を拓いた、そしてその法典その文化は、上下四百年ほどの間、多數の一樣に野蠻蒙昧なインド民族を敎化して、多くの點に於て吾々に劣らなかつたばかりでなく、或は吾々に模範をさへ示したほどの著しく文化した國民たらしめた。

彼れはかくの如く偉大な立法者であつたが、一面に於てはまた一個の宣敎者であつた。この點に於ても、彼れは一個の文化の開拓者であるにふさはしかつたのである。宗敎——生身の統治者には測知れない下界の人間の秘密を知つて、その死後の賞罰の力を有つてゐる人間以上の存在に對する固い信仰——この宗敎こそ、洵にどんな文明の開拓者にも、その最も有力な味方だつたもので、さうした全能の存在があるならば一つの人格としてでも、はた宇宙の力の具象としてでも、その形體は問ふ處ではない、それがユダヤ人の一エホバであらうとも、基督の三位一體の神であらうとも、或はインカの至上の創造者パチヤクテク若くは太陽神インチであらうとも、それを信仰しさへすれば、その名は畢竟根強い無形の存在なのである。

それで各文明の開拓者は、自己の目的に最も能く適合したそれ〴〵特異の形體をこの神に與へたのであつて、手に餘まるイスラエルの子を曠野をさまよひ導いたモーゼは、怒りぽい應報の神を必要とし、世界を回々敎に征服する一大願望を抱いてゐたマホメットは、劍を携へた進

板の間の光るは下女の鑓なり
之は敎訓的な狂句である。

◇　◇

窓に關するもの

おさらばと窓から一つ擲り出し
窓へ手を出して受取るつばな貰
行く奴を伊賀の窓からじろ〳〵見

共に、入口に面したところに窓が設けられた事を說明して居る。

引窓には
引窓に夕ぐれ一つ引き戻し
引窓を月が敎へて起きて立て

など、只單に建築の一部に引窓がある位を示してゐるに過ぎない。

◇　◇

隱居所には却々穿つたのがある。

隱居屋をねめ〳〵歸る里の母

大事な娘を嫁にやりはやつたが、姑に對する母親としての思ひやりが隱居所を通して偲ばせてゐる。

隱居所で孫の馳走に鈴が鳴り
隱居所をゑびす紙程つぎたして

先づ和氣靄々たる感察である。

◇　◇

女關、是れは床の間と共に禪宗建築から書院

取的の神を必要とし、幻想的の柔和な印度人の教導者であつた佛陀は、人畜草木あらゆる創造物に對する無限愛の神を說き、また萬人に對して慈悲深い同胞愛の使徒であつた基督――彼れも亦世界的の統治者であり經世家であつたならば、そして彼れの說教を畏怖したユダヤ僧侶の權勢がローマの主權と結托して、あんなに早く彼れを殺さなかつたならば、或は多くの關係に於て、マンコ・カパクの國家に似た一王國を掛めたかと思はれるその基督も、その同胞の神父、上帝を宣傳したのであつた。それのみではなくすべてかうした宗教の指導者は、他にも共通の點を有つてゐた、即ち自らを神の子若くは神の具體者であると稱し、且つ彼れ等の繼嗣を下界に於ける神の代表者であるとしたのであつた。そしてそれ等の代表者は往々その開祖の神性を曲解したのである。

權勢の限りを極めて、却つて自己が人心の周圍に築いた壁をも、頭腦の力一つで或は何人にも突破されるかも知れないことを怖れたローマ法王は、基督の慈愛の神を變じて、メキシコの舊民族アヅテックの神テツカトリポカの如く際限のない人間の犧牲を要求する恐ろしい邪神としたではなかつたか、その所以は、際限のない人間の犧牲とはその頃行はれた異敎徒糺問の火刑と宗敎裁判の行爲との別名と見ることが出來るからである。

しかしこれは、たゞこの非凡のインド人に依つて創造された文明の近代的精神と矛盾するやうに見られるかも知れぬことを、十分に了解する一端として言及したまでである。

然らば歷史はマンコ・カパリに就いて何と傳へてゐるか。

スペイン人フランシスコ・デ・トレド師はかう云つてゐる、

『それは第十二世紀の初期、ゼルマン皇帝ハインリツヒ四世がカノツサに於ける苦行に依つて法王グレゴリウス七世に反抗した罪障を贖はねばならなくなつたその頃であつた、最初のインカ、マンコ・カペクは、その妹であつて、後に結婚てし皇后ママ・コヤの位に即かしたオエロ・フアコを伴ふて、山間溪谷に住んでゐるインド人の野生の食人民族を、暗黑野蠻な憫むべき境涯から濟ふて文明に開化させやうと、チチカカ湖中の島嶼から荒涼たるフイルカノタ越をして、北方に向つてさまよひ出たのであつた』と。

しかし、このマンコ・カペクがもと何處から來たものであるか、ごうしてチチカカ湖中の島嶼に到着したものであるか、彼がそんな功業を成遂げるに適した高等な敎養、賢明な知能を何處

造りに入り、そして、書院造りの一般化から少し具面の好い家では店口や勝手の外に變形的な玄關を造るやうになつたもので、殊に大名の邸宅や醫者の住宅では、威權を保つ關係上茲に建築的効果を出したものである。

お玄關を淋しく出るは町醫也

是はお城の玄關で、町醫者の肩身の狹さと云つたもの。

煤掃きに玄關で肴値が出來るは大ごころの玄關である。

玄關で欠伸をさせる匙加減

是は醫者の玄關、

摺鉢と隣合はせの安玄關

玄關へ見ゆるところに書物棚

二つ共說明に及ばず現代でも判る事である。

請出され玄關のことを見世と云ひ

身請けされた遊女が、過去の生活から考へて玄關を見世だと思つたのである。

◇　◇

屋根に關するもの

鷲を逃がして屋根の谷渡…

居候嵐の屋根を這ひまわり

男身を屋根へ出しとく女護の島

等說明に及ばぬもの

おばの出た跡は鱗に月がさし

からごうして醵得したか、と云ふやうな事は、中南米の原始の山野に置くされた幾多の神秘の一部である。たゞ彼が更に古い他の文明に屬したものであつたことは、殆ど疑ないところである、そして何か已むを得む原因から、その民族中から脫走せねばならなかつたものかも知れないと思はれる。

三　夢幻御建設

近年續々舊民族が遺した巨大な文明の遺跡が開明せられてゐる中米のことに就ては、姑く云はないが、事實ペルウには、さうした文明の遺跡が、中南米の何れの地方よりも多數に散在しその中には考古學上、エヂプトのヒラミツドなぞゝ共に、人間の手で起された最初の建造物と謳められるものもあるのであるから、その由來する處は、遙に悠久なものであると思はれるのである。

現にチチカカ湖の南々西に當つて斷崖とクエブラタスに遮斷されたチアフアヌコの谿谷には今でも規模の非常に雄大なさうした遺跡が存してゐるのであるが、その起原に就ては、西班牙人が始めて侵入した當時に於ける、ペルウの識者すらそれを說明することは出來なかつたのでたゞ彼等は『巨人、即ち神々の敵が築いたものである、それだから破壞したのである』と解してゐたのである。これ等のチアフアヌコの遺跡には、考古學の探險者たちが、宮殿、城市、多分クッコのサクスアフアマンの保壘の原型らしい築城、奇妙な石板、後世の建築の小さな模型、疏水の方法などを發見したので、恐らく其處がマンコ・カパクとその妹の故鄕であつたかも知れないが、それは傳說にさへ傳はらない史外のことである。

でそれはそれとして置いて、マンコ・カパク降臨の傳說としては、先づその代表的のものとして、ガルシラツソ・デ・ラ・ヴュガの所說を紹介しやう。ガルシラツソ・デ・ラ・ヴエガとは、同名の西班牙の貴族を父とし、ツパク・インカ・ユパンクイの孫としてペルウ皇家の血統を承けた土人を母として、西班牙人がペルウの土に最初の足跡を印してから、前後十余年を費して征服の目的を達してまだ內亂が十分に鎭定しなかつた頃にクツコに生れて混血兒で、幼時からカトリツク敎に歸依して完全な敎育を施され、二十歲の時西班牙に渡つて直接歐洲文明の空氣に觸れ、そのまゝ西班牙に永住した當時の新人であつたしかも彼れは常にペルウ皇族の子孫であることを誇りとして自らガルシラツソ・インカ・デ・ラ・

是れは綱館で伯母に化て來た鬼が腕を取つて屋根から逃げだした。其の時破れた破風が鱗なりの三角にポカンと開いて、そこから月がさし込んだことを云つたもの

大阪や寢言を書いて屋根へあげ

誰にも菰葺きあへず尾張町

何れも說明を要する句だが、先きが永いから斯う云ふ句があることを知つて頂くだけにする。

それから實際の屋根ではないが

四ツ手駕籠丁度紅葉で葺いたやう

うにゝねの顏へ一冊屋根を葺き

こ云ふのがある、本を一冊披いて顏に伏せてあるのが屋根を葺いたやうだと見たもので、之れに依つて切妻屋根の如何に多かつたかといふ參考にもなる。瓦の渡來は古く、既に千三百餘年前のことだが、之れが一般庶民の建築に用ゐられるやうになつたのは、德川時代である、然も町屋に瓦屋根の行はれたのは京阪地方が早く、京都では寬文二年にはあつたさうで、江戶では慶長年間日本橋本町邊に居た瀧山彌次兵衛といふ男が、屋根半分を瓦に葺いたので大變な評判を取り、半瓦の彌次兵衛と云はれたといふ話もあるけれど、江戶の町家に瓦葺の始まつたのは明曆大火の後だ、それまでは『燒き屋』と稱する草葺き板葺きが多かつたのである。大火後幕府

ヴエガと稱し。ペルウの歷史家としては、第一に引合に出される人物である。

彼れは云ふ、

『憐れな下界の人間の身柄では、その神堂の境內に入つて拜むことさへ憚つたほど偉大な造物の大神パチヤカマクと、その御子の太陽の御神節に選ばれた』

そしてこの任命が、チチカカ湖中の島の水中に突出した北岬の神聖な巖上で行はれたと傳へインチは、まだ蠻野の暗に包まれた人類の無智蒙昧を不憫に思ぼされた、それで太陽の御神の二人の御子マンコ・カパクと妹オエロをその使の命令で先づ大名の邸宅から手始めに瓦葺きを實行せしめ、火事の焚きつけ見たいな市中の草葺板葺きを嚴禁したものである。

麥藁でで二年萱では二十年是れは俗諺そのまゝの屋根を云つたもので

◇　◇

瓦には瓦以後手練世上へ名もひゞきと云ふのがある。

◇　◇

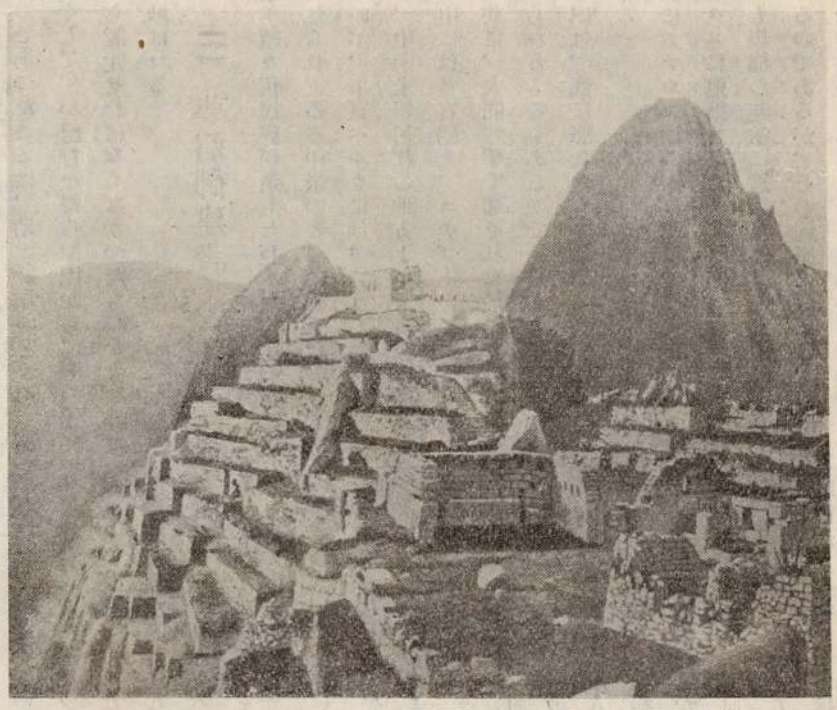
見世、店造りは商業の發達に伴ふべきもので堺地方が早かつた、關東は鎌倉以後小田原を經て江戸に入り、之れも明暦以後、屢々大火の洗禮を受け漸く發達したものである。

女客亭主は見世へ追ひ出され金屏風たゝむと常の店になりなぞ、その狹さを思はせ

店先きへ出ては亭主を嫌がらせなんてのがあるかと思へば大喝一聲小間物屋の店を出しと云ふ店ならぬ店もある。

◇　◇

庇の句としては姉の智惠庇の羽子へ毬つぶてが面白い。



◇太陽により近く建設されたる空中市街◇

これはアンデス山脈中のウルバムバ峽谷に臨むマチユ、ピツチユの廢墟で、美しく恐ろしき大自然に抱かれた、奇怪なる市街と城塞の一部である。

この市街こそインカの搖籃地、心强い根城でこゝから降つてクツコや終には全判圖を征服したのである。

られてゐるのは、神命傳授と云ふやうなさうした神秘な事件の舞台として、この上もなくふさはしいことである。

その脚下には、アルプスの高峯モン・ブランの頂上と殆ど同一高度にあつて、探檢家スクアィヤが、一百尋まで測つても、その底を極めることが出來なかつたほど神秘の水を湛へた湖水、その水が不思議に決して凍結せずして、ボリヴイヤの南方にあつて、まだ殆ど探檢されないアウラガス湖と、狹いデサグアデロの谿谷で流通してゐるその湖水、殆どヒマラヤの最高峯の壘を摩するイルランブの峻峰を首として、崇嚴なアンデスの雪の峯々に圍まれたその湖が靜に横はつた。その神々しい靜寂に目ざめた大自然に包まれた湖中の一巖上に起つて、マンコ・カパクとその妹は神命を拜受したのである。從つて後世この地點が敬虔な信者に依つて、黃金に飽かして、光耀赫灼たる聖地と經營されたことは、敢て異とするには足らないであらう。

さてここで、太陽の神インチが選ばれた使節を召して、その手に黃金の杖を拔けた。

『マンコ・カパクよ、これを持て、そして汝の足を北に向けよ。山又山を踰へて、困苦を恐れず燒けつく沙漠も、沼地も巖も踏み破れ　每晩行き暮れて山野に臥す時は、この黃金の杖を投げ出せよ。しかして夜に入りて、忽ちこの杖が土に埋れて消え失せたらん時こそは、やがて大神が汝を遣られし場所に着きしものと知れ』

『其處に汝の住居を定め、汝の足を東西南北に向けて、タフアンチンスユの國土——四つの太陽（即ち四方）の國土を求めよ』

これが太陽の神インチの命であつた、そして二人の使節は、バルサに搖られて湖の西岸に渡り、そこから國土探がしの旅に就いた、このバルサとは今でも土人が使用してゐる蘆を組合せて造つた狹い筏で、一人の男が一端に跨り乘つて、短い棒で水を掻いて前進させる、極めて幼稚な乘物である。

かうして二人は荒涼激烈な風土氣候の大アンデス山中を、連日北進し續け、行き行きて南緯十六度の邊まで進み、綠滴たる美しいフテネイの河谷を降ると、夜每に試めして來た黃金の杖が、ある夜始めて太陽の神の仰の如く、地中に埋れて了つたのを知つた。そこで『神の使節は歡んで旅裝を解き、フテネイ河とチユチルマヨ河の落合に、都クツコを奠めて、マンコ・パカクは農耕の術を教へ、ママ・オエロは紡織の方を授けて、土民を訓練し、かうして強大な『四方』の帝國の基を肇めたのであつた』

惟ふに、この傳說は、チチカカ湖畔の故鄕を

◇　◇

天井、是れは狩野探幽が如何に各所の天井に龍を書いて廻つたかを思はせる。

探幽は頭の上に蟠り
と云ふのがあつて可笑しい。

◇　◇

欄間には
伯良は欄間を見ると思ひ出し
と云ふのがあつて、天女の欄間の多かつたことを思はせる。

◇　◇

階子には遊廓情調が多く
階子から見立た客は二度と來ず
別れての寒い階子を駈けあがり

なぞ、普通住宅のは少ないやうだ、それだからと云つて市中二階造りがなかつたと云ふのではない。文化の遲い江戶ですら、明曆頃には日本橋大傳馬町、室町、神田佐久間町邊に、二階三階の堂々たるものがあり、大阪心齋橋筋には大きな吳服屋が二階造りを構へてゐた。

年禮が來ると二階が靜かなり
暑い晩表二階の蚊帳が見え
大三十日亭主二階で琴を彈き

けれど矢張り二階も遊廓方面のに面白いのがある。と云ふのは遊廓の客座敷は二階だからなの

何等かの理由に依つて脫走したあるマンコ・カパクなる優秀民族が、若干の郎黨を引率して放浪し、その優秀な知能と、恐らくはまたその優秀な武器に依つて、未開の土族を征服したことを意味するものではなからうか。

また一說には、ある『有髯白衣』の人がチチカカ湖畔から進んで來て、土民に君臨して、彼等に文明の慶福を授けた、とも云ひ傳へられるがこれに依ると、その傳說は、彼等とは沒交涉であつたメキシコ、アヅテック民族の神人ケツアルコアトルのそれと妙に符合してゐるのである。

猶また英國の史家ランキンの如きは、彼を以て蒙古クブライ汗の子であつたと云ふ大膽な異說を立て、『蒙古人のペルウ其他の征服に就ての史的研究』に於て考證を試みたのであるがこれとて直ちに牽强附會と一笑に附すべきことではないかも知れないのである。兎に角それほどの文明に進み得た民族には珍らしい異例として、このペルウの民族は、所謂文字なるものを有たなかつた、尤も記錄計數の手段として、文字に代る一種獨特の方法を有つてゐたが、それは文字に較べると甚だ不完全なものであつたから、建國以後の比較的後世のことに就いても殊に甚しく明確を缺くところが多いので、私たちは西班牙人が侵入した當時に親しく見聞した史實を根據として觀察する外ないのである。

さてクッコに都を奠めて土民の敎化に志ざしたマンコ・カペクは、先づ彼等を太陽崇拜敎、即ち太陽の神インチの信仰に歸依さした。光と熱を與へて日毎に夜の惡魔を拂ひ、野の草を青み實らせ、あらゆる生物と生の歡びを與へる太陽を以て、十善萬能の父と仰ぐ信仰ほど、さうした單純な人心に入り易いことはなかつたであらう。

そしては彼れはその太陽の神の子であつて、それ等裸形の土民とは似もつかぬ美服を纏ひ、黃金造りの靑銅の武器を携へた優超した異人であつたのだから、容易に民心を收攬して、現世に於ける尊信を一身に鍾めたことは當然である。

かうして建國の大業がその緖につくと、彼れは自らインカと稱した、インカとは國王又は君主の義である、そして妹オエロを妻としてママ(母)コヤ(皇后)の稱號を與へ、それと共に子孫將來のために遺訓して、以後代々の君主は日嗣の皇子を設けるために、必ず皇長姉と結婚せねばならぬ、しかし皇子の出產後は、皇長姉との一切の夫妻關係は禁止されねばならぬと定めた。

こんな極端な血族結婚の制度は、今日の思想から見れば、驚くべき非倫悖理のことではあ

ある。

簑を着て新造二階中歩き
新造は二階を廻り〳〵寢る
二階から落ちた最後の面白さ
二階からやりて風が見世へ吹き
實に情景を思はせる。

◇ ◇

土藏は深籠として先づ京都の貴族間から發達したと見るべきである、町屋に土藏の多くなつたのは防火の手段として之れも德川中期からのことである。

三人で下女は明るく藏を出る
藏も藏だと仲人しめられる
新川は上戶の建てた藏ばかり
傾城の淚で藏の屋根が漏り
口笛で土藏の中を見て歩き
寢そびれた夜は藏を建て家を建て
來ると先づ意見巧者は藏へ呼び
持參金俄かに藏が十五建ち
二八月質屋の藏もあれるなり
藏建る迄は茄子を植えて置き
なぞ無數にある。

◇ ◇

明き店、この句に面白いのがある。
道ならぬ戀で明店二軒出來

るが、古代民族中の支配者階級の間には屢々行はれてゐた社會現象であつた、それは支配者階級がその優秀な血統を純正に傳へんがために外ならなかつたのである。

たゞしかし、ペルウのインカの場合に於て大に異例と見られるのは、今日優生學上から見て絶對に危險であるとせられる極端な血族結婚を永く繼續して、しかも能く十三世に亘つて有力な君主が續いて出た、皇太子の資格が嚴重に限られてゐたから皇位繼承の紛爭は更になく、皇基が非常に安固だつたことである。

彼れは太陽の御子として、蠻民を敎化して太陽の御神の恩德に浴せしむべく、その大命を奉じてこの土に君臨したのであるから、ひたすらその神旨を體して蒼生に臨むことを務めとしたその子孫が十二世四百余年の久しきに亘つて、十分にその使命を完ふしたのは、恐らくこの固い信仰に基づく深い責任觀念に依つたものである、しかしまたその影に、累世インカの弟又は最近親中から選任されて、終生をコリカンチヤ黄金の廷と呼ぶ莊麗無比の太陽の御神の神殿の奉仕に捧げた大神官ヴィラク・ヴムがあつて、賢明にこれを輔弼したことも見逃せないことであらう。

そして私たちは、此處にも亦この國家に限つて見られる珍らしい現象に接するので、ヴィラク・ヴムはその身分から見て、インカの外比肩する者なき國家の權威でありながら、インカ帝國四百年間、歐洲の歷史に於けるローマ法王と國家の主權との紛爭、東洋の歷史に於ける人臣の僭上不軌の不祥事は、決して起らなかつたのである。

それ故に世々のインカは、少しも內顧の憂なしに、賢明な平和な政略を以て、次第に附近の民族を從へて、その領土に併合して、平和な文明の恩惠に悅服させた。そして益々國力が強大になつて、直接武力に訴へることが出來るやうになつても、平和と文明のための仁義の軍として、祖先と同じく一視同仁を標榜して、聯絡も何もなく幼稚な民族を次々に征服した。それから十五世紀の中頃になつて、歷代のインカ中でも最も有名なトパ・インカ・ユパンクィがマタカマの沙漠を橫斷してチリの南部地方まで遠征し國境をマウレ河に定めて、大に國勢を伸張し、その子のファイナ・カパクがまた父に劣らぬ英邁な武君でコルディラレに沿ふて北方に兵を進め、赤道以北に侵入して、當時附近に雄視してゐたクイトの王國を併合して、國運の隆盛を極めたのであつたが、あはれその子の代になつて西班牙人の侵入に會ひ、庶子アタフアルパが自

明店へ一と聲捨てる納豆賣り
明店の左右鍛冶屋と粉屋なり

◇　◇

長屋には狸長屋だの何長屋だのと云つたものもあり、九尺二間と一口に云つたしかない生活者の住まふいはゞ小屋である。

一と長屋氣抜けのしたる梓弓

で說明つくしてゐる。

あぶらいへ顏を並べる外長屋
九尺店長いもうしい梁ばかり
其の手代其下女遂に九尺店
裏店で琴を彈くのも計りごと

なんてが出て來る。

◇　◇

湯殿の句としては

湯殿から忘れた時分嫁は出る
柘榴口人を呑んだり戻したり

此の後の句は當時の風呂屋建築を示すものである。

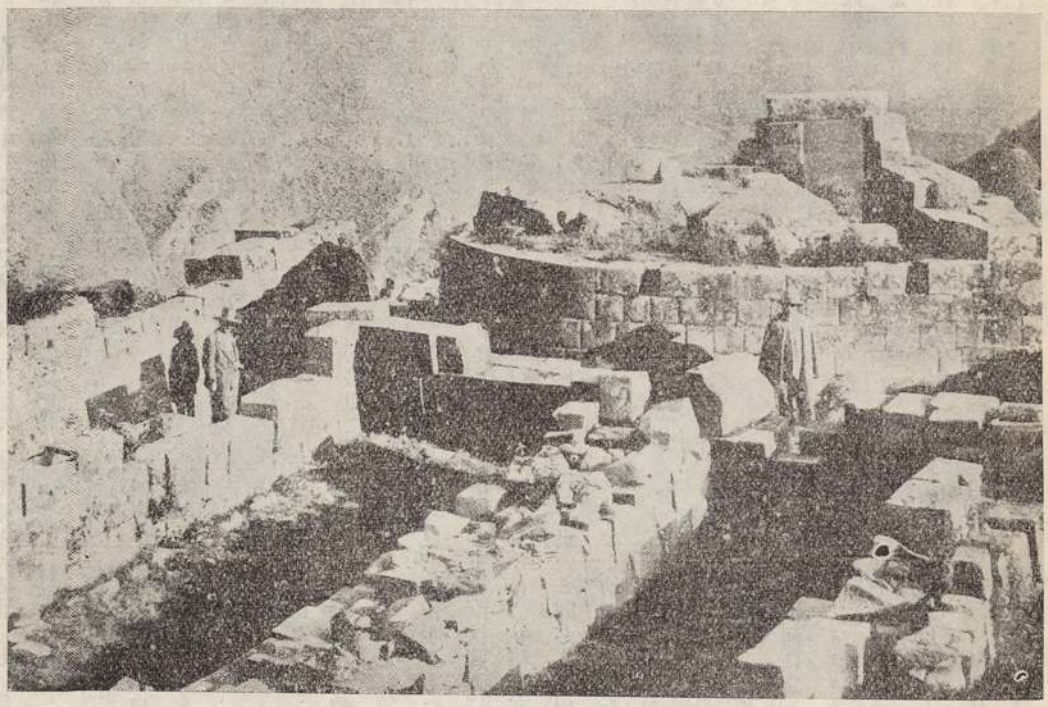
はし近い湯殿鹽谷が落度なり

是れは師直の出齒龜振りを言つたもの

昔から湯殿は智惠の出ぬところ

是は義朝や其他の勇士があたら命を風呂場で殞したことを諷したものである。

◇　◇



◇大自然を威壓して
そゝりたつインカ
の廢墟

ギリシヤ神殿の場合と同樣に、雄大なる環境によつて引立てられてゐるといふには餘り印象的である。インチフアタナの環狀殿堂、その上に影を落とすのはアンデスの一山脈で約三百年の間、このユートピアを暴虐なる征服者の劍から、護つてくれたのであつた。

この廢墟はウルバムバ峽谷の絕頂のピサクにある。

雪隱に關するもの

雪隱へ先を越されて月をほめ

雪隱で齒を磨いてる居候

二年越したれてる除夜の長雪隱

さうかと思ふと、

南瓜盜人雪隱を引倒し

と云ふのがある。勿論之れは田舍の堀立て雪隱で建築的興味を求むるのは酷かも知れぬ。

◇　◇

神樂堂に關するもの

神樂堂鈴をばしやくるように振りの如く神樂堂其ものではなく多く神樂を讀んだものゝみであつて深い建築興味は無い。

◇　◇

劇場に關するもの、是れも

幽靈は消えて棧敷へ飮みに來る

氣のない內儀棧敷のうしろで見

棧敷から仲上るのは下女の顏

等、劇場建築を髣髴させるものが無いでもないが、多くは劇場氣分を持つてゐる。

◇　◇

一般住宅に關するもの

新室をほめる座頭はさげを立て

盲は目で見て賞めるとこは出來ない。そこでそこら中を撫でまはしたのである。とげを立て

らインカと稱して、兄ファスカルと國を爭ふた隙に乘ぜられて、終にその國家も民人も文化も富も、貪婪殘忍な白人のために滅亡されて了つたのであつた。

四　エル・ドラド黄金の國

私たちは今姑く、ペルウ學者として最も造詣の深い獨逸のミツデンドルフ氏を參照して初見參の西班牙人をして、先づその黄金の富の夥しきに垂涎させねば措かなかつた、インカ帝國の發祥地であり、聰明なインカ歴代の帝都であつたクツコのありし昔の盛觀を尋ねて見やう。

それは、アルプス山中であつたならば、萬古の雪に埋れたであらうほどの高原上の美しい谿谷に在つて、北は大コルディレラの高峻な一支峯ロダデロに守られ、その麓の大岩塊サクサフアマンの上には、インカ・ユパンクイ大帝が築造した雄大な堅壘が市街を壓してゐた。市中にはファタネイミツルマヨの枝川が貫流して、巨大な板石を疊んだ木橋が所々に架けられてゐた。

市街の最も古い部分はサクサフアンの裾にあつて、マンコ・カパクが永住の居所を定めたのは、そこの一高地であると傳へられてゐる。その臺地には今サン・クリストバル教會の小さな會堂が建つてゐるが、全市を一眸の下に收める形勝の地である。そしてこの高臺の下からハウカイプタと稱する目貫の廣場までが、ハナン・クツコ即ち上町と呼ばれ、それから南に伸びた部分が、フリン・クツコ即ち下町で、東方アンチスユに通ずる軍道がその上下の境界線となつてゐた。そしてサクサフアマンとファタネイ、ツルマヨの枝河に限られた三角の中心區域の周圍にこの軍道を夾んで、

カンツト・パタ（花壇の義で、カンツトと云ふペルウ原産のカネーションのやうな美しい紅の花の植物に因んだもの）

ペマ・クルク（南米の虎と云はれるプマの家の義で、プマを飼つた檻があつた所から起つたもの）

トコ・カチ（鹽の床の義、ハウカイパタ廣場の東方）

ムナイ・センカ（可愛い鼻の義）

リマ・パンパ（同名の廣場があつて、南方遠くチチカカ湖に通ずる道路が出てゐる所）

プマプ・チユパン（プマの尾の義で、ファタネイ、ツルマヨの枝川が鋭角三角形をなした區域で、神殿の所在地）

ファカ・プンカ（本尊の門の義で、サクサフアマンの西麓に沿ふたファタネイ川の底地）

ガルマンカ（肩胛骨の義）

キリ・パタ（狹い高臺の義）

ピチユ（踝）

たのは其の結果である。

吾家に腰掛けて居る暑いこと
金があれば避暑に出掛けるんだがと云ふここ ろ。

夕顔は大工の建てた家に咲き
新宅の莚も明くかと押して見る
田舍間につもる相馬の木工の頭

昔の建築には京間と田舍間とがあつた、六尺五寸を一間とするのが京間で、六尺を一間とするのが田舍間と云ひ、宮殿建築は京間を以て設計するのである。將門の相馬の御所は田舍の大工が設計したのでそうした故實も知るまいと云ふのである。

◇　◇

戸障子類は、建築物の附屬品として最も多く接觸するので面白いのが澤山ある。

親分子のは舞良戸で立並び
勝元は雨戸繰る毎おどかされ
元日はまだ怖いから戸を開けず
名月の雨戸一枚づゝおろし
からかみへ夜伽は夢を立て掛る
下剃りは障子を開けて水を打ち
何を隱さうと勅使に妻戸見せ
お定まり通り杉戸の前へ座し
才藏に奥の岩戸も少し開き

チヤクイル・チヤカ（海草の橋の義）などの市區が連接してゐた。そして前に擧げた三角形の區域プマプ・チュパン内には、皇居、神殿、神殿奉仕の齋女殿、多數の王公貴族の邸宅を始め、主要の建物が悉く集められ、一般庶民の住宅はその區域外にあつて、各々同じ職業のものが集つて街區を形作つてゐたので、そこには、織物屋町、革屋町、金物細工町、具足町、陶物町などゝ、あらゆる職業の街區があつたのであるから、家屋は上下一樣に甚だ低く、街路は細長いものではあつたが、その市域が甚だ濶大で、且つ極めて能く整ふてゐたことが、ほゞ想像されるのである。

今日でも、この由緒あるインカの舊都の跡を訪れたら、貪婪飽くなき非道な昔の西班牙人のために、根柢から掠奪破壞されて、最早殆どその盛時の面影を遺さぬながらも、猶ほその後に建てられた近世の建物に利用されて、その特異な石材の接合法で容易にそれと認められる巨大な古壁などが隨所に看取されるので、その當時の建物の規模の如何に大きく、構造の如何に堅牢であつたかが證據立てられるのである。

しかしそれ等の遺壁などゝも、私たちの建築のやうな立派な外觀の一部をなしてゐたものゝと想つてはならない。ごんなに立派な大建築物にしまだ澤山ある、又障子にうつゝたかげ法師を云つたのにも面白いのがあるけれど、省く。

◇　◇

疊、之れも建築の附屬物であつて

土用干し疊の上の通り道

新世帶疊の上で味噌を摺り

疊二枚ばくり〳〵とかついで來

疊かへ引つつき合つてめしを食ひ

實に面白い。江戸越後屋の賑ひを云つたものに駿河町疊の上の人通りゝ云ふのもある。

◇　◇

堂塔寺社關係のもの、宮殿關係のもの、座敷牢、城廓、狩屋などに關するものも可なりあるが、先づそれらは預つて置いて、最後に建築に關係する職業のもの、中から註釋なしに判るのを揭げて見よう。

行燈で食ふは大工も仕舞ひの日

俎板をたばこの時にけづらせる

鉋屑かみ〳〵大工研いでゐる

以上は大工

疊屋は隅で大工を惡く云ひ

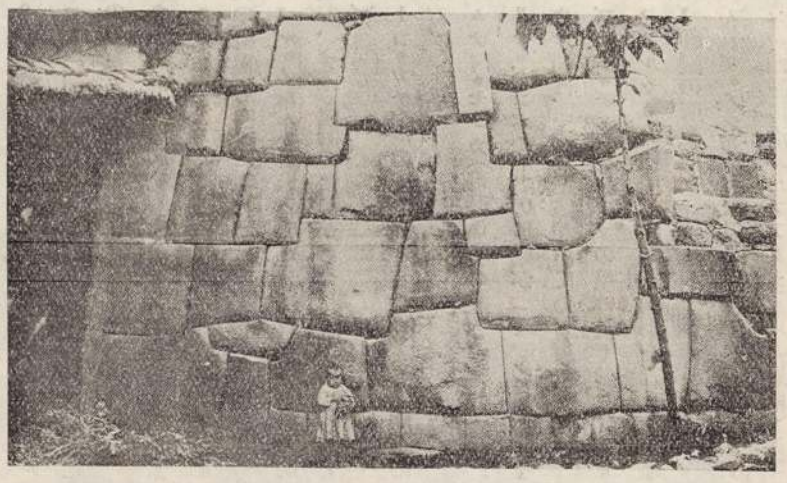
疊屋は手の舞ひ足の踏む所

疊屋が野幕で簞笥をひよいとのけ

是れは疊屋

◇クツコ市中の不思議な巨人積◇

クツコは世界最古の都市の一つであつて、インカの石壁が到る所に、現代の建築の下積となつて、



しかも嚴然と存してゐる、巨人積、多きは十二以上の隅角をもつた、それは、日本の築城法にも見る傳統ではないか、そこに何か失はれた連鎖があるのではないか。

ても、その外觀は甚だ單調な、寧な陰鬱な感じを與へるものであつた。海上に覇を唱へてゐた當時の冒險的な西班牙人が、何時の頃から夢に憧がれてゐた海の彼方にありと云ふエル・ドラド、金銀珠玉の寶の國、そのエル・ドラドの現出！こばかりに、初參見の彼等を狂喜し、眩惑さしたのは、實にたゞさうした建物の內部にあつたのである。

その內にも、その神聖なことに於ては勿論、その裝備の壯麗なのと、所藏の什寶の多大なので、國內第一であつたのは、プマプ・チュパンの勝地に建立されてあつたコリカンチヤ即ち太陽の御神の神殿であつた。神殿各部の配置は、大體に於て普通の住宅と同一形式でただその規模が異つてゐたばかりであつたらしく、大小の各室は何れも別個に扉なしに中庭に開き、そしてその大本堂は、現今のドミニック派教會堂の原型となつたものであつた。

この大本堂の內部こそは、文字通り黃金の寶庫であつて、その壁天井は一面黃金板を以て覆はれ、西方の壁には、巨大な黃金板に無數の寶石を鏤めて人間の姿に彫刻された神體が、日光に象つた背光に包まれて、東面して祀られ、その南北の兩側壁には、木乃伊として保存された代々のインカの遺骸が、生けるが如く黃金の玉座に安置されて居並び、旭光が東方の廣い入口からまともに射し込むと、堂內は眩いばかり金光燦然たる光耀に漲るのであつた。實に黃金はインカの言葉では、『太陽の御神の涙』に擬らへられたものなのであつた。

そしてこの神殿には、結構のより小さな四つの祠堂が連接して、それ〳〵の祭神が合祀されてあつた。その第一は、インカ母神として太陽の神に亞いで篤く尊信されてゐた月の女神キルラの祠堂であつて、美しい月光をそのまゝに、神體から一切の裝飾までが、しろ金を以て作られてあつた。次は太陽の神の妹と見られた曉の明星即ち金星の祠堂、次は太陽の神の命を奉じて報復懲罰を司る雷電の祠堂、最後は太陽の神インチが神怒を鎭められた表徵の虹の祠堂で、其處の壁には、目ざめるばかり色彩鮮かな七色のアーチが架つてゐた。そしてこれ等の神殿祠堂の扉は、すべて純金若くは純金で張られ、特に神殿の外壁の周圍には、石積の間に厚い黃金の條帶が幅廣々と嵌め廻はされてあつた。その他この神域內には、無慮四千人と稱せられた奉仕の神職の常住する、幾多の宏壯な建物もあつたのである。

それからこれ等の神祠に備へられた祭式の器具、調度の類も、亦悉く金銀ばかりを用ひたも

井戸堀りは上り屋根屋は下で喰ひ
金槌をかぎ〳〵屋根屋つまみ食。

咳の出る度に屋根屋は損をする
是れは屋根屋

二代目は人の物だと左官云ひ
是れは左官

今戶では人間鬼を釜に入れ
是れは瓦屋で鬼とは鬼瓦のこと、當時江戶今戶邊に瓦屋の居たことを知る。

たばこ呑む中も思案の庭造り
生垣のうらの相手は旦那なり
是れは庭師のことである。

◇　◇

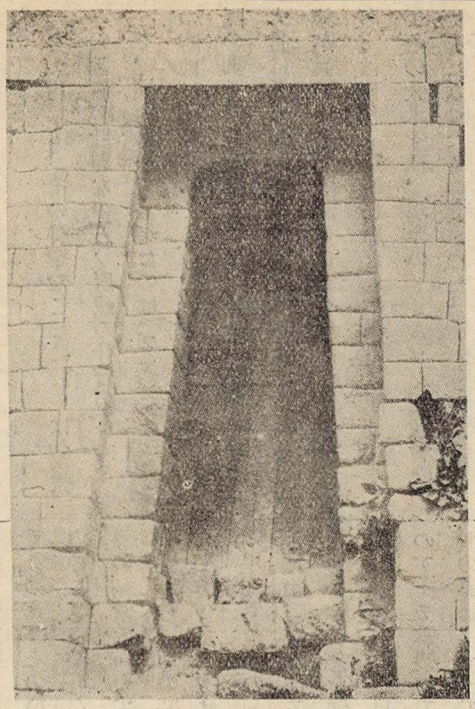
此の外に紙面が許せば幾らでも揚げることが出來るのだが、遺憾乍ら諦めなければならぬことを御承知願はねばならぬ。

◇　◇

要するに、川柳の中から當時の建築的傾向を見出さうと云ふことは、他の小唄や歌謠類の中から、さうしたことを試みるのと同樣、ちつと六ケ敷相談ではあるけれど是れを逆に利用して川柳といふ形式を以て現はれて居る建築を通じて、當時の嗜好や風習を窺ふことは、日常生活と最も密接な關係のあるものだけに、漠然と單に川柳の上から觀察するよりも、考へに一つの

ので、大本堂の廣前に配列された六對の巨大な大甕を始め、神前の香爐、水盤から、その水盤に清水を引き入れる地下水道管、神苑に使用する農具に至るまで、すべて純銀を以て作られたものであつた。そしてこの六對の大甕の如きは一個の大さ實に普通の男子の一抱へに餘り、高さは手頃の槍の長さほどもあつて、それに夥しい供御の穀物を盛つたものであると云はれる。

しかし、神殿の禁庭内にあつた有名な『黄金の神苑』は、まだ〳〵もつと驚くべきもので、正にクツコ最大の偉觀であつた。そこには黄金の列柱あり、姿態さま〴〵の黄金の動物あり、輕風に小枝を搖るがせる純銀の草木あり、銀の莖葉に銀毛金粒の豐かな實を拙いた玉蜀黍あり



銀枝に憩ふ黄金の鳥あり、輝く珠玉の翅を張つて、今に飛び出しさうな胡蝶あり、地に這ふてゐる寶石の眼の虫類小獸あり、それはたゞお伽噺の國のさうした夢の國こしか想はれぬものであつた。しかもさうした善美をつくした人工の極致のうちには、黄金の水道から黄金の水盤に湛へられた清水に育くまれて眞實の草花が自然の美を發揮して妍を競ふてゐたのである！

今私たちが卒然かうした話を聞いたならば、私たちは直ちにこれを以て、彼の荒唐なエル・ドラドの迷信に多分に彩られたものこ見るであらう。しかし實際アンデス山中にはそれらの天惠が無盡に藏されてゐた、そしてインカの子民等は、夙くからそれを採掘して加工することを能く知つてゐた、しかも彼等は最も徹底した世襲君主獨裁共産國家の民こして、何等の通貨も存在しない、從つて貨幣こしての金銀の價値なごは絶對に知られない嚴確な土地財産國有制度の下に、一樣に生活の安寧を謳歌して、たゞ孜々こして各々の生業に勵んでゐた、そしてその生産した處のものは、悉く國家即ちインカの有に歸して、その處分は一切神聖な裁量に委されてゐたのであるから、種々の形のものとして、前後四百年間に亘つて蓄積された金銀は蓋し莫大無量なものであつたであらう。しかも以上の記述は、それ等の建物がまだ善美に誇輝いてゐた當時の目擊者や、それ等が掠奪破壞された直後にまだ生々しいその荒廢の跡を視察した人たちの證言のみに據つたのであるから、殆ごその叙述の誇大をさへ疑へないのである。

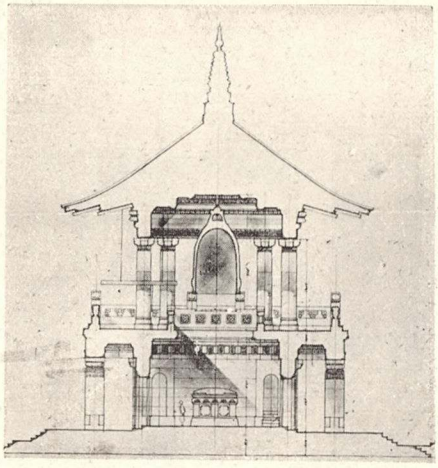
◇ミケネのそれに彷徘せるクツコの大城門◇

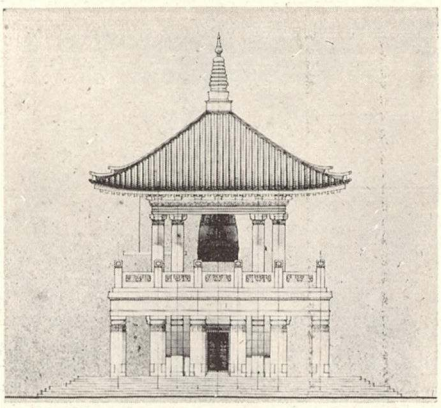
沈默してそびへたつ城門は古代インカの驚異に値する建築法を誇つてゐる、最古代の爲角石積よりも石塀が少さいが、荒く四角に切つて、其場で整層に積んだものである。

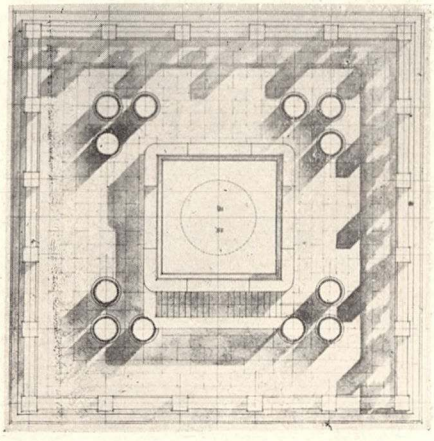
纏まりを與へて見れるだらうこ思ふのである。

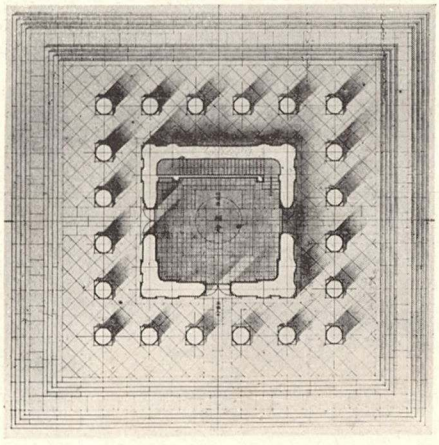
早い話しが

駒下駄で馬糞よけ〳〵茶屋を出るこ云ふのがある。是れで茶屋の建築樣式を知ることは不可能ではある、がしかし、其の茶屋の在所が、ごう云つたところであつたかを想像するには充分なのである。





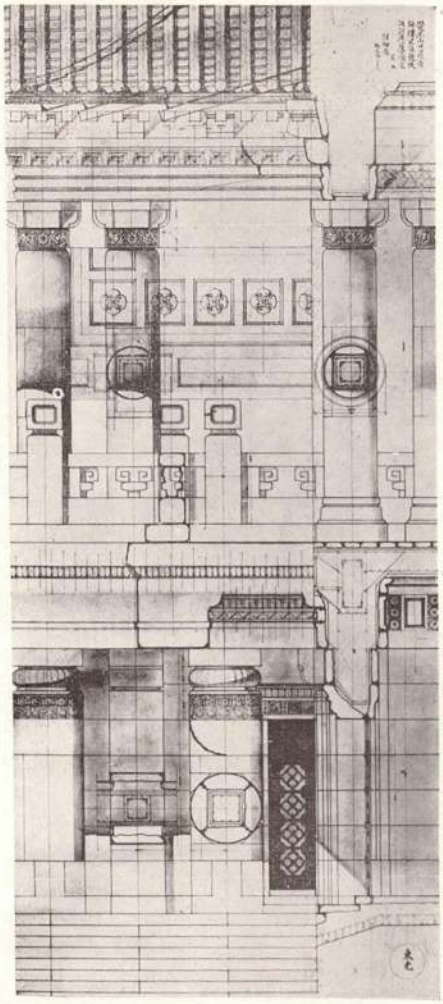


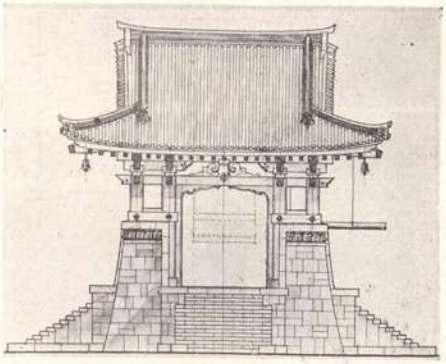


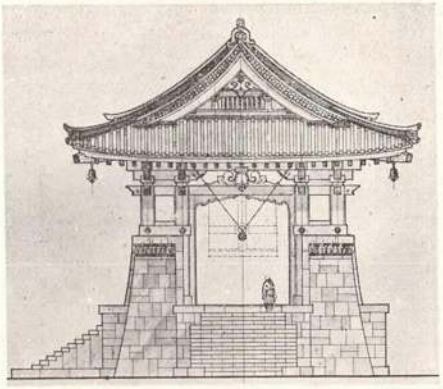
懸賞募集 ・ 名古屋市覺王山日暹寺鐘樓

第一等賞當選圖案

當選者 ・ 名古屋市 ・ 城戸武男氏



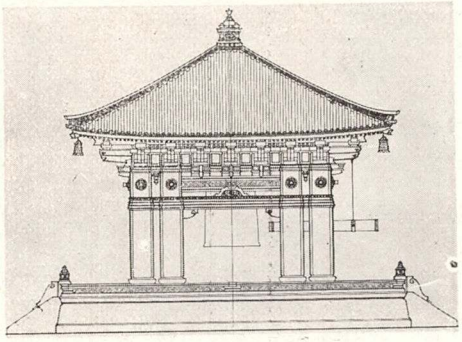




懸賞募集 ・ 名古屋市覺王山日泰寺鐘樓

第二等當選圖案

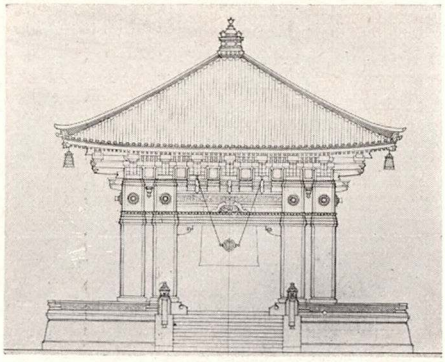
當選者　大阪市(協會員)山本延次氏



懸賞募集 ・ 名古屋市覺王山日暹寺鐘樓

第三等二席當選圖案

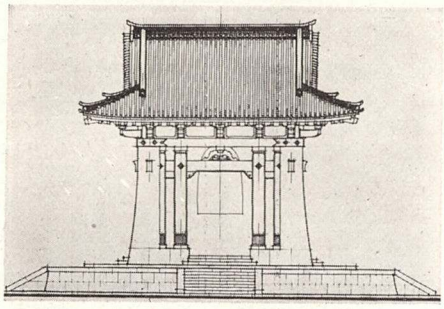
當選者　大阪市　（協會員）大原芳知氏

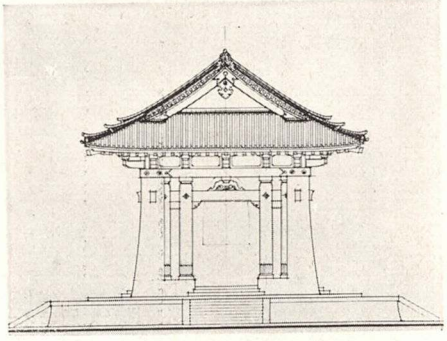


懸賞募集 ・ 名古屋市覺王山日暹寺鐘樓

第三等一席當選圖案

當選者　東京市　森口三郎氏







所　在　大阪市此花區四貫島大通二ノ一二

施　主　住友銀行四貫島支店

施　工　株式會社　鴻　池　組

竣　工　昭和二年十一月三十日

坪　數　本館四九坪〇八

階　數　二階建一部平家

“二次率一樣ならざる柱を有する小屋組の解法”

大阪橋本組設計部　工學士　石　井　勇

內　容

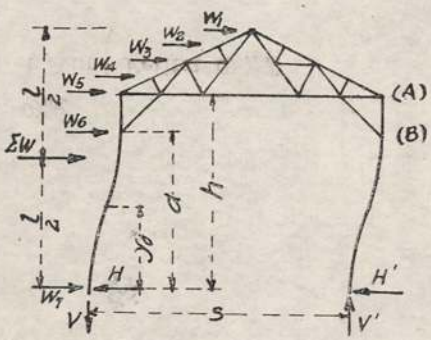
第一章　開　論
　第一節　Beck の說
　第二節　Ketchum の說
　第三節　Hool and Kinne の說
　第四節　Louis Rousselet et Aimé Petitet の著書
　第五節　本稿の目的及特色
第二章　本　論
　第一節　柱の下端滑節上端固定なる時
　　(a)　小屋組上に集中橫力が作用する塲合
　　(b)　柱上に等布橫力が作用する塲合
　　(c)　上下兩柱の接合點に集中橫力が作用する塲合
　　(d)　兩柱が夫々上下柱の接合點に相異る集中橫力を受ける塲合
　　(e)　上下兩柱の接合點に曲力率が作用する塲合
　　(f)　兩柱が夫々上下柱の接合點に相異る曲力率を受ける塲合
　第二節　柱の兩端固定なる時
　　(a)　小屋組上に集中橫力が作用する塲合
　　*(b)　柱上に等布橫力が作用する塲合
　　*(c)　上下兩柱の接合點に集中橫力が作用する塲合
　　*(d)　兩柱が夫々上下柱の接合點に相異も集中橫力を受ける塲合
　　*(e)　上下兩柱の接合點に曲力率が作用する塲合
　　*(f)　兩柱が夫々上下柱の接合點に相異る曲力率を受ける塲合
　第三節　柱の下端固定上端滑節なる時
　　(a)　小屋組上に集中橫力が作用する塲合
　　(b)　柱上に等布橫力が作用する塲合
　　(c)　上下兩柱の接合點に集中橫力が作用する塲合
　　(d)　兩柱が夫々上下柱の接合點に相異る集中橫力を受ける塲合
　　*(e)　上下兩柱の接合點に曲力率が作用する塲合
　　*(f)　兩柱が夫々上下柱の接合點に相異る曲力率を受ける塲合
第三章　閉　論

第一章　開　論

Knee brace を以て柱に結合せられたる小屋組の解法に就いては從來いろいろの說が行はれてゐる。本論に入るに先ち、簡明にそれらの說を紹介し且吟味する所以である。

第一節　Beck の說

a 圖に於ける小屋組が橫力其他の荷重狀態に依つて變形を起す場合に *A* 點 *B* 點に作らく力を知る爲に結局柱下端の水平反力を見出さねばならぬ事こなる。この爲に先づ小屋組の二次率が柱の二次率に對し著しく大で、この剛比 $\beta=\infty$ である事、即ち小屋組の變形前の形は、柱の變形後こ雖も何等變形を起さない。從つて第一柱(左柱)上端の水平移動量こ第二柱(右柱)の水平移動量こは相等しいこ云ふ事を假定する。これは各說こも共通な假定であり普通の場合許容さるべき假定である。小屋組が變形しないこ假定する以上、必然的に柱上部の二點 *A* 及 *B* が、變形後も同一垂線上に存在するこ云ふこになる。同一垂線上には來るが柱が *AB* 間に於いて一直線を爲すこ云ふのではなく、曲るには曲るが *A* 點こ *B* 點こが結局同一の垂線上に來るこ云ふのである。この假定に從つて水平反力を求める爲には、柱の反曲點を知らねばならぬ。反曲點の位置を見出さんとして試みた Beck の解法は第二百四十九圖 *a, b, c, d, e* に明かなる如く *a* を解くここは即ち *b* を解くここであり *b* は亦 *c* こ同質であるここを利用して *c* を解こうこするのである。更に *c* を *d*, *e* の二つに分解し *M* の位置を求める。こうゆう順序である。



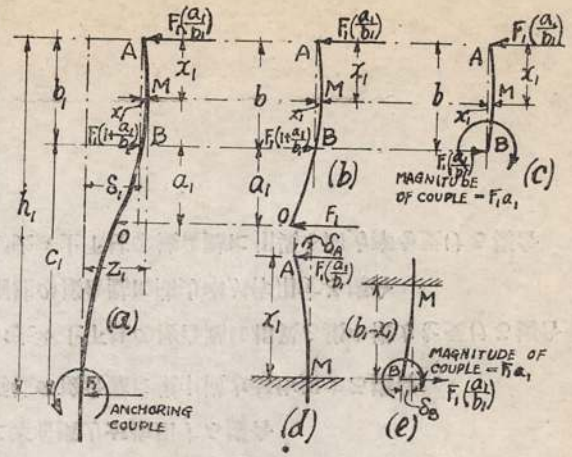


FIG. 249.

Beck は解法を簡單化せんこして丁度 E. Suter がその Methode der Festpunkte に於いて試みた如き分析的手段を撰んだのである。(都人一月號、拙稿參照)同圖に於て:

$\left(\frac{F_1a_1}{b_1}\right)$ を P こすれば $F_1a_1=pb_1$

AM にて　$\delta_A=\frac{px_1^3}{3EI_1}$

MB にて　$\delta_B=\frac{F_1a_1(b_1-x_1)^2}{2EI_1}-\frac{p(b_1-x_1)^3}{3EI_1}$

$$=\frac{3F_1a_1b_1^2-6F_1a_1b_1x_1+3F_1a_1x_1^2-pb_1^3+6pb_1^2x_1-6pb_1x_1^2+2px_1^3}{6EI_1}$$

F_1a_1 を pb_1 にて表し整頓すれば

$$\delta_B=\frac{pb_1^3-3pb_1x_1^2+2px_1^3}{6EI_1}$$

然るに始めの假說に從つて $\delta_A=\delta_B$ でなければならない。故に

$$\frac{px_1^3}{3EI_1}=\frac{pb_1^3-3pb_1x_1^2+2px_1^3}{6EI_1}$$

$6EI_1$ を乘じ　　$3b_1x_1^2=b_1^3$

$$x_1=\frac{b_1}{\sqrt{3}}=b_1\frac{\sqrt{3}}{3}=0.5774\,b_1$$

こゝに於て Beck は實際的見地に立つて x_1 を $\frac{b_1}{2}=0.5\,b_1$ とおくのである。第一柱の Knee brace が張力によつて伸び M の位置がその爲に上昇する傾があるからである。この M の位置に於て第二百五十圖の如き操作を行ひ反曲點で上下兩部分の柱の $\frac{dy}{dx}$ が相等しい事を利用して、反曲點の位置を、遂に得るのである。

下柱に於て　$$\frac{dy}{dx}=\frac{F(c-a)}{2EI}=\frac{F}{2EI}(c^2-2ca+a^2)\cdots\cdots\cdots(1)$$

上柱に於て　$$\frac{dy}{dx}=\frac{F}{2EI}\left\{\left(a+\frac{b}{2}\right)^2-\left(\frac{b}{2}\right)^2\right\}\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots(2)$$

(1) と (2) を等しいとおいて

$$a=\frac{C^2}{b+2c}$$

又 $x=0.5774\,b$ を用ふれば

$$a=\frac{3c^2}{b+6c}$$

然し(2)式に於いて Beck は誤*つた。(註 同書 108 頁には $x=0.5\,b$ とした時の $c-a$ の値が出てをりこゝでは正しい。371 頁の誤を書き改める爲に (1) 及 (2) に從つて $x=0.5b$ とした時の精算値を導くこととする)

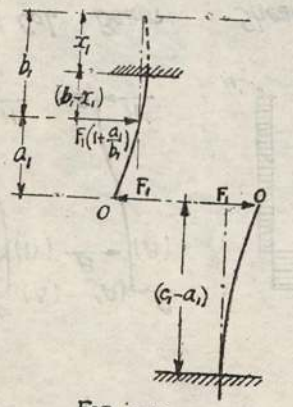


FIG. 250.

今 $x=0.5774\,b$ として (2) 式を正誤すれば

$$\frac{dy}{dx}=\frac{F}{2EI}\left\{(a+0.4226\,b)^2-\left(1+\frac{a^*}{b}\right)(0.4226\,b)^2\right\}$$

$$=\frac{F}{2EI}(a^2+0.6666\,ab)$$

次に　$$\frac{F}{2EI}(c^2-2ca+a^2)=\frac{F}{2EI}(a^2+0.6666\,ab)$$

之を解いて　$a=\frac{c^2}{0.6666\,b+2c}$

柱脚よりの距離は

$$y_0=c-a=\frac{0.6666\,bc+c^2}{0.6666\,b+2c}=c\left(\frac{0.6666\,b+c}{0.6666\,b+2c}\right)$$

既に y_0 が見出された以上、第一柱と第二柱に就いてその上端の移動を求め、之を等しくおく事によつて水平反力が求められるわけである。

第二節　Ketchum の說

小屋組の柱に對する二次率の比は甚大である。即ち剛比は∞にして兩柱の移動は相等しく AB 兩點は同一垂線上に常に存在するが AB 間の柱は直線を爲さず曲線を描く。換言すれば B 點に於いて柱の $\frac{dy}{dx}=0$ であつて全く Beck の說と同一である。從つて同樣にまづ反曲點の位置が必要となる。それを求める時に Ketchum は Beck の如く分析的に取扱はず綜合的に取扱ふのである。第三圖に於て:

Knee brace の足點より下の部分の柱では

$$M=\frac{d^2x}{dy^2}=B(d-y)-C(h-y)$$

茲に、坐標軸の取方は Beck と反對で柱が y 軸である事は云ふまでも無い。反曲點で M は 0 であるから上式より

$$B(d-y_0)=(h-y_0)\,C$$

$$\frac{C}{B}=\frac{d-y_0}{h-y_0}\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots(1)$$

次に AB 間の柱では兩點の移動量が假定に從ひ等しいのであるから兩點の移動量の差を取れば 0 になる。且つ M の式から導かるべきもの

であるから C 及 B を含むに相異なく從つてこゝからも $\frac{C}{B}$ の値が得られる筈である。そこでこの式を次の如くして導く。

上柱に於て　$M=EI\frac{d^2x}{dy^2}=-C(h-y)$

$$EI\frac{dx}{dy}=-Chy+\frac{1}{2}Cy^2+F_2$$

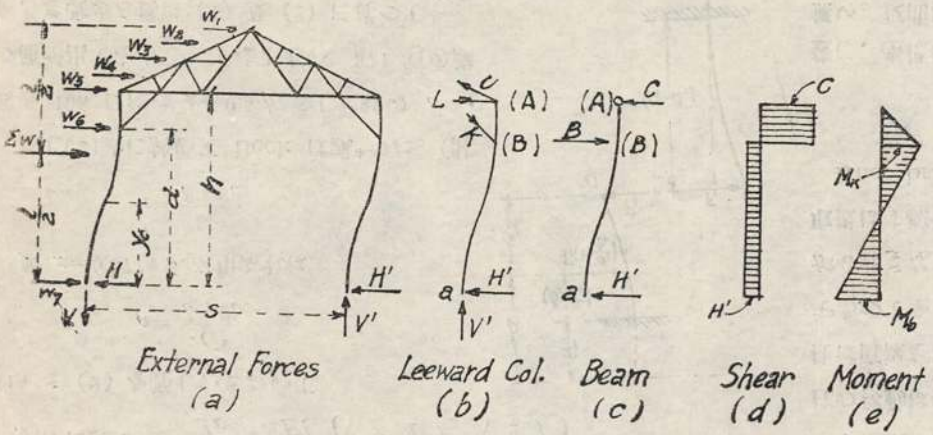


FIG. 3.

積分常数 F_2 は下柱の $\frac{dx}{dy}$ の式

$$EI\frac{dx}{dy}=Bdy-\frac{By^2}{2}-Chy+\frac{Cy^2}{2}$$

こ $y=d$ なる時 $\frac{dx}{dy}$ が等しい所より $F_2=\frac{1}{2}Bd^2$ こなる。

從つて $\frac{dx}{dy}$ の式は

$$EI\frac{dx}{dy}=-Chy+\frac{1}{2}Cy^2+\frac{1}{2}Bd^2$$

$y=d$ 及 $y=h$ の限界にて積分する時は

$$EIx=\left(-\frac{Chy^2}{2}+\frac{Cy^3}{6}+\frac{Bd^2y}{2}\right)_{y=d}^{y=h}$$

$$=C\left(\frac{hd^2}{2}-\frac{d^3}{6}-\frac{h^3}{3}\right)+B\left(\frac{d^2h}{2}-\frac{d^3}{2}\right)$$

之が 0 であるから

$$\frac{C}{B}=\frac{3d^2h-3d^3}{-3hd^2+d^3+2h^3}=\frac{3d^3}{2h^3+2dh-d^2}\quad\cdots\cdots(2)$$

(1) こ (2) より

$$y_0=\frac{d}{2}\left(\frac{d+2h}{2d+h}\right)=d\left(\frac{h+0.5d}{h+2d}\right)$$

今、Beck の分析的解法による y_0 の値を Ketchum こ比較する爲に第三圖の符號に書きかへれば

$$y_0=d\left(\frac{0.6666\,h-0.6666\,d+d}{0.6666\,h-0.6666\,d+2d}\right)$$

$$=d\left(\frac{h+0.5d}{h+2d}\right)$$

即ち全く Ketchum による y_0 の値こ同一である。是はもこより當然な歸結であるが Beck が用ひた M 點の位置は Ketchum は敢て問題こせず簡單により精密に y_0 の値を得たのであるから面白い。y_0 の値が得られた以上は Beck こ同樣にして柱下端の水平反力及 C,B を得られるのであるが Ketchum は單に小屋組上に集中横力が作用した場合のみについて述べその他の場合については記してゐない。Beck は集中横力が小屋組上にかかつた場合と、反曲點こ Knee brace 足點この中間にかかつた場合こを述べてゐるが何れも兩柱の I が異り且つ長さも異なる場合に關してであるから遙かに一般的である。尙 Knee brace が單に張力用とし Flat bar よりなる時の小屋組についての記述もあるが是は本稿の關せざる所である。

第三節　Hool and Kinne の說

小屋組が柱の移動後も何等變形を起さないと云ふ點では前二說と同一であるが AB 二點が同一垂線上に來ることを假定する時にこの部分の柱が一直線として殘ると云ふ點が全然異る假定となるのである。換言すれば B 點に於ける $\frac{dy}{dx}$ が 0 と云ふことになる。この考へ方は次節に述べる Rousselet et Aimé Petitet の說と同斷であつて前二節の $\frac{dy}{dx}=0$ at B とこれらの $\frac{dy}{dx}=0$ at B が根本的な相異點である。

AB 兩點の相對的位置の問題は荷重の狀態と小屋組の形狀とに關する。第二百十六圖の如き建物で又荷重である時は、小屋組の傾斜面の方が柱の部分より強く作用され、極端に云へば第二百十四圖の如き場合であつて同 a 圖の如くなる。即ち A 點は B 點よりも右側に傾くのである。

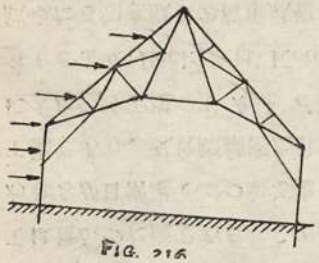
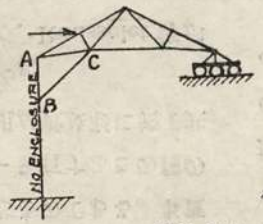


FIG. 216.



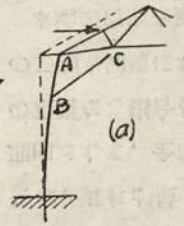


FIG. 214.

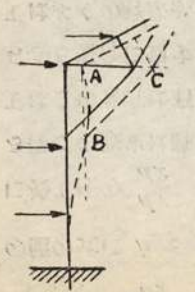


FIG. 218.

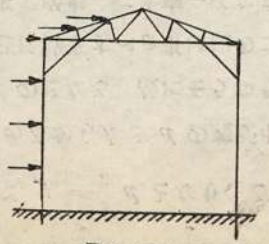


FIG. 217.

然るに第二百十七圖の如き場合では柱の部分の方が強く內側に向つて壓迫されるから、極端に云へば第二百十五圖の如くなり變形は同 a 圖の如くなる。即ち A 點は B 點よりも左側に傾くのである。

是等の極端なる場合に對しては嚴密なる意味に於ては Beck 又は Ketchum の假定と雖も適當では無いが第二百十八圖の如き場合ではこれらの中間と考へられ從つて妥當と見て差支へない。かような次第であるから何れにしても AB 間の柱は曲る譯であり全然一直線をなすと考へることは二點が重る場合を除いては不都合と云はねばならぬ。

Hool and Kinne の說は餘りに實際的である。柱の反曲點の位置も柱脚の完全なる固定は經驗上到底得らるべくもないことで柱脚より $\frac{d}{3}$ の點にあると して居る。簡單には相異ないがわれらが追及すべき範圍より遠くはなれてゐる。

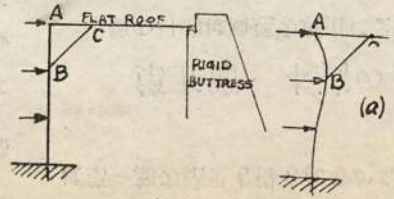


FIG. 215.

第四節　Louis Rousselet et Aime Petitet の著書

Louis Rousselet 及 Aimé Petitet の兩氏は Hool and Kinne と同一の假定に從つて本論に納めた如き數多の荷重竝に柱兩端の狀態に關して柱脚に於ける水平反力を求めた。反曲點の位置に就いては Hool and Kinne の如き說を爲さず理論的の操作に從ふ。即ちより理論的でより精密である。この著書は "Stabilité des constructions usuelles" で "Déformations des construction usuelles" の姉妹編を爲す佛書である。

B 點に於て $\frac{dy}{dx}$ を 0 ニおくことは不都合な假定に相異ないが前述の y_0 の値の式に h ニ d を等しくおくニ $y_0=\frac{1}{2}d$ となり、この時は B 點に於て柱の $\frac{dy}{dx}$ は 0 ニなるのであるから h ニ d の差が小なれば小なる程この假定は許さるべき性質のものニなる。故にそうゆう場合に對してはこの著書は有用である。特に茲に特筆すべき事は柱の二次率一樣ならざる場合に對する解法を示した事で從來、二次率一樣なる場合に關しては多くの解法があつたがこの場合に關しては寡聞の私の知る限りに於ては無かつた樣である。この點を非常に珍らしく感じるのである。事實われらが日常屢々ぶつかる場合はクレーン、ガーダーを有するこの種の工場であり、又實際精密な計算を要するものは小屋組が數及形に於て共に大なる時で從つて h と d の差が小さい場合である。

もニより Beck 或は Ketehum の假定に本づいて、Rousselet 等が試みたる如き數多の荷重狀態に於て水平反力を見出すならばその方が望ましい事勿論であるが一々 y_0 の値を求めねばならず且つ柱の二次率一樣ならざるが如き場合ニなつては其の複雜なることニ到底計算の煩にたへぬ所である。現在に於ては Ketchum の著書も Beck の著書もこれらの場合について少しも觸れてゐないからわれらは、その算出を他日に讓り、この著書に學ぶことニする。

更に實用的見地から云へば、Rousselet 氏等に依る結果ですら相當複雜なのであるからこれ以上に複雜な結果は却つて實際に用ひられぬことニなるであらう。

この著書は第一部と第二部に分たれ第一部に於て二次率一樣なる場合を第二部に於て一樣ならざる場合を述べてゐる。然し乍ら全部に亙つて誤植が多く或る種の場合にあつては實に著しい誤もある。私は全部を再び計算して誤を改め又第二部より $k=1$（上下兩柱二次率の比）ニすれば第一部の結果も得られるから第二部のみを紹介する事ニした次第である。

第五節　本稿の目的及特色

本稿の目的は前述の理由により Rousselet 及 Aimé Petitet に依る柱の二次率一樣ならざる場合の解法を紹介することニ存する。唯こゝに殘念な事は、柱の兩端固定なる場合に關しては最も容易である、小屋組上に集中橫力が作用した場合についてのみ算出され、以下の場合に關しては、其れが最もわれらが必要とする所であるに拘はらず計算の複雜を理由ニして、全部省略されてある事である。從てつ本稿の特色はこれらの重要なる場合を全部新たに解いて附け加へた點にある。第三節の終りの二項も同樣に私の算出したものであるがこの場合は比較的簡單である

本論の內容を應用する場合ある制限を必要ニする。それは精密を要求する程度によつて自ら異る所であるが私は假に $d\leqq\frac{3}{2}h$ ニする。茲に d 及 h は本章第二節に於ける第三圖に準じる。

本論に關する假定は次の四つである°

(1) 剛比 $\beta=\infty$ とする。

(2) (Knee brace 足點までの柱高さ)$\geqq\frac{2}{3}$(柱の高さ)。

(3) 兩柱の二次率及高さ相等しい事。

(4) Knee brace 足點に於ける柱の $\frac{dy}{dx}=0$ とする。

參考書名

(1) Louis Rousselet et Aimé Petitet:
"Stabilité des coustruction usuelles"

(2) Ernst G. Beck: "Structural steel work"

(3) MiloS. Ketchum: "The design of steel mill buildings"

(4) Milo S. Ketchum: "Structural engineering"

(5) Gerge A. Hool and W.S. Kinne: "Stress in framed structures"

(6) George A. Hool and W.S. Kinne: "Steel and timber structures"

(7) Kleinlogel: "Rahmenformeln"

尙、挿入圖は凡て生田重政氏の御好意に依るもので同氏に深く感謝する次第である。

（昭和二年十二月）

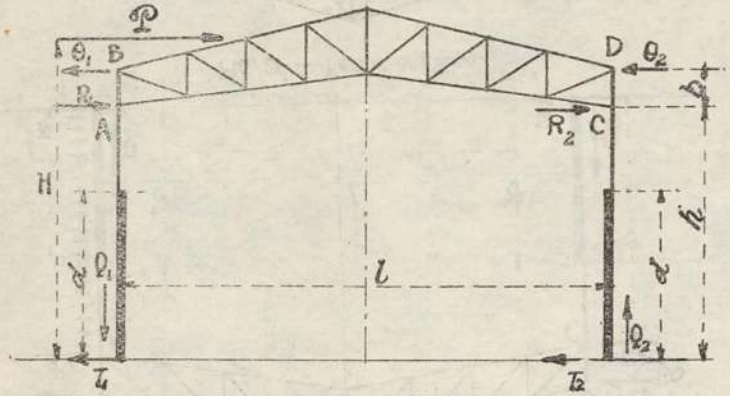


Fig. 19.— Ferme américaine.

第二章　本　論

第一節　柱の下端滑節上端固定なる時

(a)　小屋組上に集中横力が作用する場合

この場合は柱の二次率一様ならざる場合も一様なる場合も全く同一であり、頗る簡單である。よつて $k=1$ なる場合について算出する。第一圖、第十九圖參照

柱下端水平反力は兩柱とも相等しく

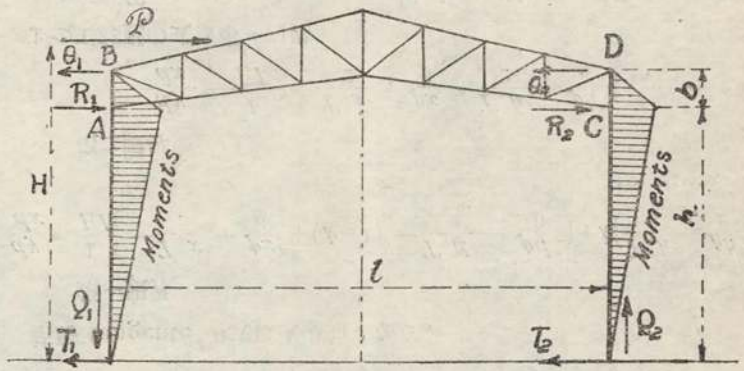


Fig. 1. — Ferme américaine.

$$T_1 = T_2 = \frac{P}{2} \quad \cdots\cdots (1)$$

直壓は　$Q_1 = -Q_2 = \frac{PH}{l}$ ……(2)

次に平衡條件より　$\theta_1 = \theta_2 = \frac{T_1 h}{b}$ ……(3)

又　$R_1 = R_2 = T_1 + \theta_1$ ……(4)

(b)　柱上に等布横力が作用する場合

柱の上の部分の二次率を I, 下の部分の二次率を I とし、$I = \frac{1}{k}$ とする。先づ第一圖(左圖)の上端移動量を求め次に第二圖(右圖)のそれを求め、始めの假定に從ひこの二つの移動量を等しいと置いて反力 T_1 及 T_2 を見出すのである。第二圖、第二十圖參照

第一柱に於て：

d の部分を第一限界、それより上の部分を第二限界とすれば、曲力率

方程式は第一限界に於て

$$\frac{d^2y}{dx^2}=\frac{1}{EI}\left(-T_1x+\frac{px^2}{2}\right) \quad \cdots\cdots(5)$$

第二限界に於ては

$$\frac{d^2y}{dx^2}=\frac{k}{EI}\left(-T_1x+\frac{px^2}{2}\right) \quad \cdots\cdots(6)$$

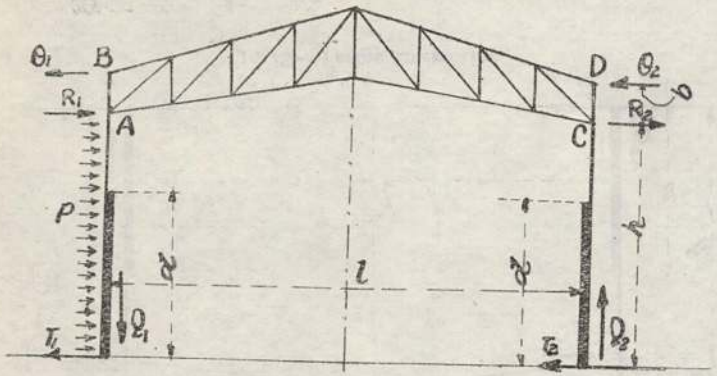


Fig. 2a — Ferme anglaise.

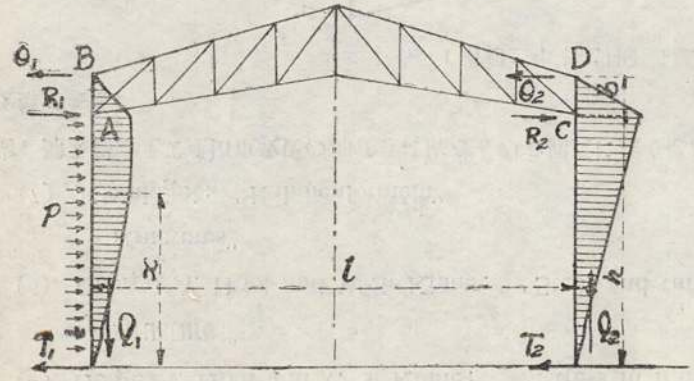


Fig. 2 — Ferme anglaise.

tangente の式は夫々

$$\frac{dy}{dx}=\frac{1}{EI}\left(-\frac{T_1x^2}{2}+\frac{px^3}{6}+C_1\right)$$

$$\frac{dy}{dx}=\frac{k}{EI}\left(-\frac{T_1x^2}{2}+\frac{px^3}{6}+C_2\right)$$

$x=h$ に對し $\frac{dy}{dx}=0$

故に $$O=-\frac{T_1h^2}{2}+\frac{ph^3}{6}+C_2$$

$$C_2=\frac{h^2}{6}(3T_1-ph)$$

兩限界の式は原點より距離 d なる接合點に於ては等しからねばならぬ。

即ち

$$\frac{1}{EI}\left(-\frac{T_1d^2}{2}+\frac{pd^3}{6}+C_1\right)=\frac{k}{EI}\left(-\frac{T_1d^2}{2}+\frac{pd^3}{6}+\frac{T_1h^2}{2}-\frac{ph^3}{6}\right)$$

故に $$C_1=(1-k)\left(\frac{T_1d^2}{2}-\frac{pd^3}{6}\right)+k\left(\frac{T_1h^2}{2}-\frac{ph^3}{6}\right)$$

結局 tangente の式は次の如くなる。

第一限界

$$\frac{dy}{dx}=\frac{1}{EI}\left[-\frac{T_1x^2}{2}+\frac{px^3}{6}+(k-1)\left(-\frac{T_1d^2}{2}+\frac{pd^3}{6}\right)+k\left(\frac{T_1h^2}{2}-\frac{ph^3}{6}\right)\right] \quad \cdots\cdots(7)$$

第二限界

$$\frac{dy}{dx}=\frac{k}{EI}\left(-\frac{T_1x^2}{2}+\frac{px^3}{6}+\frac{T_1h^2}{2}-\frac{ph^3}{6}\right) \quad \cdots\cdots(8)$$

よつて移動の式は第一限界

$$y=\frac{1}{EI}\left[-\frac{T_1x^3}{6}+\frac{px^4}{24}+(k-1)x\left(-\frac{T_1d^2}{2}+\frac{pd^3}{6}\right)+kx\left(\frac{T_1h^2}{2}-\frac{ph^3}{6}\right)\right] \quad \cdots\cdots(9)$$

第二限界

$$y=\frac{k}{EI}\left[-\frac{T_1x^3}{6}+\frac{px^4}{24}+x\left(\frac{T_1h^2}{2}-\frac{ph^3}{6}\right)+C'_2\right]$$

茲に第一限界に於ては、$x=0$ に對し $y=0$ であり從つて常數が 0 となる。第二限界に於ける常數 C_2' を見出す爲に、兩限界の接合點に於いて y が相等しき事を利用する。

即ち

$$\frac{1}{EI}\left[-\frac{T_1d^3}{6}+\frac{pd^4}{24}+(k-1)d\left(-\frac{T_1d^2}{2}+\frac{pd^3}{6}\right)+kd\left(\frac{T_1h^2}{2}-\frac{ph^3}{6}\right)\right]$$

$$=\frac{k}{EI}\left[-\frac{T_1d^3}{6}+\frac{pd^4}{24}+d\left(\frac{T_1h^2}{2}-\frac{ph^3}{6}\right)+C_2'\right]$$

故に $$C_2'=\left(\frac{k-1}{k}\right)\left(-\frac{T_1d^3}{3}+\frac{pd^4}{8}\right)$$

そこで第一限界の移動の式は

$$\frac{EI}{k}y=-\frac{T_1x^3}{6}+\frac{px^4}{24}+x\left(\frac{T_1h^2}{2}-\frac{ph^3}{6}\right)+\left(\frac{k-1}{k}\right)\left(-\frac{T_1d^3}{3}+\frac{pd^4}{8}\right)\quad(10)$$

$x=h$ に對しては

$$\frac{EI}{k}f_1=-\frac{T_1h^3}{6}+\frac{ph^4}{24}+\frac{T_1h^3}{2}-\frac{ph^4}{6}+\left(\frac{k-1}{k}\right)\left(-\frac{T_1d^3}{3}+\frac{pd^4}{8}\right)$$

$$=+\frac{T_1h^3}{3}-\frac{ph^4}{8}+\left(\frac{k-1}{k}\right)\left(-\frac{T_1d^3}{3}+\frac{pd^4}{8}\right)\quad\cdots\cdots(11)$$

第二限に於て：

曲力率方程式は

第一限界

$$\frac{d^2y}{dx^2}=-\frac{1}{EI}T_2x;\quad\cdots\cdots(12)$$

第二限界

$$\frac{d^2y}{dx^2}=\frac{k}{EI}(-T_2x);\quad\cdots(13)$$

tangente の式は

$$\frac{dy}{dx}=\frac{1}{EI}\left(-\frac{T_2x^2}{2}+C_1\right)\qquad\frac{dy}{dx}=\frac{k}{EI}\left(-\frac{T_2x^2}{2}+C_2\right)$$

$x=h$ に對し $\frac{dy}{dx}=0$ である。故に

$$0=-\frac{T_2h^2}{2}+C_2;\qquad C_2=\frac{T_2h^2}{2}$$

$x=d$ に對し兩限界の tangente は一致する。

$$-\frac{T_2d^2}{2}+C_1=k\left(-\frac{T_2d^2}{2}+\frac{T_2h^2}{2}\right);$$

$$C_1=(k-1)\left(-\frac{T_2d^2}{2}\right)+k\frac{T_2h^2}{2}$$

依つて tangente の式は結局次の如くなる。

第一限界

$$\frac{dy}{dx}=\frac{1}{EI}\left[-\frac{T_2x^2}{2}+(k-1)\left(-\frac{T_2d^2}{2}\right)+\frac{kT_2h^2}{2}\right]\quad(14)$$

第二限界

$$\frac{dy}{dx}=\frac{k}{EI}\left(-\frac{T_2x^2}{2}+\frac{T_2h^2}{2}\right)\quad\cdots\cdots(15)$$

移動の式は夫々

$$y=\frac{1}{EI}\left[-\frac{T_2x^3}{6}+(k-1)x\left(-\frac{T_2d^2}{2}\right)+\frac{kT_2h^2}{2}x+C_1'\right]\quad\text{及}$$

$$y=\frac{k}{EI}\left(-\frac{T_2x^3}{6}+\frac{T_2h^2}{2}x+C_2'\right)$$

$x=0$ に對し $y=0$ にして從つて $C_1'=0$

$x=d$ に對し兩限界の移動は相等しい。

$$-\frac{T_2d^3}{6}+(k-1)\left(-\frac{T_2d^3}{2}\right)+\frac{kT_2h^2d}{2}=k\left(-\frac{T_2d^3}{6}+\frac{T_2h^2d}{2}+C_2'\right)$$

故に $$C_2'=\frac{k-1}{k}\left(-\frac{T_2d^3}{3}\right)$$

依つて移動の式は結局次の如くなる。

第一限界

$$EIy=-\frac{T_2x^3}{6}+(k-1)x\left(-\frac{T_2d^2}{2}\right)+\frac{kT_2h^2x}{2} \quad \cdots\cdots(16)$$

第二限界

$$\frac{EIy}{k}=-\frac{T_2x^3}{6}+\frac{T_2h^2}{2}x+\frac{k-1}{k}\left(-\frac{T_2d^3}{3}\right) \quad \cdots\cdots(17)$$

$x=h$ に對し

$$\frac{EI}{k}f_2=-\frac{T_2h^3}{6}+\frac{T_2h^3}{2}+\frac{k-1}{k}\left(-\frac{T_2d^3}{3}\right)$$

$$=\frac{T_2h^3}{3}-\left(\frac{k-1}{k}\right)\frac{T_2d^3}{3} \quad \cdots\cdots(18)$$

(11) と (18) とは等しからねばならぬ。即ち

$$+\frac{T_1h^3}{3}-\frac{ph^4}{8}+\left(\frac{k-1}{k}\right)\left(-\frac{T_1d^3}{3}+\frac{pd^4}{8}\right)=+\frac{T_2h^3}{3}-\frac{k-1}{k}\times\frac{T_2d^3}{3}$$

然るに $T_1+T_2=ph$

$$T_2=ph-T_1$$

よつて $$T_1\frac{h^3}{3}-\frac{ph^4}{8}+\left(\frac{k-1}{k}\right)\left(-T_1\frac{d^3}{3}+p\frac{d^4}{8}\right)-(ph-T_1)\frac{h^3}{3}+\left(\frac{k-1}{k}\right)(ph-T_1)\frac{d^3}{3}=0$$

故に $$T_1=\frac{p}{16}\left[\frac{11kh^4-(k-1)(3d^4+8hd^3)}{kh^3-(k-1)d^3}\right] \quad \cdots\cdots(19)$$

$k=1$ とすれば

$$T_1=\frac{p}{16}\times\frac{11h^4}{h^3}=\frac{11}{16}ph \quad \cdots\cdots(20)$$

次に $$T_2=ph-T_1 \quad \cdots\cdots(21)$$

$$\theta_1=\frac{T_1h}{b}-\frac{ph^2}{2b}; \qquad \theta_2=\frac{T_2h}{b} \quad \cdots\cdots(22)$$

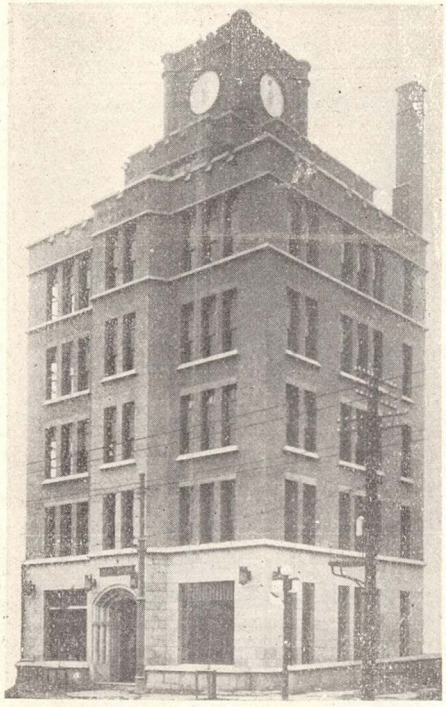
$$R_1=T_1+\theta_1-ph; \qquad R_2=T_2+\theta_2 \quad \cdots\cdots(23)$$

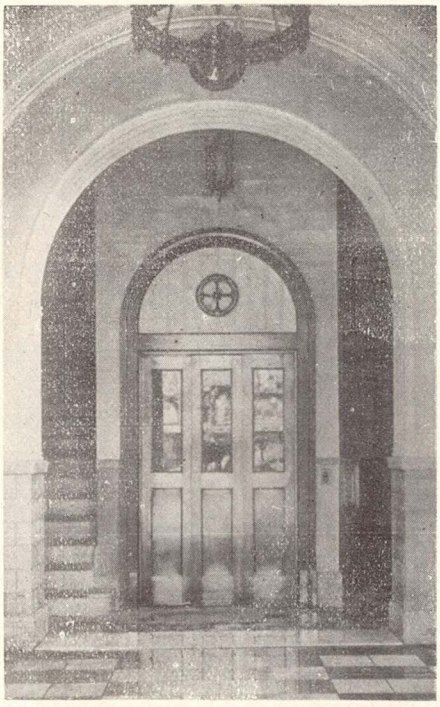
$$Q_1=-Q_2=\frac{ph^2}{2l} \quad \cdots\cdots(24)$$

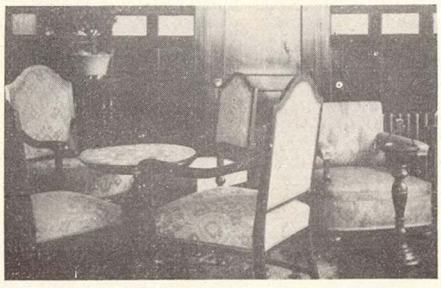
(以下次號)

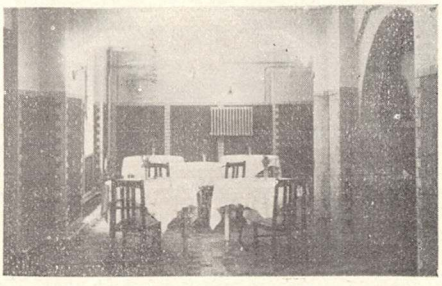
欄 質疑應答 新設

讀者諸君の建築に關する眞摯な御質問を喜んで受け、一般讀者の御參考になると思はれるものを撰んで誌上で回答致します。但し取捨は編輯者の自由に委せて頂きます。



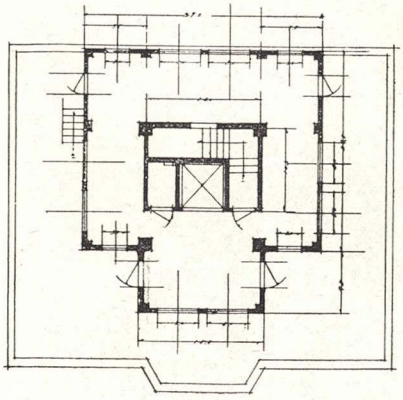




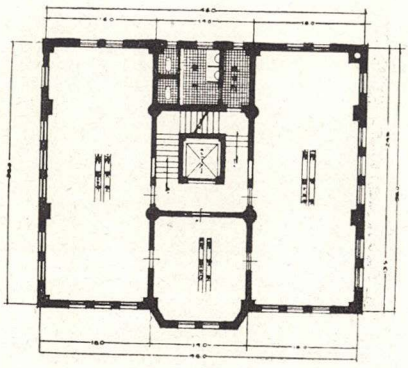


左上 ・ 富士生命ビルヂングの全景
左下 ・ 富士生命ビルヂング京都支店應接室
所在 ・ 京都市河原町通四條下ル
施主 ・ 富士生命保險株式會社
工事請負 ・ 上田工務店
建坪 ・ 50坪3合
延坪 ・ 325坪8合
階數 ・ 7階
工費 ・ 21萬圓

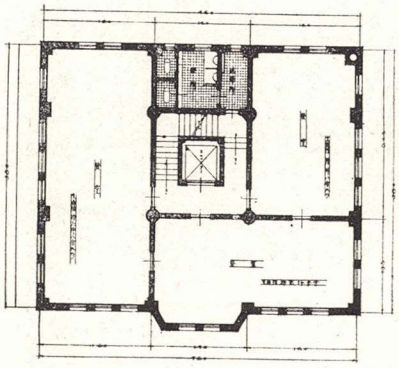
右上 ・ 富士生命ビルヂングのホール
右下 ・ 富士生命ビルヂングの地下室食堂



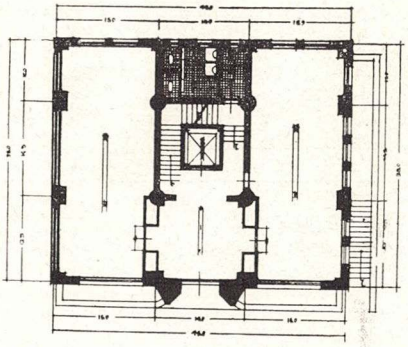
第六階平面圖



第貳・五階平面圖



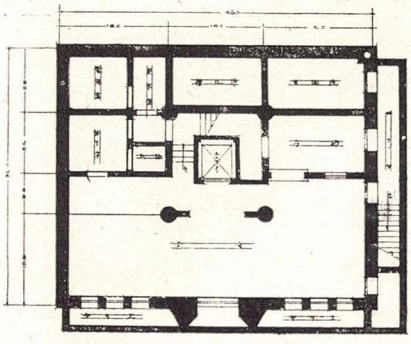
第參・四階平面圖



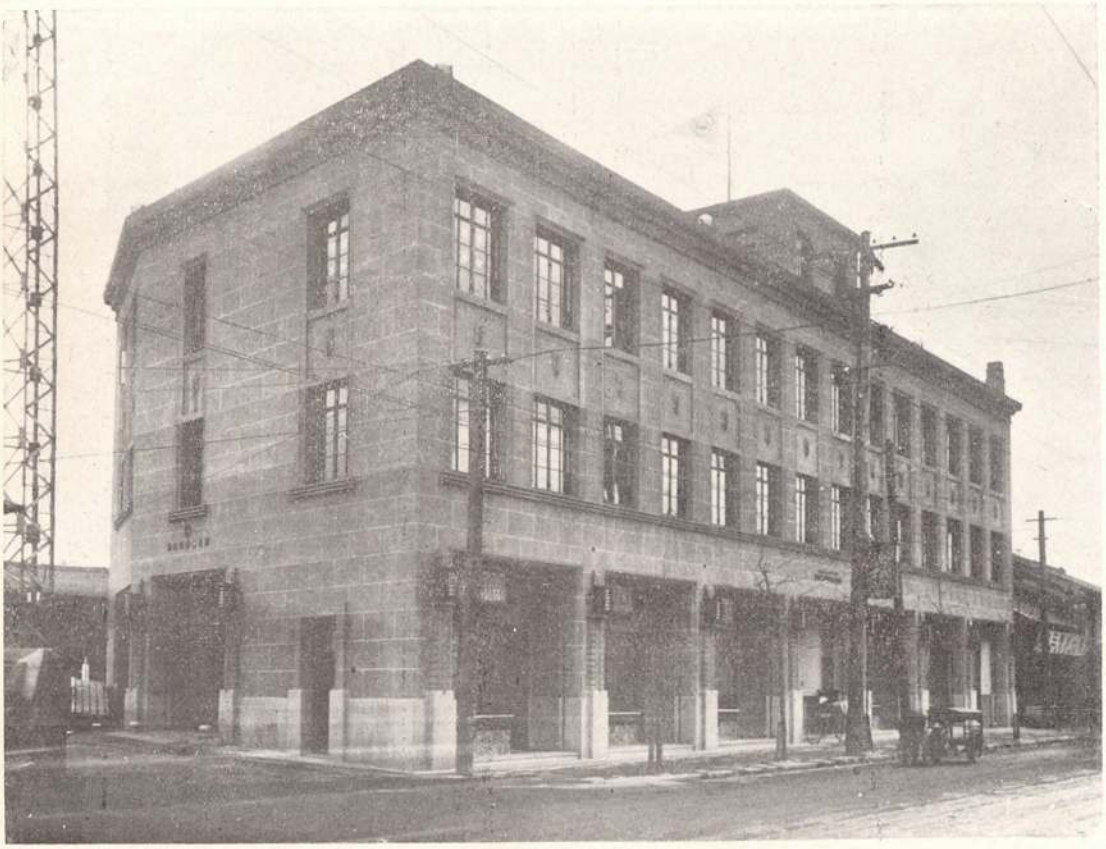
第壹階平面圖

平面圖

富士生命ビルヂング京都支店



地下室平面圖

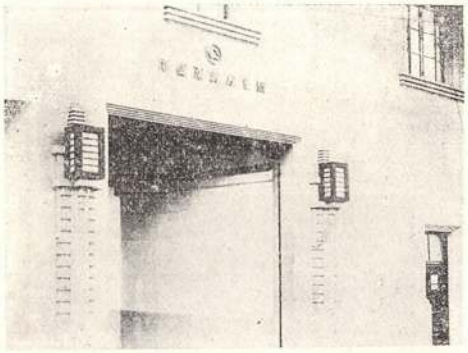


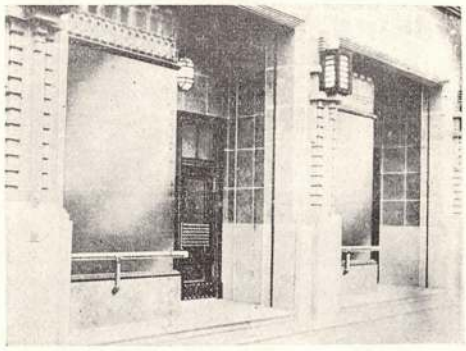
大阪・ユタカビルデイング・外観

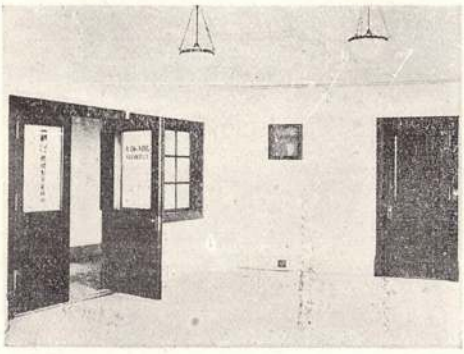
施主・株式會社豊島商店

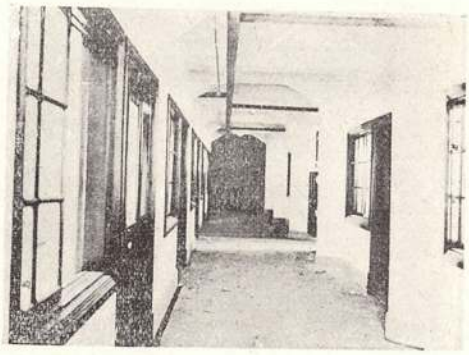
設計監督・岡部建築事務所

工事請負・株式會社松村組







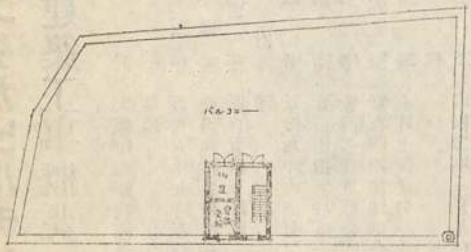


右上ユタカビルデイソグ第一階の一部

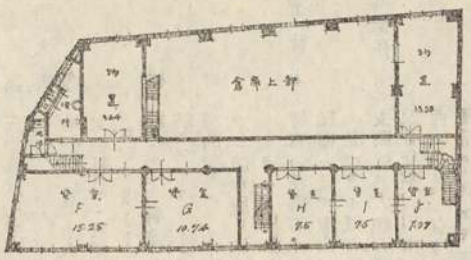
右下ユタカビルデイング第三階廊下

左上ユタカビルデイング第一階倉庫

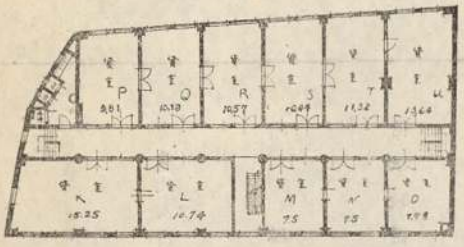
左下ユタカビルデイング貸室内部



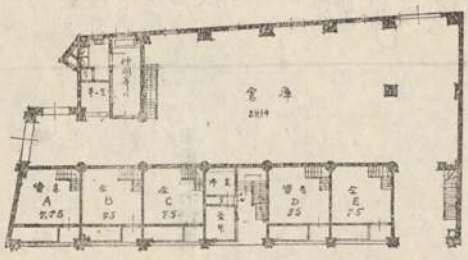
屋 階 平 面



第 二 階 平 面



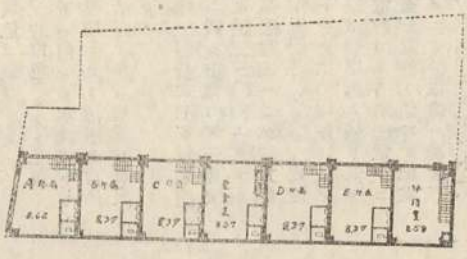
第 三 階 平 面



第 一 階 平 面

ユタカビルデング

——平面圖——



地 階 平 面

ユタカビルヂング
建築工事概要

位置　大阪市西區靱南通二丁目三一番地

敷地面積　壹百六拾九坪壹合七勺
建築面積　壹百四拾參坪貳合四勺
延面積　四百五拾五坪壹合

内譯

地階　五拾九坪六合七勺
第一階　壹百四拾參坪貳合四勺
第二階　壹百〇壹坪貳合四勺
第三階　壹百四拾參坪貳合四勺
塔屋　七坪七合壹勺

工程

起工　昭和二年一月九日
竣工　昭和二年十二月十八日
建築様式　近世式
軒高　三十九尺七寸
構造大要
基礎　地盤面以下十六尺堀下ゲ松丸太杭打込ミ割栗石搗ノ上鐵筋「コンクリート」地形チ爲ス。
骨格　柱、梁、床、胴差、壁體等總テ鐵筋「コンクリート」造トナス。
屋根　鐵筋「コンクリート」造床版ノ上ニ防水層ヲ施工シ「クリンカータイル」敷仕上トス。
外部仕上　腰石ハ花崗石水磨張リトシ主壁面ハ總テ龍山石粉末ニ黒砂ヲ混ジタル擬石洗出仕上トス
玄關腰ハ大理石張、一階商店及各貸室、巾木ハ擬石研出壁面ハ白色「プラスター」塗トシ腰部ハ「ペンキ」塗仕上トス。
内部壁仕上　一階出入口土間ハ「モザイクタイル」ニ、倉庫床ハ木煉瓦敷及「モルタル」塗、二階三階各室及廊下ハ「リグノイド」仕上トス。
天井　倉庫ハ「モルタル」塗其他ハ總テ白色「プラスター」塗仕上トス。
窓及出入口　外壁ノ窓ハ總テ鋼鐵製トシ各出入口扉及倉庫周圍ノ窓ニハ鋼鐵製巻上「シヤッター」ヲ使用シ屋内出入口扉ハ木製トス
階段　巾木、蹴込、擬石研出、踏面ハ「リグノイド」塗、角金物ハ眞鍮製トシ扶欄ハ「チーク」製及眞鍮製トス。
給水設備　塔屋ニ設備セル鋼鐵製水槽ヨリ屋内便所、洗面所、湯沸場消火栓、撒水栓、其他ヘ給水ス一階二ケ所、二階、三階、屋階ニ各一ケ所消火栓ヲ設備シ萬一ノ災危ニ備フ。
消火設備
便所　各便所ハ何レモ水洗式トシ汚水處理槽ニヨリ汚水ヲ自然淨化シ清淨ナル液體トシテ裏川ニ放流ス。
電燈電力設備　配線ハ總テ隱蔽式トシ電氣室ハ地階ニ設ケ市電ヨリ三相交流最大電壓三三〇〇「ヴオルト」ノ高壓電流ヲ受ケ動力用トシテ十五「キロワット」電燈電熱用トシテ二〇「キロワット」ノ點滅變壓器ニ依リ低壓シテ配電盤ヨリ各階配電盤ニ更ニ各室分電盤ヲ通ジテ配電スルモノニシテ電燈ハ總數百七十五、差込「コンセント」ハ地階電熱用トシテ五個所ニ各室電氣扇用トシテ五十個所ニ倉庫電燈用トシテ二ケ所ニ設ケタリ。
煖房裝置　動力ハ滊鑵室ニ「オイルバーナー」用ニ半馬力ヲ倉庫荷上用ニ五馬力、ヲ淨化槽揚水用ニ半馬力ヲ使用セリ。
低壓蒸氣滊鑵ヲ地階ニ設備シ滊鑵ハ米國「ラヂエター會社製ノモノニシテ米國「エステイション」會社製「オイルバーナー」ニ依リ重油ヲ自動的ニ給油シテ燃燒セシムル裝置トス」
放熱器ハ獨逸「ナショナルラヂエター」會社製「クラシック」型ニ依リ送氣ス。
電話設備　電話室ハ屋階ニ設ケ交換機ハ共電式二座席ノモノ一台トシ各貸室其他ニ五十個所ノ電話機ヲ架設スル設備ヲナシ必要ニ應シ連結スルモノトス。
其他設備　「メールシュウト」、塵埃捨場、湯沸場其他ノ設備ハ總テ理想的トス。

工事關係者

設計監督　岡部建築事務所　岡部顯則
現場監督　岡部巖
現場主任　堀川竹雄
現場員　青木清松
　　綛谷音次郎
　　松崎一三
　　中岩茂吉

工事請負者　株式會社　松村組

新刊紹介

‖總記‖

◇近代英國田園住宅抄（藏田周忠著）　ウィリアムモリスの赤い家から始めて美しい傳統をもつた英國の田園住宅をグラフ式に述べてある。（四六版、二圓六十錢、建築畫報社）

◇早稻田建築學報　第五號（早苗會）　早大建築科の教授、卒業生、學生諸氏の論說、設計圖の寫眞等を收錄せり（年刊三圓、同會）

◇實用を主としたる鐵筋コンクリート計算法（瓜生康一著）（四六判、二圓七十錢、丸善株式會社）

◇梁の計算及圖表（織本道三郎著）（菊版、圖表七七、六圓、丸善株式會社）

◇能率增進　工場設備の計畫（桝田喜一郎著）（菊版十二圓、丸善株式會社）

‖史類‖

奈良縣に於ける指定史蹟（內務省編纂、上田三平著）　本書は奈良縣の史蹟圖六二葉と之に配するに正確なる實測による圖面十六葉を以てし、加ふるに一々實地踏査の結果に成れる記錄を公開せるものにして斯くの如き責任あり品位ある著作の刊行は蓋し空前のことであらう。（限定二版二〇〇部、四六倍判、定價五圓五拾錢、東京駿河臺、刀江書院）

ローマの文化と建築（森口多里著、四六判　三圓五十錢、洪洋社）

特建國寶目錄（黑板勝美編）　明治卅年末から昭和二年四月に至る間に指定された特別保護建造物と國寶との目錄（府縣別）で嘗て刊行されたのを增補訂正したもの。卷末に社寺名の索引を附したのは便利である（三圓五十錢、東京神田南神保町岩波書店）

◇近代美術史潮論（板垣鷹穗著）　フランス大革命以後現代に至る間の歐洲近代の美術史潮を總括的に研究したもので民族的色彩を主としたところに特色がある。挿入された代表美術の寫眞百五十の多きに及んでゐる（四圓八十錢、東京神田今川小路大鐙閣）

‖圖集‖

◇模範建築集（建築畫報社編輯部編）　東京に於ける日本住宅三種を聚錄す。（菊版、三十葉、一圓五十錢、建築畫報社）

◇泰西彫刻模樣資料（木材工藝學會）（橫七寸二分縱五寸、一百葉、四圓、東京麻布市兵衛町同社）

◇原色版　室內裝飾圖集（木材工藝學會）（全廿四葉六圓、同社）

◇簡易家具設計圖（木材工藝學會）　改訂版（四十葉一圓、同社）

◇第一相互館　建築圖集（建築畫報社編輯部編）（菊版玻璃版三十四葉、一圓七十錢、同社）

◇現代住宅集（建築畫報社編輯部編）（菊版玻璃版三十葉、一圓五十錢、同社）

◇寸法入床棚圖集（金子清吉著）（四六倍版、二圓建築書房）

◇商店實用圖集成集（室田久良三著）　商店に必要な背景圖案、看板、廣告塔、廣告印刷等の創作圖案集（四六版、三圓八十錢、商店界社）

◇西洋建築天井圖集（佐藤彰美著）（四六倍判圖葉八十九、二圓八十錢。東京日本橋大倉書店）

‖美術‖

◇陶磁工藝の研究（鹽田力藏著）　▲陶磁工藝に對する一般知識▼內容・窯技鑑賞の精神、陶工上の技法の系統、窯變の妙味、不朽寶繪畫と推描的窯技、日本陶磁器と自然地理、窯系の分化と陶工藝、アラビヤ系の窯工術、上代瓷器の兩面觀、中興時代の瀨戶窯他數項（口繪・百二圖、四六判定價三圓八十錢、アルス）

彫塑の手ほどき（長谷川榮作著）　塑像、鑄像、石膏、木彫等を學ばんとする者のために小刀の研ぎ方持ち方から仕上まで寫眞入で手にとる如く解說したるもの（二圓、東京日本橋本石町博文館）

◇長崎の美術史（永見德太郎著）　嘗て長崎に榮えた、異國情緒豐かなる藝術——繪畫、美術、工藝より雜器に至るまで——を詳述し、着彩、コロタイプ、寫眞版をもつて實物を髣髴せしめたるもの（菊版、十圓丸善株式會社）

‖雜‖

◇日本人に適する衣食住（中山忠直著）　漢法醫學研究家である著者が日本人の健康は間違ひだらけの西洋流の飜譯衛生學によつて蹂躙されて病人ばかりである。之を救ふには日本的衛生學を確立せねばならぬ。こいふ持論により漢法醫學上より見た、日本人の生活の指導原理を示したもの。（四五判、金二圓五十錢、發行所寶文館）

◇日光法療（醫學博士、正木不如丘著）　日光による自然療法、著者が主宰せる富士見高原療養所の實績を擧げ、平明懇切にその實際を詳述せるもの、住宅問題の解決に暗示を受けることが多からう（四六判、二圓五十錢、東京神田表保町、至玄社）

× ×

編輯後記

□

二月號に新編輯委員の御手並拜見として期待される向きもあるので、出來るだけ雜誌に生彩あらしむべく努めた積であるが、御覽の通の出來榮である。御不滿の點もあらうけれど今後は會員諸氏との聯絡面を多くし、逐號改良の實を擧げる考であるから御寬恕を乞ふ。

□

われわれが編輯を擔當する事となつて以來二月號を編輯するまでの日誌を書けば次の通りである。

昭和二年十二月二十七日　午後五時より役員決定後、波江氏、八木氏、本間氏、木村氏會合の上最初の打合せを行つた。

昭和三年一月十一日　この日は編輯會で午後五時編輯部全員會合、本年度編輯方針の大綱及二十數項の細項の打合せを了したものである。雜誌の使用活字をポイントに改めることは多年讀者からの御希望でありましたが愈々本號より其實現を見るに到りましたことは聊か讀者の渴を醫ること、なるでせう、同時に卷頭の體裁を多少工風いたしまして幾分でも讀者の興味を添えたいと思つて居ます、口繪初の頁に興味あるスケツチを挿入いたします、此種雜誌のやゝともすれば陷り易きコンクリーム氣分からせいぜい遠ざかりたいと思ひます、本號に於いて御覽の如き組方を採用することにいたしましたのも畢竟愛讀者をして讀書の倦怠から逃れて頂き度いとの思付に外ならないのです、之で進むべき新方針を決定したので、各員此方針で精進する事になつた譯である内容に就ては大體三月號を以て代表的のものとされたい。

同一月十三日　役員會後に常務會開催、新方針に付尙打合す。

同一月十四日　正午より集合して外國注文雜誌選定、二月號の原稿について意見を交はした。

同一月十六日　此日も編輯會で岡部主計列席の上印刷入札開札、編輯豫算、原稿料、雜誌定價及二月號原稿について評議した。

同一月十九日　午後五時より編輯會を開き評議し來つた印刷所、編輯豫算、二月號原稿、編輯豫定の決定を見、尙、本年度の新計畫決定の上、編輯事務を分擔し三月號の準備に入ることゝなつた。

事務所編輯係薦田君の眞摯なる執務振りを多とする。諸務多端の際益々同君の努力を祈る次第である。

□

御承知の如く正しい意味での初號は本號である。本年はつちのへたつ年で「土の上建つ」の年、且つは今秋御大典の擧行せらるゝあり、財界の安定と相俟つて愈々活況なるべきである其の年の新方針初號であるから、是れに先駆募集の懸賞論文の粹を先づ發表する事は、まことに當を得たものと云ひ得るであらう。そのほか石井君のトランスバースベントの解法も佛書に依る稀に見るもので、後進の爲に參考になるものと思はれる。

□

昨年末より各方面の會員諸君よりの寄稿が大分多くなつた。願はくば尙益々諸氏の蘊蓄を傾けられたる玉稿の、誌上を飾らん事を祈つて止まぬ。

□

極寒の候、會員諸氏の御自愛と御健闘を祈つて筆をおく。



大阪窯業セメント株式會社本店

大阪市北區堂島濱通二丁目十四番地

電北（長一一一二〇 一一一一三）

出張所

東京市神田區表猿樂町

電神田（二一一四五四〇〇三一六）

京都市二條驛前

電西陣三四六五

名古屋市中區老松町

電東四六九

大阪窯業セメント株式會社工場

大阪市港區南恩加島町一番地

電櫻川（二一一七七 二八四三 二六〇九）

陸屋根地下室用防水布

本品は純麻織物を主要材料とし無酸乾燥性天然アスファルトを應用し強度仲度滲透壓に於て同種品中最高の記録を有する合理的にして最も進歩せる

專賣特許

富士印クロースルーフ井ング



クロースルーフ井ング製造所

大阪市東區平野町四丁目五八

電話本局五四〇七番

御沙汰次第

店方參上

型錄送呈

工場大阪住吉



故名譽賛助員　井原百介氏照宵

名譽賛助員正四位勲三等井原百介氏昭和二年十二月十五日疾を以て逝く、寔に哀悼に禁へず茲に略歴と照宵を掲げ謹んで弔意を表す、氏は萬延元年二月五日山口縣阿武郡萩町に生る、明治七年大阪英語學校を經て東京駒場農學校に入り同十六年農學士となり爾來山口宮城、大阪の各農學校長に歴任、實業教育に盡し其間代議士に當選すること二回、憲政會大阪支部の長老として尊敬さる、日本建築協會創立以來名譽賛助員に推薦せられ今日に至る、十二月十五日病により逝去享年六十八歳

社團法人日本建築協會會報

役員會

○臨時常務會

△日　時　十二月十七日午後五時——六時
△會　場　大同生命ビル、ライオン食堂
△出席者
　理事　宗　兵藏氏　松室　重光氏
　常務　坪井　誠一氏　主記　横濱　勉氏
　阪口　主記　德政　主計　池田谷久吉氏
　谷　主計　池田谷氏　編輯　波江　悌夫氏
　波江　編輯　野呂　編輯　八木幸次郎氏
　八木　編輯　久保田筆雄氏　熊澤榮太郎氏
△議　事
本夕は通常總會開會に付之れに關する諸般の協議打合せをなし散會

○評議員會

△日　時　十二月二十七日午後五時——九時
△會　場　大同生命ビル、ライオン食堂
△出席者
　池田谷久吉　本間　乙彦　小笠原　鋤
　大野　直平　大澤　幸平　岡部　顯則
　和田貞治郎　片岡　安　吉井　長七
　谷　民藏　高田利一郎　竹内　綠
　宗　兵藏　坪井　誠一　波江　悌夫
　中島　智喜　浦　英之助　野呂長四郎
　能村　知二　久保田筆雄　熊澤榮太郎
　八木幸次郎　松室　重光　前内文二郎
　小西　一眞　酒井勇三郎　境　正一
　阪井　米吉　木村　寬一　光安梶之助
　樋口辰太郎　須川廉太郎
△議　事
一、定刻開會片岡安氏議長となり本夕は左の諸件を決定致したき旨を宣す
第一　定款第十七條に據る理事及監事選擧の件
第二　定款第十七條に據る常務互選の件
第三　定款第二十條に據る會長、副會長選擧の件
一、是に於て第一案件より第三案件に至る順次選擧左の通決定せり
1、理事及監事
　理事　片岡　安氏
　理事　宗　兵藏氏
　理事　野村　一郎氏
　監事　池田　實氏
　同　松本　禹象氏
2、常　務
　常務　本間　乙彦氏
　同　岡部　顯則氏
　同　和田貞治郎氏
　同　横濱　勉氏
　同　吉井　長七氏
　同　坪井　誠一氏
　同　波江　悌夫氏
　同　浦　英之助氏
　同　八木幸次郎氏
　同　木村　寬一氏
3、會長及副會長
　會長　片岡　安氏
　副會長　宗　兵藏氏
　同　野村　一郎氏
一、右にて拍手裡に閉會を告け散會時に午後九時常務は引續き別席に於て常務打合會を開き分掌事務左の通決定せり
　主記　横濱　勉氏
　同　坪井　誠一氏
　同　和田貞治郎氏
　主計　吉井　長七氏
　同　浦　英之助氏
　同　岡部　顯則氏
　編輯　波江　悌夫氏
　同　八木幸次郎氏
　同　本間　乙彦氏
　同　木村　寬一氏

○新舊役員會

△日　時　一月十三日午後五時——八時三十分
△會　場　大同生命ビル、ライオン食堂
△出席者
　會　長　片岡　安
　副會長　宗　兵藏
　監　事　松本　禹象
　常　務　横濱　勉　坪井　誠一　和田貞治郎
　吉井　長七　浦　英之助　岡部　顯則
　波江　悌夫　八木幸次郎　本間　乙彦
　木村　寬一
　評議員
　池田谷久吉　大原　芳知　小笠原　鋤
　大澤　幸平　大野　直平　谷　民藏
　高田利一郎　竹内　綠　中島　智喜
　村上　徹一　野呂長四郎　能村　知二
　久保田筆雄　熊澤榮太郎　松室　重光
　前内文二郎　小西　一眞　酒井勇三郎
　境　正一　阪井　米吉　樋口辰太郎
　須川廉太郎
　舊評議員
　今林彦太郎　長田岩次郎　永田三次郎
　松本　儀八　藤枝　眞一　三木　來三
　平島　末吉
△記　事
一、定刻に遲るゝこと半時間片岡會長より一場の挨拶及希望を述べ次で今林彦太郎氏退任評議員を代表して退任の挨拶あり續いて久保田筆雄氏新任評議員總代として新任挨拶をなし夫れより横濱勉氏の監事としての報告、谷元主計の昨年の會計狀況に付て報告ありて新舊常務の事務引繼をなし茲に新舊役員會を閉じ片岡會長招待の晩餐會に移る
一、晩餐會にてテーブル、スピーチとして本會に對する希望の題下に横濱氏外七、八名の五分間演說ありて和氣靄々の裡に宴を閉す

○常　務　會

△日　時　一月十六日正午——二時
△會　場　本協會會議室

△出席者　理事　片岡理事　宗　理事
常務　横濱主記　坪井主記　和田主記
浦　主計　岡部主計　波江編輯
八木編輯　本間編輯　木村編輯
△報　告
一、中辰之助氏邸宅見學に付第二部委員會報告承認
二、撫順建築士木技術員會內地視察團來阪に付接待に關する件主記報告承認
△協議事項
一、一月例會に關する件
二、編輯に關する件
三、物品購入に關する件
四、會員詮衡

委員會

○第二部（敎化）委員會
同第二分科委員見學

△日　時　十二月十八日午前九時——午後六時
△出席者　幹事　池田谷久吉
委員　高橋榮治、松本儀八、
增山新平、松尾幾太郎
酒井勇三郎、佐藤佐、
外に寫眞技師
△見學場所　大阪府泉南郡熊取村大字五門　中辰之助邸宅
△目　的　住宅平面及室町時代の遺物
唐門の調査研究
△報　告　詳細調査報告は追て發表の筈

○第三部（資料）委員會

△日　時　十二月十四日午後六時——八時三十分
△會　場　大同生命ビル、ライオン食堂
△出席者
島田硝子製造所　向島　文一氏
大阪煖房商會　菅谷　元治氏
東京建鐵株式會社大阪支店　糸永　文古氏
日本スレート販賣株式會社大阪支店　河合　好吉氏
大阪材木商同業組合　鹿島　重藏氏
須賀商會　須賀藤五郎氏
委員長　松室重光
幹事　谷　民藏　下浦光衛
委員　今林彦太郎、渡邊珍久
佐藤正次郎
△記　事
一、本夕は建築材料業者を招待して建築材料陳列館を設置に付意見の交換をなし當業者の大なる賛同を得共に之れが具體化に努力することに進む
一、之れが爲委員會を作ることゝなり本夕出席の方を代表委員とし來年より度々會合をなすこと而して代表委員は漸次增加することに決す

○第四部（災害）委員會

△日　時　一月九日午後五時——八時
△會　場　大同生命ビル、ライオン食堂
△出席者　委員長　波江悌夫
幹事　池田宮彦、八木幸次郎
委員　永澤毅一、中島智喜、
增田清
△記　事
一、木造耐震構造に付研究をなす
一、來月九日迄に木造建築耐震構造に關する圖面其他參考材料を各委員より提出し同月廿五日迄に全部の目錄を附することに決定
一、昭和二年度委員會にて纏めたる震災寫眞各種地圖等の目錄を附すること
一、右の外木造耐震構造の結論を得ることは三年度の委員會の事業として繼續すること
一、二月は九日及二十五日の兩日委員會を開くこと

會合

○通常總會

△日　時　十二月十七日午後六時——六時五十分
△會　場　大同生命ビル第一集會室
△出席者　（次第不同）
伊東宗太郎　岩尾　安衛　池田谷久吉
今林彦太郎　堀本　兵一　本間　乙彦
德政　金吾　奥野　時三　小川　久市
岡本新次郎　加藤　善吉　横濱　勉
谷　民藏　谷川勝次郎　瀧　邦一
高松平太郎　宗　兵藏　坪井　誠一
波江　悌夫　村上　徹一　野呂長四郎
能村　知二　久保田筆雄　山中　茂一
八木幸次郎　前內文二郎　松室　重光
古宇田　實　足立圓次郎　酒井藤一郎
阪口芳三郎　木村　寬一　木村彌次郎
白川　雄一　島田　良馨　芝田　知重
姫野　武　前島　浩一　松本　榮吉
谷田　實　西本　繁　樋口辰太郎
和田貞治郎　計　四十三名
△記　事
一、定刻出席會員定款所定の人員に達せざるも一同に着席を乞ひ懸賞論文當選者に賞金授與式を行ひ宗副會長より其旨を告げ左の人々に賞金を授與す
第一等賞　加藤　善吉氏
第二等賞　岸田　不元氏
第三等賞　田中　進氏
一、夫れより編輯常務より懸賞應募及審査の經過報告ありて一同拍手裡に式を閉づ
一、次いで通常總會開會せんとするも出席人員四十三名にして所定の人員を缺くを以て止むなく宗副會長より定款に據り總會不成立を告げ流會を宣し散會す

○通常總會

△日　時　十二月二十二日午後六時十五分——九時三十分
△會　場　大同生命ビル、ライオン食堂

△出席者

前島　浩一　大澤　幸平　石井　勇
德政　金吾　松室　重光　野呂長四郎
八木幸次郎　坪井　誠一　篠原　清孝
波江　悌夫　片岡　安　久樹　廉一
松本　禹象　高木眞太郎　攝川　鐵藏
大會根昌平　小川　久市　舟橋　俊一
木村勝次郎　岡本新次郎　佐藤松太郎
久保田筆雄　中村　義雄　境　正一
原科　準平　浦　英之助　黒田　茂
瀧　邦一　高田利一郎　下浦　光衛
伊東宗太郎　永田三次郎　芝田　知重
谷　義三郎　吉田　龍郎　池田谷久吉
小笠原　鋤　樋口辰太郎　松下　由藏
岩尾　保衛　木村　寛一　小西　一眞
前内文二郎　（次第不同）

△議事

一、午後六時十五分開會理事片岡安氏議長となり只今出席者三十八名なるも本總會は再度の招集なるを以て定款第二十四條に據り總會成立の旨を告げ報告議案等は豫て御通知したる通左の諸件なることを述ぶ

報告　一、昭和二年度事業報告
　　一、昭和元年度收支決算報告
議案　一、評議員半數改選の件
　　二、昭和三年度收支豫算の件

一、議長より時間の都合上先つ評議員半數改選の件に付選擧執行する旨を告げ投票を締切り直に開票を行ふに當り議長より立會人選定に付て諮り立會人左の通指名す

浦　英之助氏　高木眞太郎氏
舟橋　俊一氏　久保田筆雄氏
境　正一氏　高田利一郎氏
小川　久市氏　下浦　光衛氏

一、投票總數四百十四票にして採點の結果當選者左の通決定す

八木幸次郎氏　二一八票
池田　實氏　二一〇票
吉井　長七氏　二〇六票
波江　悌　氏　一五三票
前内文二郎氏　一四六票
久保田筆雄氏　一四三票
高田利一郎氏　一四二票
熊澤榮太郎氏　一三七票
樋口辰太郎氏　一三六票
大澤　幸平氏　一三一票
古宇田　實氏　一二八票
宗　兵藏氏　一二六票
村上　徹一氏　一二六票
阪井　米吉氏　一一八票
竹内　絲氏　一一五票
大野　直平氏　一一四票
岡部　顯則氏　一一三票
中島　智喜氏　一一三票
横濱　勉氏　一〇九票
本間　乙彦氏　一〇八票

次點者

山田　初次氏　一〇七票
姫野　武氏　一〇五票
小川　久市氏　一〇五票

一、坪井主記より昭和二年度事業報告あり次いで昭和元年度收支決算に付德政主計より委細説明報告をなし小笠原、波江兩氏より未收入金に付質問あり之れに答へ異議なく承認のことに可決す

一、夫れより昭和三年度收支豫算の件を議し德政主計より原案説明をなし繰越金及支出に於て寄贈雜誌部數等の質問あり之に答へ異議なく原案の通可決す

一、是に於て議長より總會終了の旨を告げ閉會す

新入會者宿所

會員

新阜（ニイオカ）　隆次君　東區神崎町二〇地　勤先　大阪橋本組
山田　亟平君　港區七條通二丁目一一地　普通贊助員
生田　重政君　東淀川區中津本通二丁目一〇〇地　勤先　大阪橋本組
大澤　松蔭君　堺市吾妻橋通二丁目七地　勤先　大阪橋本組
宮田　猛君　港區抱月町二丁目一地　勤先　大阪橋本組

轉居轉勤

名譽贊助員（字名地番改正）

公威君　東京市外澁谷町常磐松一八番地

會員

青山　清君　東成區蒲生町四三九
大倉　三郎君　京都市東山小松谷永田町　勤先　京都帝國大學營繕課
清水　榮二君　兵庫縣武庫郡六甲村八幡字友田三三　事務所　神戸市下山手通五丁目山手ビル
久留　弘文君　東京市四谷區麹町十二丁目六
高橋　君三君　京都府乙訓郡向日町驛前　松浦組出張所
錦織喜代次君　西成區粉濱東ノ町四丁目二八
谷　義三郎君　住吉區天王寺町一、一五〇
吉龍　信二君　豊能郡豊中町大字櫻塚一〇七
毛利　泰三君　東淀川區三津屋町三三ノ一

地方會員

大谷　龍雄君　東京市外澁谷町向山五八
黒住福三郎君　西宮市和上町一三　勤務先　大林組本店
須藤　眞金君　東京府北豊島郡志村小豆澤四四六
藪中　一眞君　東京市小石川區大塚坂下町六二
古林　義敦君　廣島市西白島町一一四

古市

終身賛助員

田中　英誥君　東京市麹町區富士見町五丁目一七

普通賛助員

中野　利男君　神奈川縣川崎市幸町一丁目三六

山本　一善君　兵庫縣赤穗町大阪合同紡績會社赤穗出張所

遠田　音七君　東成區貝塚町一二

平井留次郎君　東成區片江町四〇五

中村　重壽君　德島縣撫養町林崎南殿町

若宮　虎吉君　南區日本橋筋五丁目一八

阪本工務店

和田　順三君　横濱市堡ヶ谷區神戸上町九二七

田中新之助君　京都市車屋町丸太町下ル

求職紹介

一、卒業學校　關西商工學校建築科

一、卒業年月　明治四十年七月

一、年　齢　四十八歳

一、經　歴　工場設計及現場監督（履歴書當協會にあり）

一、俸　給　希望なし

右就職致したきに付御採用の希望の方は當會事務所迄御申越を願ひます

寄贈雜誌

電氣評論　毎號　其　社
都　人　毎號　其　社
學士會月報　毎號　學士會
建築世界　毎號　其　社
朝鮮と建築　毎號　朝鮮建築會
セメント界彙報　毎號　日本ポートランドセメント同業會
住　宅　毎號　住宅改良會
建築雜誌　毎號　建築學會
工　政　毎號　其　會
經濟資料　毎號　東亞經濟調査局
土木建築　毎號　其　社
建築新潮　毎號　洪　洋　社
大阪工業倶樂部　毎號　大阪工業倶樂部
通俗衛生　毎號　大阪府衛生會
帝國鐵道協會報　毎號　其　會
工業評論　毎號　其　社
電氣學會雜誌　毎號　其　會
鐵道軌道經營資料　毎號　鐵道同志會
趣味ノ園藝　毎號　關西園藝會
土木建築之日本　毎號　其　社
工業ト社會　毎號　東京工業會
工　業　毎號　大阪工業會
滿州建築協會雜誌　毎號　其　協　會
庭園と風景　毎號　日本庭園協會
圖書室月報　毎號　東京市政調査會
大阪網島工業會誌　毎號　其　會
エンヂニヤリング　毎號　其　社
工業要錄　毎號　其　發行所
都市研究　毎號　兵庫縣都市研究會
名古屋工業會々報　毎號　其　會
大　阪　毎號　大阪都市協會
生　活　毎號　生活改善同盟會
建　設　毎號　其　社
都市問題　毎號　東京市政調査會
新建築　毎號　其　社
京都の實業　毎號　京都商業會議所
建　築　毎號　中央建築會
都市創作　毎號　其　會
木材彙報　毎號　大阪木材協會
駸　工　毎號　其　會
建築學研究　毎號　其　會
大阪土木建築業組合報　毎號　其　組　合

役員

會長　理事　片岡安
副會長　理事　宗兵藏
副會長　理事　野村一郎
監事　池田實
監事　松本禹象
主記　常務　横濱勉
同　常務　坪井誠一
同　常務　和田貞治郎
主計　常務　浦英之助
同　常務　吉井長七
同　常務　岡部顯則
同　編輯　常務　本間乙彦
同　常務　波江悌夫
同　常務　八木幸次郎
同　常務　木村寛一

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	七拾五錢	貳錢
十二冊	九圓	貳拾四錢

昭和三年一月廿一日印刷（毎月壹回）
昭和三年二月一日發行（一日發行）

兵庫縣武庫郡本山村字北畑
發行兼編輯人　薦田夏治郎（コモ）

大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷所　大阪活版所

大阪市西區土佐堀通一ノ一
大同ビルヂング
發行所　社團法人　日本建築協會
電話土四二六五番
振替口座大阪三九、九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番
振替口座二二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ振替又は爲替にて前金御拂込被下度候

建築事務所案内

（次第不同）

池田建築事務所

所長

建築工學士 池田實

所＝大阪市西區西道頓堀住友ビル

電話櫻川1144・3724

宅＝大阪市西成區有樂町37

建築設計竝監督

大阪建築所

大阪市北區中之島七丁目十七番地

河野ビルデング

電話土佐堀（特長二二八〇番）六一〇三番

パチエロアー・オフ・サイエンス カリホルニヤ州公認建築士

建築士 伊藤文四郎

建築士 熊澤榮太郎

大阪市西區土佐堀通一丁目

大同生命ビルディング第八階

橋本建築事務所

建築工學士 橋本勉

電話土佐堀九三八番

大阪市北區曾根崎中二丁目

第一曾根崎ビルディング第四十一號

建築設計監督 小笠原建築事務所

電話北二一五五、二一五六番

建築士 小笠原鉚（マスミ）

住所 大阪市此花區酉島町北港住宅二一〇號

電話土佐堀三二〇四番

建築事務所案内

（次第不同）

大阪市西區靱南通二丁目
ユタカビルデイング三階K室

岡部建築事務所

岡部顯則（アキノリ）

電話土佐堀五三二三番

大阪市北區中之島宗是町一〇
中之島ビルデイング

和田建築事務所

建築士 和田貞治郎

電話土佐堀七三二三番

東京市丸ノ内郵船ビルヂング六階
電話丸ノ内23二九八一番
大阪市北區堂島大毎ビルヂング五階
電話北四〇六四番

片岡石本建築事務所

工學博士 片岡安
工學士 石本喜久治

大阪市東區高麗橋三丁目二八
千代田生命保險物建三階
電話本局二九六四番

横河工務所

工學博士 横河民輔
工學士 松井貴太郎
田中綱

建築事務所案内

（次第不同）

大阪市東區北濱四丁目五〇
電話本局三一三一番

宗建築事務所

建築士 工學士 宗 兵藏
須川廉太郎
工學士 大倉三郎

大阪市西區本田町通り一丁目四九ノ七
住友銀行川口ビルヂング四階十六號室
電話長西三四三三番

國枝工務所

工學士 國枝博

大阪市東區高麗橋筋二丁目
高麗橋野村ビルヂング六階

安井建築事務所

電話本局二〇七二番

建築士 工學士 安井武雄

建築事務所案内

（次第不同）

鐵筋コンクリート建築

設計監督計算

大阪市東區瓦町山口ビルヂング

増田建築事務所

工學士 増田清

電話本局 {2673 / 3176}

東京市本郷區本郷三丁目八番地

建築士木設計監督 **眞水工務所** 電話小石川三九六三番

建築士工學士 眞水英夫

工學士 野田六次

大阪市北區眞砂町四十一番地

眞水三橋建築事務所 電話北二〇四一番

早大工學士 松下由藏

太田正之

神戸市下山手通六丁目七六

電話元町二六七一番

設樂建築事務所

建築士 設樂貞雄

工學士 設樂貞三

支配人 木村梅次郎

專賣特許 第四二五九二號 新案特許 第四三三二一號 第六六一三五四號 第六六四二三號

西原式 汚水淨化裝置

弊所が本邦に於ける斯業の先驅者として大小數百ケ所に施工したる多年の經驗と研究の結果漸次改良を加へたもので構造の堅牢、工費の低廉、成績の良好、地積を要する尠なきこと等あらゆる特色を具備せるものであります。

國產優良品

パイロット衛生器具

洗面器、手洗器、流し類、和洋大小便器、浴槽等各種、



CW 50 — A

（御申越次第カタログ進呈）

我國にて始めて發賣せる組合せ衛生器具にて『持ち送り』『木捻』の類に至るまで全部取揃へ一組になつて居りますが金具類はすべて

合資會社ヤンソン製作所

また陶器類は

東洋陶器株式會社

の特製品で兩々相まつて外國製に劣らぬ優良品を皆樣に御奬め致します、續々御愛用のほど願ひ上げます。

本店 東京

西原衛生工業所大阪支店

大阪市北區中之島五丁目三十番地

電話土佐堀三七一五八番

京都市下京區萬壽寺通不明門東入

京都出張店

電話下一三四五番

營業所 名古屋

建築請負業者案内

（次第不同）

池田勘藏

大阪市北區曾根崎新地三丁目拾三番

電話長北一一五七番

大阪市東區農人橋二丁目十二番地

合名會社 大阪橋本組

代表者 橋本政吉

電話 東一五八〇番 長東一五八一番 東一七五三番

福岡縣小倉市大阪町十丁目百廿二番地

九州支店

電話長四三〇番

東京市日本橋區本石町四丁目一番地

大阪橋本組東京支店

電話日本橋(24)三四六〇番 三四六一番

大阪市東區釣鐘町二丁目百二十八番屋敷

大倉土木株式會社

大阪出張所

電話東二〇六番

建築請負業者案内

（次第不同）

ペンキ塗請負業

龜谷開作

大阪市北區鶴之町三十六番地
電話北六五四五番

營業科目

金庫室入口防火扉
マンホール並ニ窓扉
倉庫出入口防火扉
鋼鐵製書函並ニ書棚
美術建築用銅鐵工事
御眞影奉安庫

大塚鐵工所金庫部

所主　瀧村松之助

大阪市港區九條南通一丁目
電話西五〇一七番

合名會社

竹中工務店

本店　大阪區堂島、堂ビル　北長八一〇
支店　東京市丸ノ内郵船ビル　丸ノ内(23)長一二五〇
神戸市熊内町六丁目　萱合　八〇六
名古屋市西區幅原町二丁目　長一八四二
京都市坊城通三條下ル　中二三八六
横濱市花咲町十一丁目　一八八九
長者町關巻(三)

製作所
大阪市港區南境川町　西長八〇四
東京市深川區西平井町　大手二〇四六

足代(假設)
材料損料
鳶方(手傳)

工事負請業

中新川辰藏

大阪市北區曾根崎上一丁目
電話北區一五三番

東京出張所
東京市神田區猿樂町
貳丁目壹番地
電話神田(25)三〇五番

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社
佐伯組

本店　大阪市港區市岡町夕凪橋畔
電話特長西一〇九〇番

出張所

福岡市外馬出上町　電話長二二四二番
大分市南新地　電話長三七〇番
熊本市相撲町　電話長三九四番
小倉市中島町　電話長六一〇番
宮崎市宮田町　電話長四〇六番
東京市京橋區本挽町九丁目三地

久保田組
久保田種吉

大阪市東區神崎町五〇
電話東長三一八七番
三八五三番

株式會社
野村組
野村亥之助

東區京橋二丁目四八
京阪ビルヂング二四號室
電話東四八三番

諸石材販賣彫刻請負業

幷ニ
一手販賣（黃龍石（人造石用）石粉各種
　　高島產鏽色（人造石用）石粉各種
　　黃龍石材各種）

通名石佐事
熊取谷熊次郎

本店　大阪市東區材木町七九
電話長東一六二六番
出張所　東京市下谷區上根岸四九
電話下谷一三二九番

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社 **松村組**

大阪市東區大手通一丁目二十六番地
電話東（長三一七一番 三一七二番 三五三三番）

東京本社
東京市丸ノ内仲十四號館十二號
長二五七五番 九八六番
電話牛込 二六八八番 五八四八番

藤木工務店

藤木正一

大阪市西區小林町七十五番地
電話（局）櫻川一五五八番

合資會社 **清水組大阪支店**

大阪市西區土佐報通二丁目二番地
電話（局）土佐堀（六六六番 六六七番）

（本店）東京
（支店）横濱、名古屋、京都、博多、京城、大連

木村工務所

大阪市西區京町堀通三丁目一番地
電話土佐堀（局）三五九八番
自宅電話平野三〇七番

建築請負業者案内

（次第不同）

鑿井工事請負業

日本鑿泉合資會社

大阪出張所　大阪市北區曾根崎町大平ビルヂング
電話北三七七八番

本社　東京市丸ノ内中通三號
電話丸ノ内（二三）長一八六三番

名古屋代理店　名古屋市東區東新町萬歳生命ビルヂング四三號
電話東一四七一番

大阪市西區土佐堀通三丁目二四

合資會社　**錢高組**

電話土佐堀（長三四一七）（三四一八）

東京市京橋區木挽町四丁目四

東京支店

電話銀座（四二九二番）（長四二九三番）（長二三四七番）

名古屋市中區新榮町三丁目二九

名古屋出張所

電話東三五一八番

横濱市高島町六丁目一二

横濱出張所

電話本局三〇七六番

特許ORC式

鐵筋混凝土煙突水槽工事設計施工

合名會社　**大阪鐵筋混凝土工務所**

大阪市港區小林町一六三
電話櫻川（長）一〇八六・二六二二

神戸出張所　電兵庫一四六九

名古屋出張所　電南局一五九八

大阪市東區横堀四丁目四十三番地
電話本町八三四（本店）
櫻川一六七（工場）

石川屋

岡本工務店

岡本武藏
岡本新次郎
山中茂一

建築請負業者案内

使用。輕便、簡易工事節約多大金
銀塗箔ゴールド、エナメル從來の
エナメル金銀ト異ナリ箔張同樣出
來、且延ビヨキ爲メ、價格安價驚
ク外ナシ是非御試用ヲ乞フ。
用途電線ヲ塗レバ金屬ガ表面ニ張
付ラルル故電力ガ少シモ失セバ且
ツ防水腐蝕トナリ猶美麗ノ點モア
ル實ニ經濟品ナリ鐵骨、暖房管、
其他裝飾用トシテ各、色物モアル
（御申越次第說明書送附）

塗料製造直輸出入商

吉住和一郎商店

大阪市東區博勞町五丁目三一
電話船場四〇二番　振替大阪六七九八番
V1CTORY信海外受信ビクトリオ內地受信濟錄登
電略（ヨワ）又ハ（ヨ）　取引銀行　加島銀行南支店

大理石
鐵平石
萬成磨
工事及設計請負

合資會社 山田大理石製作所

大阪市此花區吉野町二丁目一六
電話土佐堀四三四二番

長尾新太郎
池上喜三信

御用ノ節ハ電語ニテ御一報次第御伺仕可候

有山組

大阪府東淀川區十三東之町
電話 自宅用 北二〇五〇
事務所用 三〇五一

淺沼組

本店　奈良縣郡山町字今井
電郡山二五番
工作所　奈良縣郡山町字高田
電郡山二四一番
大阪支店　大阪市東成區東小橋町六ノ一四
電南二七九〇番
大阪出張所　大阪市港區鶴町四丁目一八二
電櫻川二九〇七番
製材部　大阪市港區小林町一九五番地
電櫻川二四五六番

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社 **鴻池組**

本店 大阪市西淀川區傳法町北三丁目五一
電話土佐堀長（二二六二番
（二二六三番

支店 東京市京橋區三十間堀三丁目三
電話銀座（一九九〇番
（長一九九一番

製材所 大阪市港區池鳥町二丁目五五
電話西長一五二三番

鐵骨橋梁鐵塔
建築金物請負

合資會社 **駒井喜商店鐵工部**

大阪市港區泉尾町七二番地
電話櫻川（六五八番
（二八八六番

安藤組大阪出張所

大阪市北區堂島濱通
一丁目八五番地
電話長北四八四番

森本建築社

東京支店
東京市芝區白金三光町二五番地
電話高輪八一六七番

大阪市南區高津三番丁二番地
電話長戎二八一〇番

佐久間式マルエス印便利瓦

國産として優秀なる

佐久間式マルエス印

コンパウンド	
パーマネントルーフイング	疊下用紙
C印フエルト	建築用紙
ルーフイング	フエルト



御用命

三菱地所部殿
東京府庁舎殿
東京市役所殿
大蔵省庁舎殿
文部省庁舎殿
鐵道省庁舎殿
陸軍被服廠殿
警視廳殿

久原鑛業株式會社殿
藤田鑛業株式會社殿
帝國ホテル殿
藤倉電線株式會社殿
富士製紙株式會社殿
慶應大學殿
南滿州鐵道株式會社殿

清水組殿
大林組殿
大倉組殿
安藤組殿
錢高組殿

橋本組殿
戸田組殿
竹中工務所殿
藤本組殿

（其他土木建築界各方面）

東京工業試驗所報告

品名	抗張力 縱	抗張力 橫	水壓力 氣壓	加曲試驗 丸棒直徑	加曲試驗 廻轉度	加曲試驗 龜裂	試驗時期
佐久間式マルエス印半號ルーフイング	瓩 70·5	瓩 42·9	1.4	糎 0·5	180°	生ゼズ	大正十四年二月二十六日
某舶來一流(A)プライルーフイング	同 53.7	21.8	1.2	同 1.3	180°	生ゼリ	同上
佐久間式マルエス印半號ルーフイング	同 74.4	同 55.9	1.7	同 0.5	180°	生ゼズ	大正十五年二月十日
某舶來一流(A)プライルーフイング	同 80.3	同 39.3	1.2	同 1.0	180°	生ゼリ	同上

（見本カタローグは御申込み次第贈呈）

東京府南足立郡千住町三丁目三百七十番地

佐久間建材工業所

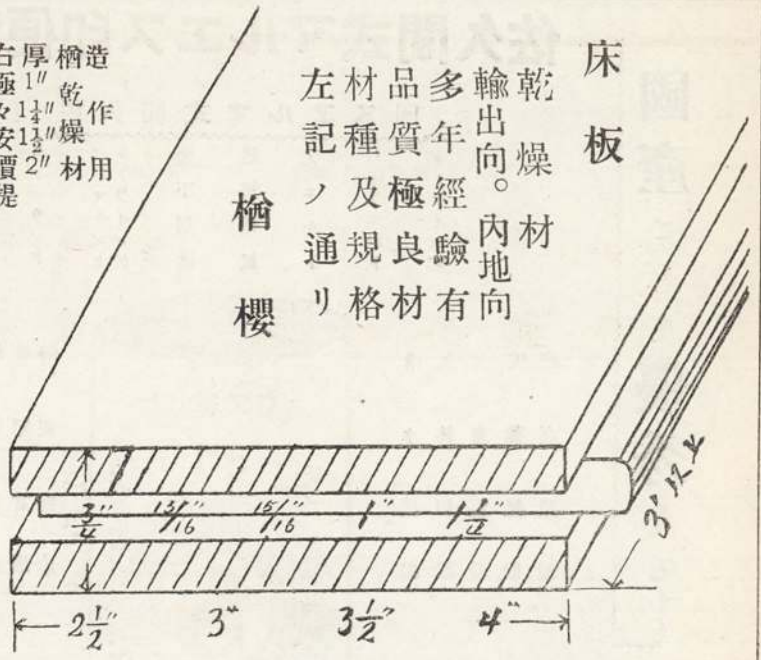
所主 佐久間榮吉

電話淺草五〇六番・千住二四〇二番

床板

乾燥材輸出向。内地向多年經驗有品質極良材材種及規格左記ノ通リ

楢　櫻



造作用　楢乾燥材
厚 1″ 1¼″ 1½″ 2″
右極々安價提供是非當店へ御引合願上候

福原工場大阪販賣店
港區泉梅ノ町四丁目
電話櫻川一六七番

福原床板製造工場
小樽市入舟町二丁目三十四番地
電話二七三、一二三
振口小樽二五六七

床張の權威

アルス

アルス一層塗
アルス、コルク塗
リノリユーム下敷用
外壁用スタッコ
塗込式スクールボール

大阪市西區江戸堀北通一丁目
製造發賣元　日米商事合資會社
アルス工業部
電話土佐堀長(一九五番
七三〇五番

榮進社ノ

戸火防上捲　シュッサルーチス
類戸鐵種各　機降昇動手



營業所　東京市京橋區南紺屋町十二番地
實業ビルデング三階
電話京橋(56)一、〇六三番
二、二二九番

出張所　横濱市山下町一八四　岩井ビル
電話本局(2)二、七一四番
神戸市平野下祇園町二三一番地
電話元町　二、七〇九番

合資會社　榮進社

第一工場　東京府日暮里町日暮里三八番地
電話下谷(83)長一、〇二七番

第二工場　東京府日暮里町大字谷中本二五六番地

改良 特許 S 便所



設備費　金七拾五圓（大便所ノミ）
　　金九拾五圓（大小便所共設ノ場合）

大阪市東區高麗橋五丁目
株式會社　須賀商會内

SO商會

電話本局　三四五番　九九九　八八八　一一一

建築衛生設備設計施工

営業種目

▼水道▲ 公私水道、**ポンプ**、屋外給水裝置。
▼防火▲ 防火栓裝置、**スプリンクラーシステム**、消防用器具、**サイヤーミンスコンネクシヨン**、**ミニマツクス**消火器。
▼衛生▲ 洋和風浴室、洗面場、臺所、便所、下水道、污水淨化裝置、塵埃處理裝置。
▼暖房▲ 蒸汽暖房裝置、溫水暖房裝置、熱氣暖房裝置。
▼換氣▲ 自然換氣、機械換氣、冷風換氣、空氣洗滌裝置。
▼冷藏▲ **リフリゼレーター**。
▼眞空式掃除裝置▲ **セントラル、バキユーム、クリーニングシステム**。
▼右設計工事請負及同機械器具材料製造並ニ輸入販賣

米國**スタンダード**衛生器具製造會社
米國**スローンバルブ**製造會社 日本總代理店
米國**シカゴポンプ**製造會社

米國**スペンサークリーナー**會社
米國**ベージボイラー**製造會社 日本總代理店
獨國**ミニマツクス**消火器會社

〔創業明治三十四年〕

宮内省御用達

株式會社 **須賀商會**

大阪東區高麗橋五丁目
電話本局 一一八九三番 一一八九四番 一一八九五番

支店
東京
名古屋
京都

支店
住吉
神戸
博多

製品販賣　工事請負

東洋コンクリート合資會社

安價　鐵筋コンクリート土管
　　ブロック
　　タイル
　　電纜埋設用トラフ
　　其他各種製品應御注文

迅速　鐵筋コンクリート煙突
　　一般土木建築工事
　　特殊ブロック建築
　　ブロック塀

カタログ進呈

大阪市西淀川區海老江町
（阪神電車・淀川停留所脇）
電話土佐堀三八三四番

◀施工ニ並賣販▶

耐火リノリウム
セメントプロツク
ドロマイト
㊥プラスター

特許ストンプロツク
特許ポーラスライ
マグネシヤセメント

葛生石灰株式會社發賣
㊥プラスター關西一手販賣元

大阪耐火リノリウム工業合資會社
大阪市西區薩摩堀南ノ町一番地
電話新町四三五九番

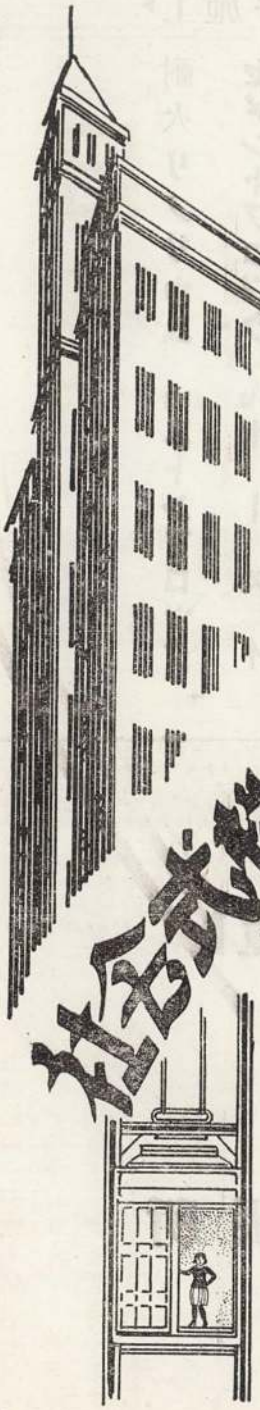
カタログ進呈

◀特許坂本式硝子屋根裝置▶

諸官衙・工場・倉庫・撮影所・病院・温室等・屋根及ビ一般建築物天窓ニ廣ク御利用ヲ乞フ

坂本商會大阪出張所

大阪市西區薩摩堀南ノ町一番地
電話新町四三五九番



各省諸官衙指定工場

内外エレベーター株式会社

エレベーター
コンベアー
ホイスト
リフト
一般輸送機械
設計製作販売

神田区神田三丁目二番地
電話神田(三)〇六七
東京営業所
電話長局(一)七七一・三七〇七

Nippon
DIAMOND RIBLESS

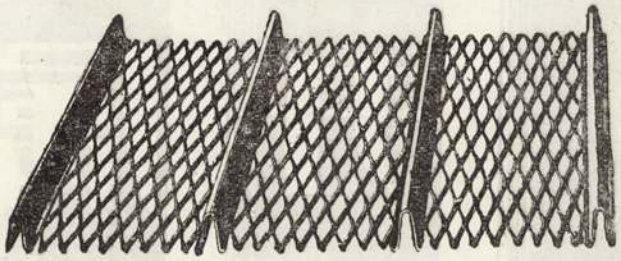
日本で……

初めて出來た

日本

ダイヤモンド

リブラス



厚、重量

錆止其他品質一切輸入品以上なりと大好評を得ております。是非共御採用の程を……價格低廉……

▲見本、型錄、御申越次第進呈

輸入品使用の時代は既に已に去れり。

切に國產品の御愛用を希上ます。

製造發賣元

大阪市此花區四貫島旭町一丁目

合名會社 **日進製作所**

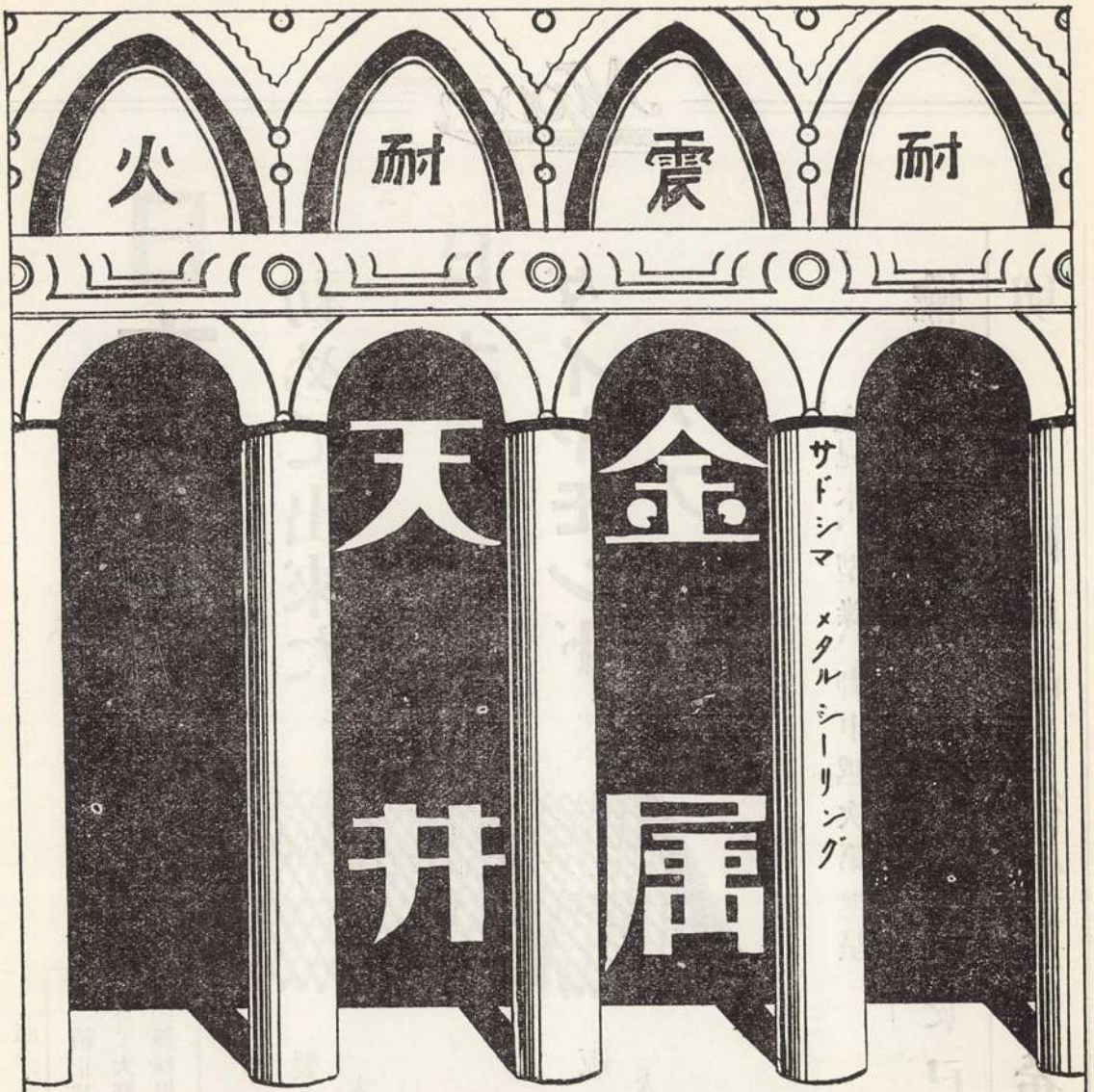
電話土佐堀 二一八四一番 三一三三番

販賣店

大阪市北區中ノ島六丁目

奥村重兵衛商店

電話土佐堀四六一番



御希望により亞鉛引平板。銅板。亞鉛板にても御用命に應じます。
尚又特殊御希望模様製作にも御相談に預ります。

營業品目

金屬天井板
亞鉛引平板
亞鉛引浪板
亞鉛引鐵線
鋲　力　板
洋　釘
泪目浪板
薄　鐵　板
セラー釘

贈呈　型錄

金屬天井板）製造發賣元
羽目浪板）
大阪市南區安堂寺橋通り三丁目

佐渡島西店
金屬天井部

電話船場 九二二番 九三二番 九三三番

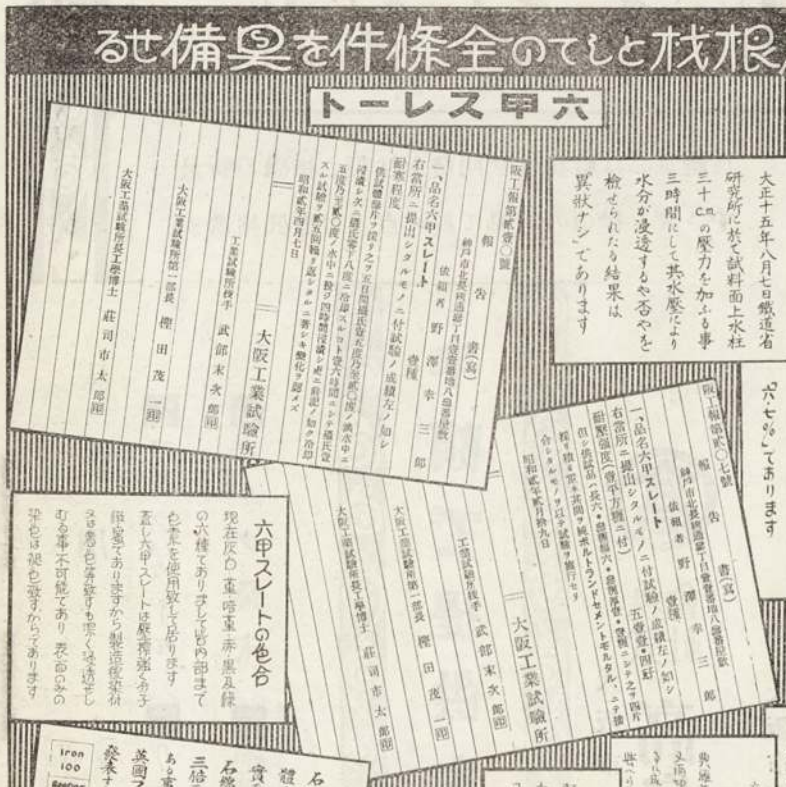
蔵屋堀會庫用新町九五七番
振替口座大阪三二七三八番

屋根材としての全條件を具備せる

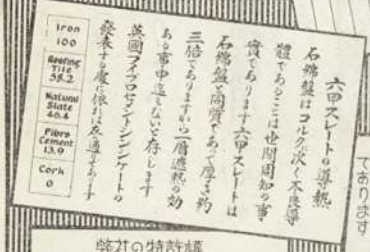
六甲スレート

六甲スレートの浸透程度
大正十五年八月七日鐵道省
研究所に於て試料面上水柱
三十㎝の壓力を加ふる事
三時間にして其水壓により
水分が浸透するや否やを
檢せられたる結果は
「異狀ナシ」であります

六甲スレートの吸水率
大正十五年八月七日鐵道省の
試驗成績報告書によれば
「〇・七%」であります



六甲スレートの色合
現在販ひ得る色は赤黒及緑
の三種でありますが何れ
も本質を使用致しますから
堅牢で美しく且永久的であ
ります



六甲スレートの導熱
石綿盤はコルク次ぐ不良導
體であることは世間周知の事
實であります六甲スレートは
石綿盤と同質であつて厚さ約
三倍でありますから屋根材の効
ある事申迄もないと存じます
英國ライプロテインジンケートの
發表せる處に依れば左の通であります

維持費不要
耐壓力の強大と凍寒試驗をパスする
六甲スレートは自然維持費を安く
す永久の御利益勘少でありませぬ

六甲スレートの伸縮
膨張係數は〇・〇〇二四圓ち
一度分の二萬の伸縮あるのみ
であります

道具瓦
軒先ケラバ用各棟附は勿論鬼瓦
鬼板、巴、絵り等各種取揃居り名
「其甲」をも製作致して居ります。



弊社の特許權

登録特許	No. 29305	大正五年	四十一
〃	No. 30344	〃 五年	四十二
〃	No. 67558	大正十五年	六八七
〃	No. 68522	〃	六八八
〃	No. 68644	〃	七〇
実用新案	No. 99021	〃	一
〃	No. 101526	〃	一

製造 日本石綿盤製造株式會社
發売 野澤三幸商店

神戸 北長狭ニTD 番6 2839 2833
東京 丸ノ内 別3670
大阪 綿業會館内 大江ビル内
福岡 鉱山筑紫町三六 北5994
振替 1945

コルクタイル

最新の機械と製法を發明せる我社は品質優良
と價格低廉なる点に於て他社の追從を許さず

床敷用
■コルク、タイル　■リノ、タイル　下敷用コルク板
■コルク疊床　■絶緣用コルク　其他一般

半額で提供す
他社製品と同等品ならば

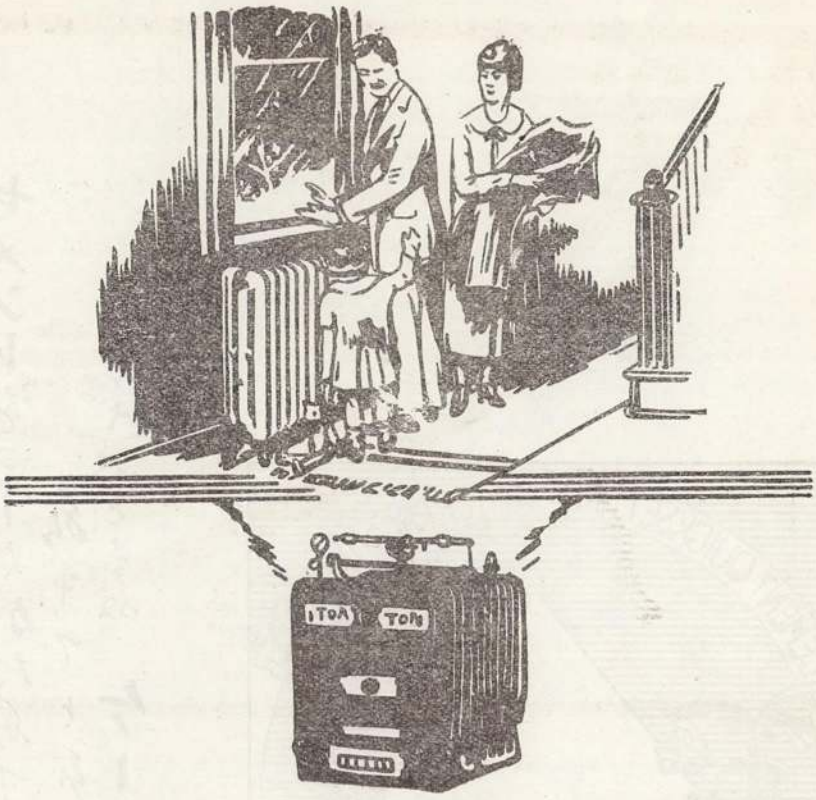
株式會社 高島屋呉服店裝飾部
大阪市南區長堀橋一丁目
電話南(三一、三二、三三、長三四、三五、三八二三、六三二〇、六三一一、六三二二、七八八二、七八八三)

製造所 大阪コルク工業合資會社
大阪市東成區中濱町三九四番地
電話東(三二三六番、五七六九番)

セメントを早く固めて
永もちさせる
ケーテーオー



東京市芝區愛宕下町一ノ四　電話芝一五一二番



營業案內

煖房部
煖房、換氣
温濕氣調整
水道、衛生
設計、施工

製作部
各種放熱器
工作用高級機械
汽罐、鑄鐵品
コンベーヤー、リフト、クーブルカー

合資會社
東亞鐵工所
大阪市此花區西九條濱通一〇
電話土佐堀(一一三七番
(三九六七番

合資會社
東亞鐵工所東京出張所
東京市麹町區丸ノ内ビル八七五
電話丸ノ内(23)一七九六番

玲子社

ステインドグラス
模細工
ブリヅム
各種色硝子

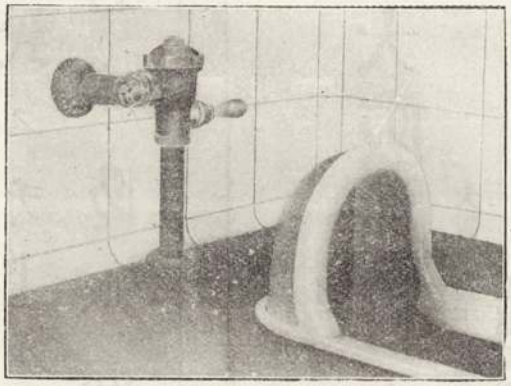
大阪市天王寺區南河堀町
電話 戎 五二六四

東京澁谷青山南町七ノ二
電話 青山 一八八〇

耶太眞内木
耶三彌崎三
太太邦瀧寅
郎郎郎郎

辨滌洗所便洗水

ヨネ.フラッシュ.バルブ



定指御課繕營學大國帝京東
可認御所役市都京・阪大・京東

米本商店 元賣發造製

大阪市天王寺區四幸町三丁目二番
電話 櫻川三八八〇番

重なる納入先

東京帝國大學　京町堀ビルデング
正金銀行東京支店　太平ビルデング
日本大學　大阪市電氣局
大阪ビルデング　大軌電鐵會社
船場ビルデング　新京阪電鐵會社

大阪造幣局　大寶小學校
灘萬食料品店　八幡屋劇場
三越呉服店別館　兵庫縣立女學校
大阪府知事官舍　名古屋共濟ビル
大阪商船紅丸　京都明治ビル
芦原小學校　滿鐵病院

大理石工事請負

合資會社 矢橋大理石商店

本店 岐阜縣不破郡赤阪町 電話五

出張所 東京市麹町區八重洲町一丁目丸ノ内十號館五號 電話丸ノ内四六三九番

大阪市東區北濱四丁目二十二番地 電話本局㊁五三一九

京城府光化門通一九〇

藤村式スチールシヤツター

藤村式スチールサツシユ

藤村式スチールラス

藤村式防水裝置

大阪建材商會

大阪市天王寺區堂ヶ芝町七七 電話南四三二四番

工場 岸和田市沼町五〇八 電話岸和田二三六番 八七二番

最も進歩せる使い易いプラスター

スタッコ、マンチュリヤ

主な特長

一、布海苔を要せず、其儘水にて練り塗工す
一、硬度適當なれば音響を反射せず
一、輕くして剝落、龜裂の憂なし
一、純白美麗、顏料にて着色任意、褪色せず
一、施行後水洗ひしても表面を損傷せず
一、價格低廉、御試用を乞ふ

耐火床張リグノイド
工場床張リグコッタ
美術床張マグコルク床
防火防水壁ロックスタッコ
水硬性防火防水壁リソイド
水硬性防音內壁エラスコ
マグネシアセメント

型錄進呈

一手販賣店元

三井物産株式會社

製造元

大阪市港區北境川町二丁目三十五番地

南滿鑛業株式會社

大阪出張所

電話長西三四八九番

既ニ！既ニ！漆喰壁ノ時代ハ去レリ……

大連ドロマイト

ABC建材月報
各種建材型錄
進呈

防火 耐水 硬性 プラスター

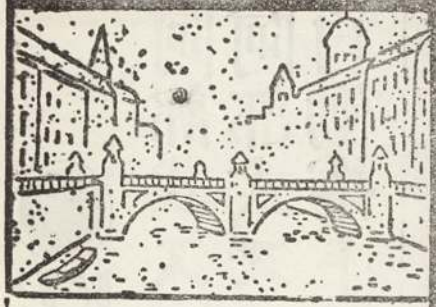


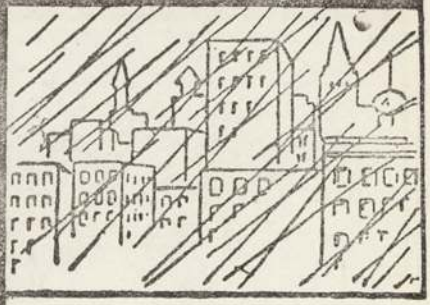
社長 野淺一郎總

社會式株産物野淺

本店 東京市麹町區内丸ノ内ビルデンング 電話 丸ノ内二六一〇
支店 大阪市東區北濱五丁目至十一番地 電話 局 本山 七五三六

建築ノ耐久 専賣特許 保健ト衛生





セメント硬 防水剤 マノール

濕氣とマノール防水劑

建築に濕氣は大敵なり濕氣は建築材料の氣孔を栓塞するが故に、屋壁中に保有する空氣を減却せしむ、從つて、室内外の空氣換氣を妨げ、衛生上有害なるのみならず、間斷なく蒸發する水分のため、冬は一層寒冷を增し、夏は又蒸し暑く、適度の溫度の加はるときは、種々の害菌發生繁殖を促進し、之れがため木材、壁材等の腐蝕腐朽を早からしむると食物貯藏品の腐敗變質を來さしめ更に濕氣は石灰、セメント、モルタル、コンクリート中に浸透し可溶性鹽類を溶出せしむるが故に、甚だしく建築外觀の美を汚損すると共に、鹽類の結晶並に水分の凍結より起る膨張は壁面其他隨所に龜裂を生じ、亦溶出する鹽類は強アルカリ性なるが故に石材、木材、鐵材、壁材其他の建築材料を腐蝕し、夥しく耐久性を損害するものなり本邦の氣候は歐米の乾燥地帶と異なり、夏時は、空氣中常に八十パーセント以上の濕氣を保有し、不幸にも家屋に害菌を蔽り易きこと世界に比類なき土地なれば家屋並に貯藏品の保存耐久と衛生上防濕設備にマノールは必要缺くべからず

マノールはセメントの強度に少しの變化も來すことなく永久不變質にして強大なる水壓に耐へセメント、モルタル、コンクリート及石灰漆喰の防水防濕用としても最も好適の材料なり本品の發明は最も至難なる防水工事を簡易に完全に安價に解決し本邦唯一の權威ある防水劑として土木建築界に多大なる賞讚を蒙る

用途	
◎地下室の防水	◎船底船渠の防水
◎壁屋根の防水	◎便所糞池の防水
◎床井戸側の防水	◎高架鐵道の防水
◎炊事浴室の防水	◎水力工事の防水
◎地下鐵道の防水	◎醬油タンクの防水
◎水道貯水池の防水	◎其他衛生的工事

特約店

大阪市西區西道頓堀通二ノ六
建築材料合資會社
電話長櫻川二五六九番
振替大阪七四八〇七番

大阪市西區江戸堀北通五ノ三五
木下謹三商店
電話土佐堀二一六六番

製造元
東京府下平塚村
油脂化工株式會社
電話高輪特長五四五一
振替東京七〇四五〇

●防火宣傳●

阿部式スティールサッシュ製作
阿部式スティールドーアー製作
自働捲上防火シャッター製作

鐵骨建築及附屬金物一式
鐵塔橋梁其他構造物一式
エレベーターリフティング一式
鐵扉、鐵柵類一式

A 合資會社 **阿部鐵工所**

大阪市西淀川區浦江町三五四ノ一
電話土佐堀（長一八一四番 三〇一一番 八〇〇八四番）
振替口座大阪四八〇五一番
受信略電（オウサカアヘテツ）

飛行機印



アスファルトフエルト
便利瓦
アスファルト各種
電氣絶縁材料

大阪市此花區大開町三丁目九番地

梶田豊治

電話長土佐堀一〇六五番

諸官廳御指定品
耐水、耐酸、耐久
屋根地下室防水用

國産品の權威

（便利瓦）

日の出ルーフィングとフエルト



瓦利便
傾斜葺の屋根材陸屋根地下室其他防水材

フエルト
トタン板スレート屋根の下葺便利瓦と共に各種の防水材　各種包裝荷造用
見本進呈

本社　東京市神田區小川町一
電話神田六六三・六三六
出張所　大阪市南區鹽町通二ノ一七
電話船場一六九〇・三一二五
工場　東京府千住町四丁目元宿
電話千住七六

日本建築紙工株式會社

理想的未來の屋根ルーフレス新材



淺野スレート
日本石綿盤
朝日スレート
金剛スレート

品質堅牢
体裁優美

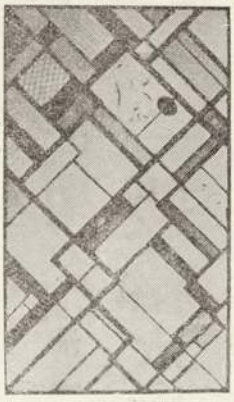
日本スレート販賣株式會社大阪支店

大阪市西區江戸堀南通一丁目廿一番地
電話土佐堀㊁3468番・3469番
本社東京市京橋區三十間堀三丁目
電話銀座㊁684・841(專用)1860・1861・1862番(接續)
支店 {横濱市常盤町5丁目81番地電話本長者町(3)5207番
{門司市東本町四丁目 電話㊁548番
出張所 名古屋・仙臺・京城

ステインドグラス

グラスモザイク

VENUS STUDIO



大阪市東區谷町二丁目五　電東四二二〇

出張所　東京　　代理店　京城

ベニス工房

S.S ルイタル品

最近當社獨特の新製品嶄新なる高級マット

奕秋（エキシュウ）タイルの出現

各種タイル販賣

大阪市西區靱北通一丁目二六
品川白煉瓦株式會社大阪支店

タイル販賣所

電話土佐堀七一一番

便所之改善

専賣特許第三二七九八號

大正便所

特長

臭氣、蛆、蠅の發生
跳返、盜難の憂　絶對皆無
現在汲取式の理想的便所

専賣特許第三六七一五號

株式會社 城口研究所大阪支店

城口式汚水自然淨化裝置

水洗便所必須清潔、完全、簡易の下水に放流裝置

一般給水衛生工事

大阪市北區曾根崎中壹丁目五十七番地

電話北　特長 二一二三　一五九一　八六番

本店　東京市神田區千代田町十八番地　特長二五二二番　二五二三番　電話神田

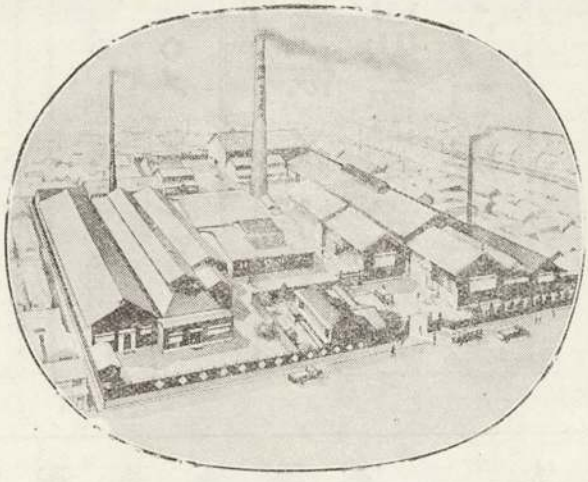
出張所　名古屋市西區本町三丁目五番地　電話東　二三七〇番
同　京都市大和大路大佛前　電話下　四七四二番
同　神戸市三宮町一丁目百七十番地　電話三宮　一六九八番
同　横濱市常盤町五丁目八一十番地
同　廣島市竹屋町百三十五番地　電話　二八〇八番

粉末柄

登録商標

誇るべき弊社製品の特長

成分含有量の的確　分子微細にして一定不變
色澤鮮麗にして純新　大量製産にして安價提供



用途

塗料用　製紙用
ペイント用　リノリューム用
染色用　燐寸用
陶磁器用　ゴム製造配合用
漆器用　電線被覆用
建築用　印刷インキ用
皮革用　印刷製版用
防水布用　スレート用

製品種目

富士印	金鳳印	白鳳印	朱雀印	金鶏印
丹頂印	四十鳥印	隼印	鴎印	椋鳥印
鵙印				

（見本進呈）

大阪市西成區長橋通四丁目

發賣元　合資會社　**大平工業所**

電話櫻川二六三八番
振替大阪六三九二五番
發信略號（オヒラ）又ハ（オ）

大阪市東區道修町二丁目

代理店　支店　**藤澤友吉商店**

支店　東京市日本橋區本町
　　京城府西小門町四二

◇江東サッシ
◇オペレーター（窓開閉用）
◇シャッター

◇オパキサイト（大理石代用）
◇S.T.型ワイヤ硝子
◇S,T.型プリズム硝子
◇メタルラス

◇コルク板及粒
◇防熱防冷装置一式
◇マグスタッコ床塗

田中昌司商店
大阪市西區江戸堀南通四丁目
電話土佐堀（一八〇五番）（四八七三番）

◆特許山添式防水工事
◆ターピヤ鋪装工事
◆特許田中式硝子屋根
◆デーケー式シャッター
◆デーケー式サッシユ
◆鈴木式及デーケーラス
◆セメント防水料セレシット
◆星印ルーフヒング

大阪市西區南堀江下通二丁目
内外土木建築材料合資會社
電話（櫻川一六一〇番）

電力ト電燈

美術裝飾電燈器具製作
電燈電熱電話避雷針工事
設計監督工事請負

淺海商店

店主　淺海治平
主任技師　工學士　齋藤應理

營業所　大阪市北區絹笠町九番地
大江ビルヂング二階十九號
電話　北(一五七六
一二一五

工事部　大阪市北區曾根崎上三丁目一七三
出張店　下關市田中町本通三丁目
電話　一六五三
大分市西町
福岡縣戸畑町
東京工場　東京市芝區愛宕下町二目丁



楢實剝繼手付

櫻 **床板**

同上羽目板

同上本寄木

特許第六六〇八九號
伊丹式パーケットリー（簡易寄木）
特許第六五八九一號
伊丹式フローリングブロック
（コンクリート床板上直接張込床材）
三菱合資會社營業課製
南洋產セラヤ材天井板
青森特產樅材根太土臺其他

大阪 伊丹商店

大阪營業所
大阪市西區靭中通一丁目二〇番地（市電信濃橋停留場北へ一丁東側）
電話長土佐堀二四一七番

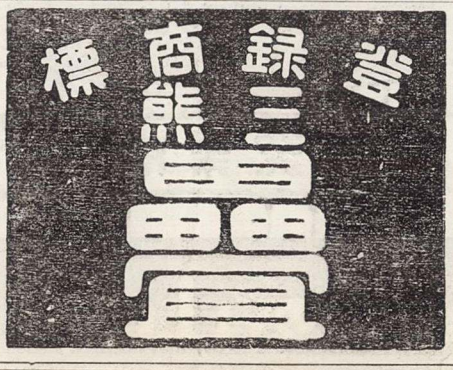
名古屋營業所
名古屋市西區南外堀町四丁目一番地
電話長本局四五九六番

三熊製疊所

創業明治四十四年　神戸市東尻池町五丁目　電話兵庫一四六九番

▲本品は現に我國屈指の建築技師及技術家を始め別莊住宅各官廳及重要會社の設計指定疊として多大の御用命を蒙りつゝあり

特長
製品優秀　技術超絶
納期正確　在庫豊富
價格至廉　確實叮嚀



販路—關西關東ヲ始メ全國各地一圓現場納入

▼御設計又は御見積の上に於て疊一切の事に付御不審の點は御相談下され候はば委細御說明申上候

價格表御一報次第送呈仕候

出張所　大阪　京都



佛蘭西式洋瓦

◎綠色洋瓦　◎黑褐色洋瓦
◎赤色洋瓦　◎各種日本瓦

各種洋瓦の製造販賣
屋根工事の請負

十大特長

實質堅牢　形態合理
色彩優美　重量最輕
葺土無用　凍害絶無
葺方簡易　吸水殆無
製品統一　雪止不要

セメント製瓦にあらず
申込次第カタログ進呈

日本洋瓦株式會社 大阪出張所

大阪市北區曾根崎中二丁目
第一曾根崎ビルヂング内
電話北(二一五五一)六番



建築ノ耐久ト美觀ハ屋根材料ノ撰定

KS式陸屋根地下室防水工事
太陽印アスファルトルーフキング
マルソイドルーフキング
テキサスルーフキング
各種アスファルトフエルト
耐酸性アスファルト工事
セメント防水劑マノール

見本型錄呈上

本店 大阪市西區江戸堀南通五丁目
電話土佐堀(二)二一六六番
～七一五四番

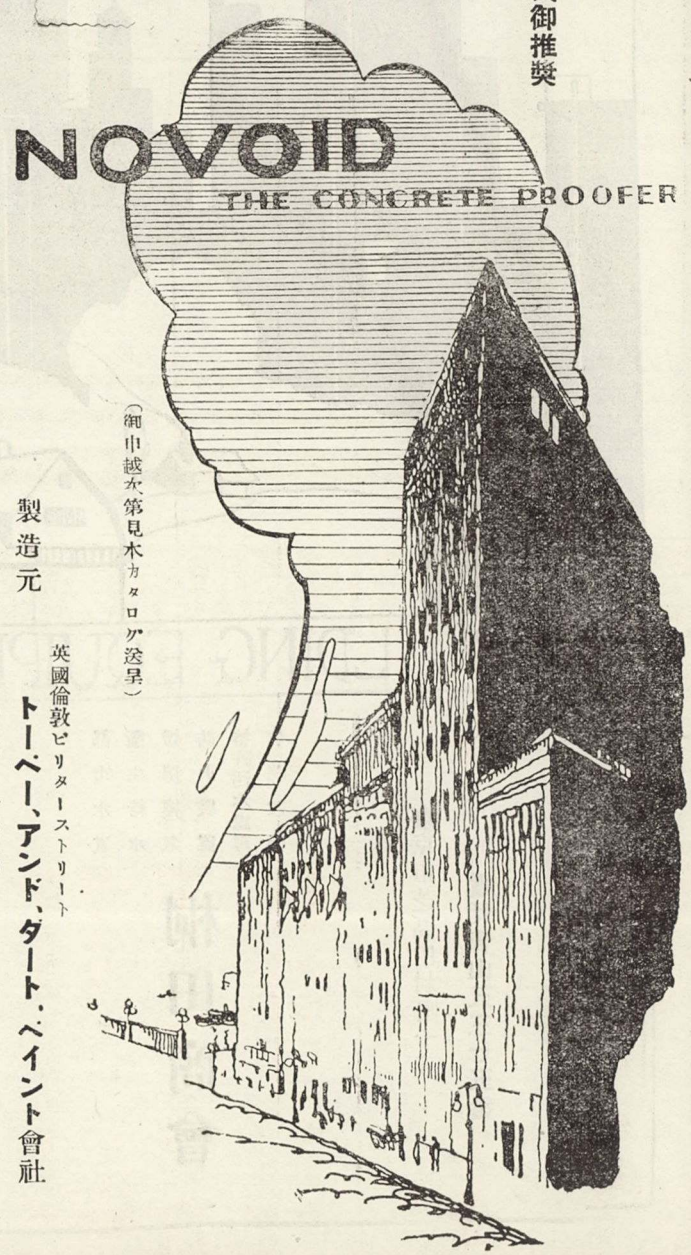
木下謹三商店

支店 東京市日本橋區濱町三丁目三番地
電話浪花二二五二番

石綿スレート(石綿盤)
天然スレート(石盤葺)
獨逸式セメント瓦
エキスパンデットメタルラス
淺野波形スレート
其他各種建築材料
販賣並ニ工事請負

土木界の權威
工學博士
吉本龜三郎氏御推奨

幾多防水劑中永遠ニ効果ヲ顯ハスモノ皆無ナル中ニ「ノーボイド」ハ吉本博士ノ詳細ナル調査ノ末大正十年輸入ヲ試ミ博士管掌ニ係ル總ユル工事ニ用ヒテ出色ノ價値アルコトヲ認メラレタル防水劑ニシテ本品ヲ得タルハ斯界ノ大福音ナリトノ御賞讃ヲ博セリ。



（御申越次第見本カタログ送呈）

英國倫敦ビリターストリート
トーベー、アンド、ダート、ペイント會社
製造元

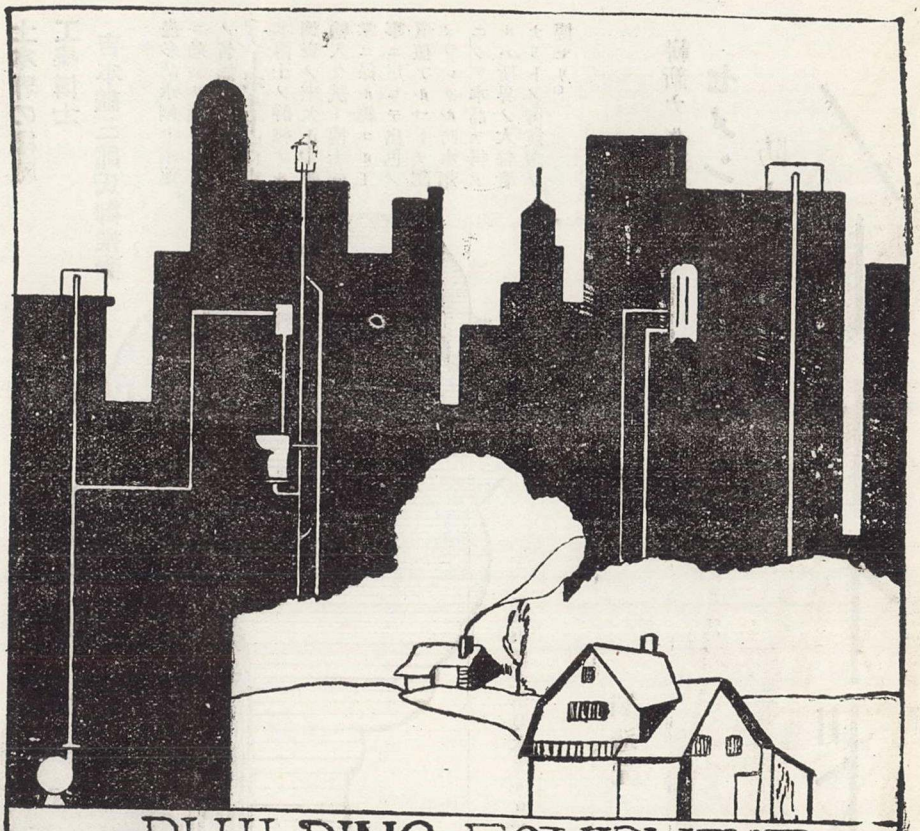
日、鮮、滿、一手販賣元
日本工具製作株式會社
兵庫縣明石市王子
電話 明石四五〇番
振替口座 大阪五四〇五六番

大阪出張所
大阪市南區安堂寺橋通一ノ二六
電話 大阪船場七七三

トンボ印（スコツブ、ショベル）（建築金物、土工用具）製造元

斬新ナル理想的
セメント補強劑
防水、耐火、耐酸、防油。

英國政府 專賣特許 第一四一一三號
日本政府 專賣特許 第四五二四九號



BUILDING EQUIPMENT.

都市水道
衞生給水
煖房換氣
防火裝置
特許汚水處理
病院設備

桐田商會

大阪市北區木幡町八二
電話北二七五一番

東京市芝區田村町十五
電話青山五三七五番



塗裝工事請負
計設ニ並
賣販料材

松本商店

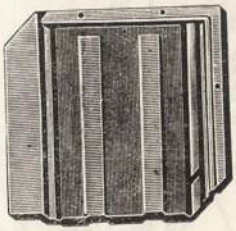
店主 松本壽美

大阪市北區宗是町十番地中島ビルヂング内

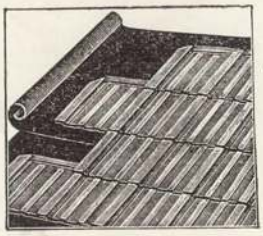
電話土佐堀二三九一・二一一五・三五〇九番

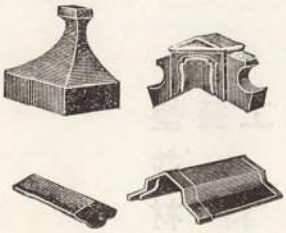
専賣特許

王子石綿スレート



桟瓦





鬼瓦　棟瓦　鬼瓦　巴瓦

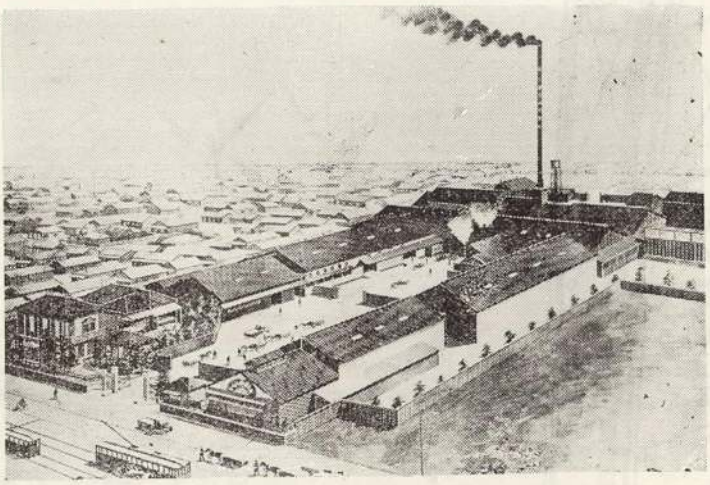
一、坪當リ　四十二枚葺
一、重量（一坪）　卅一貫五百目
（一枚）　七百五十匁
一、寸法　縦　一尺一寸
横　一尺一寸
厚サ　四分五厘
一、働キ寸法　縦　九寸
横　九寸五分
一、吸水　百分ノ五
一、色合　白色及紺紫色（チョコレート）
一、葺方　野地板ノ上ニフエルトヲ敷キ亞鉛引釘打止メトス

値段（當社渡シ一枚ニ付）	
品名	單價
桟瓦	貳拾壹錢
ケラバ	參拾六錢
唐草	四拾貳錢
棟瓦	六拾參錢

葺上屋根坪値段
一坪金拾壹圓五拾錢ヨリ
色物ハ白ノ一割高

新案登録

製瓦機販賣



セメント
ブロック各種

東京府王子町

王子製瓦株式會社

電話　特長　王子　二五五番
長王　一五五番
小石川　二一五七番

TRADE  MARK

高級藥掛タイル
專門工場

名古屋市東區中市場町三丁目

㊎ 佐治タイル合資會社

電話長 東 二二二三 六三三四 四四四一 五二一〇 番

工場電話 東 四三四一 二二 番

營業品目

鋼製組立家屋
鐵骨鐵筋
鋼製窓枠
鋼製扉
メタルラス及附屬品
道路鋪裝諸鋼材
鐵骨及コンクリート用塗用
其他

本社　神奈川縣川崎市田島町
工場　神奈川縣川崎市田島町
東京支店　東京市丸の内三菱廿一號館
橫濱支店　橫濱市太田町二丁目十五ビルディング

大阪市西區土佐堀通一丁目
大同生命ビルディング

日本トラスコン鋼材株式會社

電話土佐堀一七七六・三一〇三番

名古屋支店　名古屋市東區東新町萬歲ビルディング
神戸支店　神戸市榮町通二丁目山口ビルディング
廣島支店　廣島市紙屋町藝備ビルディング
福岡支店　福岡市博多上呉服町太平ビルディング

HEATING. VENTILATION AND PLUMBING.

營業科目

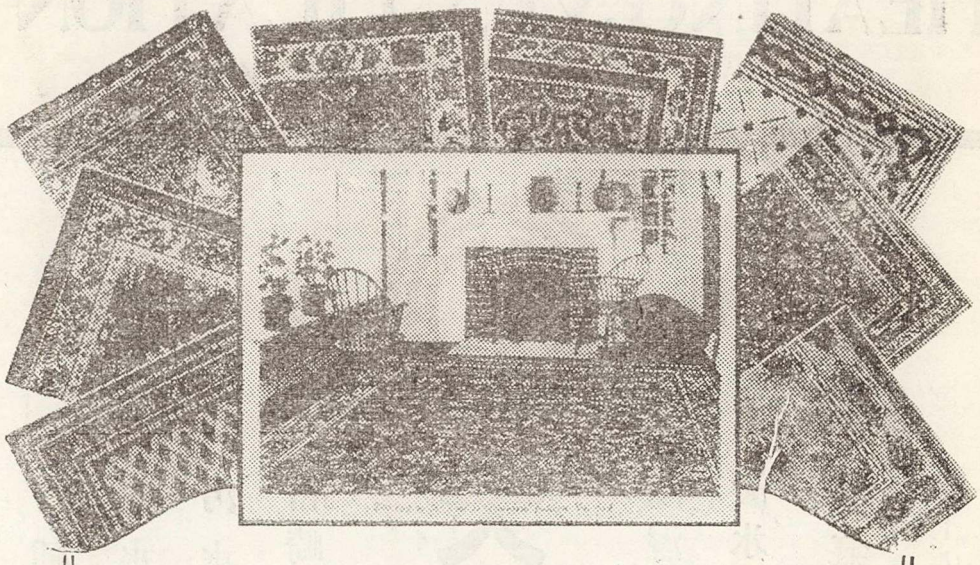
各種煖房裝置　換氣裝置
給水給湯裝置　衛生工事
汚水淨化裝置　蒸氣諸裝置
宮崎式ペーチカ

溫濕度調整裝置　冷房裝置
製氷及び冷藏裝置　除塵裝置
空氣輸送裝置　眞空掃除裝置

以上の設計、監督、工事請負竝ニ材料販賣

大和(ダイワ)工業株式會社

本社　大阪北區曾根崎上四丁目三三番一九二六・八七〇一北電話局
支店　東京市京橋區南傳馬町三丁目五番地（第一相互館二一六）電話局京橋三二三七番
（ワイダカサオ）略受語電　（ワイダイケウト）略受語電



大小色々

模様色合各種

山中支那緞通

寸法並ニ模様
特別御註文ニ應ズ

大阪市東區高麗橋一丁目
山中商會

Certain-teed

品質確實

價格至廉







サーテンティード 便利瓦（ルーフィング）

サーテンティード便利瓦の世界各都市代表的建物に使用せらるゝ所以のものは材料の精撰と製造法に宜しきを得如何なる氣候にも順應して其中心に軟質を保ち致命傷たる連日の焦天に善く堪へ永久の保存力を維持するにありリノリユーム同社の製品は質に於て和製品を凌駕すること數等價格又た至て廉なり

サーテンティード リノリユーム

日本總代理店

合資會社 **デゥエット商會**

東京市麹町區内幸町一丁目大阪ビル
電話銀座一〇八一番

大阪市東區今橋一丁目帝國ビル
電話本局三七四四番



製産額東洋第一
模範的品質優良

淺野セメント株式會社

資本金 壹億六百參拾壹萬圓
年產額 壹千貳百萬樽

本店 東京市麹町區永樂町
支店及工場 東京、門司、川崎
北海道、臺灣、大阪

大阪支店

營業所 大阪市北區堂島ビルヂング三階
電話 北三一九八番
工場 大阪市西成區津守町二九一
電話 櫻川 九〇八番 九三五番

品目
各國屋根瓦
各種色瓦
北國瓦
日本洋瓦

瓦

佐村木勝吉

營業
土管各種
甍、便器類
葺上及販賣
淺野煙突

大阪東區木材町十五番地
（入ヘ北詰東橋寺寳久）
電話東三六一〇番

噴霧塗裝請負

勞力の機械化は

工費半減・施工迅速・仕上優美

是非一度御用命を乞ふ

米國フーラー塗料會社
特約店

フーラー塗裝店

堺市遠里小野町三七〇
近藤製藥工場
電話 大阪・弐二七八
堺・九一

出張所

大阪市西區靱南通二丁目三六
電土佐堀㊦五六九

廣告主各位へ謹告！

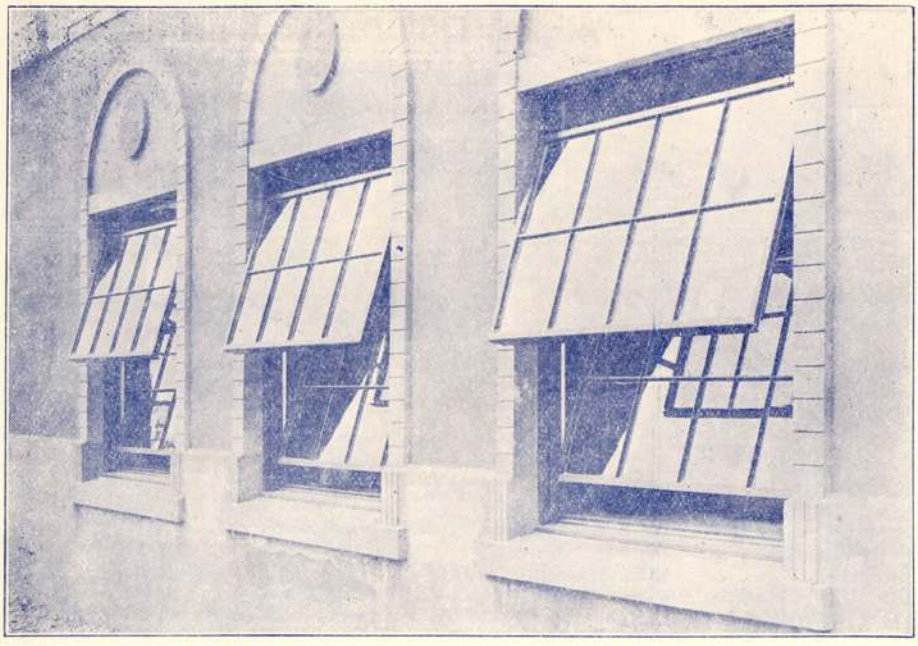
本誌編輯係

本誌の發展はお蔭を以て日を逐ふて盛大に向ひつゝありますことは各位へ對して感謝の外ありません。就きましては雜誌の內容も勢力の增大につれ益々改善を加へ殆ど寧日なき努力は續けつゝある次第であります。

同時に廣告面の體裁に於きましても常時研究を怠らず如何にして各位の收穫を大ならしめんとか云ふことに對して甚大の注意を拂つて居ります。

現在の廣告面は意匠文案共に歐米のそれに比べて尙幾多改善の餘地が有ると思はれますので若し廣告主各位より御相談のある場合には當係は欣んで御相談に應じ廣告の主旨をして充分徹底せしめることを御援助したいと思ふものであります。

御遠慮なく御相談あらんことを謹告いたします。



大阪 造幣局 内ノ一部（弊社製瀬川式スペシアルバランスサッシユ）

確信ヲ以テ斯界ニ推奨ス „瀬川式スペシアルバランスサッシ"

採光 骨格ハ強度ノモノニシテ細ク、從ッテ採光面積大ニシテ且優美ナリ

換氣 開閉任意ニシテ、硝子面ノ傾斜ハ漏斗狀トナリ、換氣全ク理想的ナリ

防風水 上下及兩横共サッシガ外枠ヘ喰込ム裝置ナレバ風水共絕對浸サズ

耐久 強固ナル『レバー』ニテ連續ス故ニ丁番、ワイヤロープ使用等ノ缺點ヲ見ズ、我國ニ於ケル獨創的考案ニシテ、保健上、能率增進上合理的鋼鐵製建具ナリ

東京建鐵株式會社大阪支店

營業部 大阪市東區高麗橋東詰 電東 5566.2823
工場 大阪市東成區中濱町 電東 3508.3468
本社 東京市三河島
名古屋市中區西瓦町
出張所 福岡市春吉一番町
函館市會所町

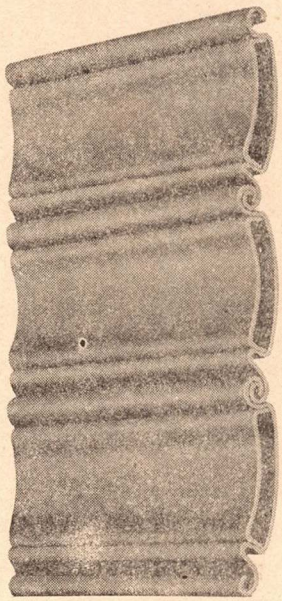
SUDZKI'S PAT. **HOLLOW SHUTTER** PAT. AP'L'D TO THE U.S.A.

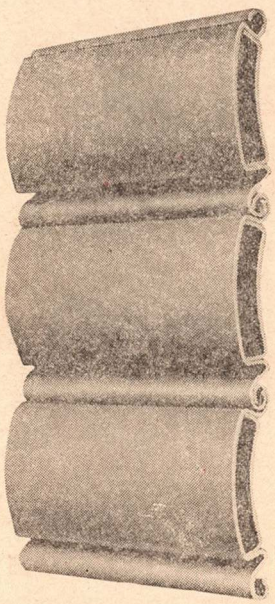
米國特許出願

日特
英許

鈴木式ホロー・シヤター

（最新式シヤッター）





大正十五年英國政府へ特許出願中の處昭和二年二月十七日第二六五八七三號を以て特許々可せらる

ホロー式の特徴

1 ホロー式は權威ある火熱注水試験の結果熱の傳導の遅いのか著しい特徴であつた。
2 ホロー式は高尚優美、堅牢無比、强盜、暴漢をして意氣銷沈せしむ。
3 ホロー式をDREADNOUGHT SHUTTERと英國人は評した。
4 ホロー式は卷徑が少さく素直に釋れて下る。
5 講鐵は特許鈴木式二重底レールを附屬せしむ。
6 錆止ペンキは浸漬式を用ゆ。
7 機械は精巧、函蓋は、美麗周圍と調和す。

ホロー式取付實例

◉取付場所及時日
◉名古屋市御器所町
南消防署
◉昭和貳年參月廿五日
1 ホローシヤタア三號型鎖引
2 巾 二十二尺 高 十二尺出來上り寸法
3 シヤタア重量二百貫、シヤフト壹百貫 合計三百貫
4 錆止ペンキ浸漬式を用ゆ
5 上下時間 輕く手繰て廿秒
◉取付けの結果◉
丈夫で、輕くて、工合のよいので皆な喜歡してゐる

建築金物商會

東京 巢鴨町宮下一五四五—一五五五
支店 京都市東山通月見町二